

ニュース 日本介護福祉士会

偶数月15日発行

発行所/日本介護福祉士会
〒105 東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門ビル4階
(福利厚生センター内)
電話・FAX (03) 3507-0784
編集室/〒432 浜松市佐鳴台6-25-22
電話・FAX (053) 448-2627
発行責任者/田中雅子

『日本介護福祉士会』設立

2月12日

この日こそひとつに

介護関連で初の職能団体として 資質及び職業倫理の向上をめざす

二月十二日(土)記念すべき日本介護福祉士会設立総会が、東京都千代田区にある東京海上ビルにて開催された。この日は日本中が大寒波に見舞われ、陸空の交通網が大混乱、東京都内も二十五年前の大混雑、二十三センチも



設立総会会場 (東京海上ビル新館11階)

二月十二日(土)記念すべき日本介護福祉士会設立総会が、東京都千代田区にある東京海上ビルにて開催された。この日は日本中が大寒波に見舞われ、陸空の交通網が大混乱、東京都内も二十五年前の大混雑、二十三センチも

多様化する社会のニーズに応えたい



田中会長

二月十二日、この日、東京市内は二十五年振りの大雪となり、大内閣内閣府の呼びかけがきっかけとなり、職能団体「日本介護福祉士会」の設立を目指すことになった。

日本介護福祉士会 田中 雅子

り、設立総会が盛大に開催されました。これは大変喜ばしいことである。今後「日本介護福祉士会」を核として、夜勤明けや休

来賓祝辞

厚生大臣 大内啓伍

本日、日本介護福祉士会設立総会が、晴れて設立の運びとなり、平成五年度にはこれを踏

場、介護を必要とする現

につなげるものと確信して

ります。

今後、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

場、介護を必要とする現

都道府県名	氏名	所属(勤務先)	都道府県名	氏名	所属(勤務先)
青森	工藤 久	下田クリニック	静岡	小栗 栄子	静岡ユニオンセンター
岩手	萩原 正子	聖愛園(特・養)	大分	大井 隆子	大阪新生苑(特・養)
秋田	南 正子	(前)松本市中央保健センター	香川	石橋 真二	清水園(牧場)
山形	田口久美子	子子子(特・養)	高知	山本 幸子	日高村社会福祉協議会
福島	田中 雅子	松寿荘(養)	福岡	荒牧 トシ子	北九州社会福祉協議会
茨城	岡田 史朗	松寿荘老人ホーム(特・養)	山口	山下 千鶴子	光風台病院
栃木	山崎 吉原 久子	奥湯村園(特・養)	宮崎	鬼束 幸子	宮崎社会福祉協議会
群馬	小島 つる江	山ノ内社会福祉協議会	徳島	石井 綾子	徳島の里(特・養)
千葉	山崎 イチ子	(前)各務原市福祉課	香川	渡辺 武子	梅光苑(特・養)

の各分野で活躍しておられる。制度発足から七年目を迎える。このように資格を取得される方が年々増加する中で、介護福祉士自身の職能団体を設立することは、関係者から強く望まれておりました。この度の設立の運びとなりました。日本介護福祉士会は、正にこのよう

な期待にこたえるものであり、資質の向上、専門性の追求、職業倫理の確立、社会的信頼の高揚を図ることを目的とし、今後、我が国の介護サービスの水準を高めるため、介護福祉士の皆様の力を始め、関係者の皆様の御熱意の賜物であり、介護福祉士制度が着実に発展していかれるものと確信しております。

改めまして申し上げます。世に於いて、我が国は二十一世紀前半には、世界でも未だ経験したことのない本格的な高齢・小児社会を迎えることが見込まれており、国民が心豊かに安心して暮らせる社会を建設することが重要な課題となっております。

と、このように、急速な高齢化の進展や障害者の増加などにより、介護を要する人々の増加が見込まれる中で、より専門的な知識や技術と、豊かな人間性を備えた人材を養成・確保していくことが重要な課題となっております。

祝電

衆議院議員 榎屋敬悟、衆議院議員 松田岩夫、社会保険庁長官 末次彬、日本社会事業大学長 三浦文夫、社会福祉士会会長 吉村勲生、社団法人日本理学療法士会会長 奈良典、全国老人保健施設協会会長 矢内伸夫、シルバーサービス振興会理事長 上村一、厚生省児童家庭局長 瀬田公和、厚生省健康政策局長 真野章、全国ホームヘルプ協議会会長 松原良子、神奈川県老人ホーム協会会長 押川泰夫、専門学校日本福祉学院 対馬昭徳、中央総合福祉専門学校 吉田宏岳、東京海上火災保険株式会社 河野俊二の各氏から寄せられた(敬称略)

先程来、各先生方からお話がありまして、超高齢社会へ向かっております日本社会、家族構成が、ますます難しい状況を迎えてまいりまして、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

り、お一人暮らしの方々が、あ

特別寄稿

日本介護福祉士会の発足を祝して

全国老人福祉施設協議会

会長 石井 岱三氏

二一世紀の日本国における... 社会的問題と見なされること

「社会福祉事業に従事する者... 補うことの生活習慣は、介護



日本介護福祉士会設立総会

創設と展望

理事の長尾立子さんは厚生省... 小川さんのお話を聞き



（司会）京極氏

最初にシンポジストのご紹... 厚生年金事業振興副理事

長尾立子さんは厚生省... 小川さんのお話を聞き



辻氏

創設まで... シンポジストでご登壇頂

さ、それを強化していか... 始められたところでした

創設後... 何故困難な中であって制度

丁度その時期に斎藤厚生大... 臣が、かねて持論とされて

介護福祉士... 制度のあゆみ

長尾氏... 介護福祉士の仕事は新しい

専門職... 団体の役割

宇野氏... この介護福祉士制度は、社

障害者を始めとして社会... 家庭教育によって育てること

が、人の育成は学校教育や... 家庭で日常生活の中で、親

が、それを強化していか... 始められたところでした

創設後... 何故困難な中であって制度

丁度その時期に斎藤厚生大... 臣が、かねて持論とされて

介護福祉士... 制度のあゆみ

長尾氏... 介護福祉士の仕事は新しい

専門職... 団体の役割

宇野氏... この介護福祉士制度は、社

対象とする人間そのものは... やはりトータルとして受け止

東日本学園大学... 看護福祉学部長

中島紀恵子氏... 一九九四年二月二日、こ

の資格は、介護福祉士にな... 「自分のため、地域の「皆

の「資格であり、皆の「資... ついては「皆の「思いを

の「資格であり、皆の「資... ついては「皆の「思いを

の「資格であり、皆の「資... ついては「皆の「思いを

の「資格であり、皆の「資... ついては「皆の「思いを

の「資格であり、皆の「資... ついては「皆の「思いを

の「資格であり、皆の「資... ついては「皆の「思いを

の「資格であり、皆の「資... ついては「皆の「思いを

・新潟県代議員 金岡恵美子さん(特養養母)

専門性を確立し、地位向上を図りたい。資格をもつていなければ、といわれる資格にしたい。各県の情報が伝えられると期待している。

・長崎県代議員 佐藤廣子さん(ヘルパー)

長崎県介護福祉士会が発足しあわただしかったが、もっと勉強しなければと思いついて参加した。今後高い研修を望んでいる。

・東京都一般参加者、中山かおるさん(家政婦)

設立総会の情報が数日前まで分らなかった。家政婦はヘルパーと同じ仕事でも身分的に低く見られがち。介護福祉士の地位向上を強く期待する。

二月十二日、東京海上ビル

日本介護福祉士会設立まで

支えてきた二人の厚生省専門官



「今、三つの祈りを送りたい」

健康政策局計画課保健指導室 保健指導専門官 丸山美知子

介護福祉士会が自己研鑽、相互研鑽を行ってこれたと思うが、「今日からは利用者、家族が国民に対して常にプロとして責任をもつて介護を提供する」という全国的介護福祉士が一体となつて社会に宣言する日としていただきたい。

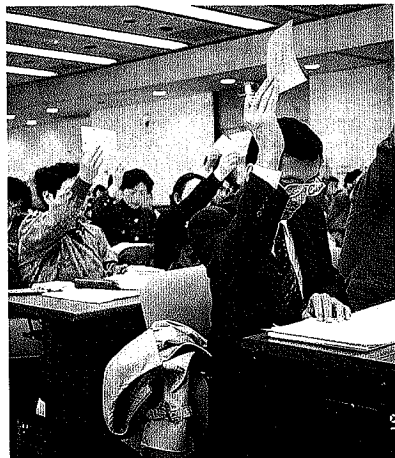
二月十二日(土)、二十五年度の大雪の中、日本介護福祉士会が誕生しました。このことは制度発展上大きな意味があります。昨年七月の介護福祉士会のヒアリング以降、設立準備にあたりさまざまな形で関わりあっていた一人として、感慨深いものがあります。設立総会終了後に、一言挨拶を求められたので、私は会員の皆様にも三つのことを祈念させていただきます。

「今日のこの日を」

・介護福祉士のプロとして出発日としていただきたい。これまでも個人あるいは県

設立総会 会員参加者の熱い期待

「雪の混雑をのりこえて」



十一日十七時に特急寝台車乗車。しかし、広島をすぎたあたりで止まってしまい十日の七時頃まで、車内で過ごし、二十三日頃までは、汽車も時刻どおりに進んでいない。窓の外をみたら一面の雪です。「富士」ではこれ以上進めないとのことで、広島まで引き返して、新幹線にいくことになりました。乗ったのは十一時すぎ、十六時ころには東京につけるとのこと。皆の思いは(総会に間に合うだろうか)でした。

東京は、近年にない大雪で、二十三センチの積雪との車内放送、新幹線も時刻より三、四時間の遅れと駅につくたびに時間が下がっています。もう間に合わないのだろうか。窓の外は雪が激しく降っている。十八時十分、やっと東京着、とにかく早く会場へ。四



25年ぶりの大雪(会場横の道路)

日本介護福祉士会の設立、総会がおこなわれ多数の方の参加により設立されました。また、二十二日頃までは、汽車も時刻どおりに進んでいない。窓の外をみたら一面の雪です。「富士」ではこれ以上進めないとのことで、広島まで引き返して、新幹線にいくことになりました。乗ったのは十一時すぎ、十六時ころには東京につけるとのこと。皆の思いは(総会に間に合うだろうか)でした。

東京は、近年にない大雪で、二十三センチの積雪との車内放送、新幹線も時刻より三、四時間の遅れと駅につくたびに時間が下がっています。もう間に合わないのだろうか。窓の外は雪が激しく降っている。十八時十分、やっと東京着、とにかく早く会場へ。四

日本介護福祉士会の設立に想う

社会保障研究所主任研究員 柄本 一三郎

高齢化の進展、障害の重度化、生活の質や心の豊かさの重視などにより、今後ますます保健・福祉の一体的なサービスの提供が求められており、関係職種との連携及びチームメンバーの一員として介護の専門性を発揮できるような、介護福祉士の皆様が、資質の向上を目指してより専門性の高い知識と技術に裏付けられた、心豊かな実践者として活躍されることを願っています。

併せて、日本介護福祉士会が国民の福祉増進のために、関係職種団体並びに関係団体の方々とともに十分にその役割を果たしていくことを心から期待しております。

(前・厚生省社会、援護局長 設人材課介護技術専門官)

収入の部		支出の部	
科目	予算額	科目	予算額
会費収入	32,000,000	会議費	7,560,000
入会費	20,000,000	総会費	1,000,000
会費	12,000,000	事業費	10,840,000
		研修費	2,500,000
		広報費	5,840,000
		調査費	1,500,000
		開発費	250,000
		社会地位向上事業	750,000
		事務所関係費	5,800,000
		事務通信費	2,000,000
		通人件費	1,800,000
		組織活動費	2,500,000
		基本財産形成費	4,000,000
		予備費	300,000
合計	32,000,000	合計	32,000,000

平成6年度事業計画

1. 研修事業

- ① 全国研修会(1泊2日)
- ② 在宅介護のための介護技術の工夫
- ③ 介護関係文庫・情報、介護機器等カタログの収集・紹介

2. ブロック研修会(1日研修)

- ① 実施時期 関東ブロック(6月実施予定)
- ② 九州ブロック(8月)
- ③ 中国・四国ブロック(9月)
- ④ 東北ブロック(10月)
- ⑤ 東海・北陸・近畿ブロック(平成7年2月)

3. 調査研究事業

- ① 会員実態調査の実施(2年毎)
- ② 資質向上など社会的要請に対応するための特別調査の実施(随時)
- ③ 実践研究報告編集
- ④ 介護技術並びに介護機器の開発・工夫
- ⑤ 工夫した介護機器の開発

4. 広報事業

- ① 「日本介護福祉士会ニュース」の発行
- ② タブレット版4ページ月発行
- ③ 地域社会へのPR活動
- ④ 実践研究報告集の発行
- ⑤ 社会的地位向上事業

5. 社会的地位向上事業

- ① 介護教室や介護電話相談等の全国一斉開催
- ② 全国レベルの行事に「日本介護福祉士会」がホランティアとして参加、専門的介護知識・技術を提供
- ③ 介護福祉士活動の社会的PR対策
- ④ 介護福祉士をめぐり人々にたいするPR活動・パンフレット等の作成
- ⑤ 組織育成・強化事業
- ⑥ 未設置県への介護福祉士会設置の働きかけ
- ⑦ 各県介護福祉士会の会員の拡大と組織の育成・強化

シンボルマーク 募集

日本介護福祉士会は、会のシンボルマークを募集しています。会員はもとより、全国一般の方からの応募も大歓迎。介護のイメージにふさわしい、明るくあたたかなデザインを期待しています。シム切りは七月末まで、サイゼ・色は自由。

あて先は、〒150 東京都港区虎ノ門一丁目二十一番七号 日本介護福祉士会 事務局まで

第3回理事会大阪にて開催 (3/6)

事業の実施へむけて着実な歩みへ

第1回ブロック研修会は新潟に決定 6/11(土)
 全国研修会は大阪にて 11/25(金)~26(土)

去る三月六日(土)大阪府松原市の「大阪新生」にて第三回理事会が開催され、平成6年度各委員会の事業の具体化、組織の育成と強化事業について、事務所開設について等、熱心な討議がなされた。決定事項は次のとおりである。

各委員会事業決定事項

- 広報委員会
 - 広報委員は、田口久美子(神奈川県)、小栗米子(静岡県)、小島つる江(長野県)、岡田史(新潟県)の四名の理事が担当。本誌「介護福祉士会ニュース」は偶数月十五日発行。各県二名ずつの県支部取材スタッフと広報委員をもって編集システムを組み、全国各支部からのきめ細かな情報収集と情報掲載をめざすことになった。
- 研修委員会
 - 全国研修会は十一月二十五日(金)~二十六日(土)十五時まで一泊二日をもちいて開催。場所は、「宝塚グランドホテル」宝塚市栄町三十一。
 - 一日目は講演会、懇親会。二日目は実践発表を中心とした分科会を予定。開催要綱はニュースに掲載していく予定。
 - 調査研究委員会
 - 委員は、石橋真二(香川県)、山本幸子(高知県)、杉原良子(岡山県)が担当。八月頃アンケート実施。全国における介護福祉士の現状や問題点を把握し今後の研修に役立て、会の一層の充実を図る基礎資料とするを目的として実施。
 - 社会的地位向上委員会
 - 担当は、鬼束幸子(宮崎県)、山下千鶴子(長崎県)、荒牧トシ子(福岡県)、尾前文明(大分県)の四名の理事。
 - 全国一斉に介護に関するイベント等実施予定(日時未定)
 - 介護開発委員会
 - 担当委員は、荻田英治(岩手県)、工藤久(青森県)、宮澤重幸(埼玉県)の三名の理事。
 - 使い易さ、安全性、衛生面、経済性等の視点から市販の介護用品や機器をチェックして介護機器点検表を作成していく予定。

日本介護福祉士会の新事務所開設

待望の新事務所が、東京都港区虎ノ門一丁目二十一番七号、虎ノ門NNビルに開設された。新事務所は、東京都港区虎ノ門一丁目二十一番七号、虎ノ門NNビル四階(福利厚生センター)内。電話は、(03)3530-7107、FAXは同番号。

事務局では、全国の会員諸氏が気軽に立ち寄ってくれる事を願っている。

開業は四月十一日から。

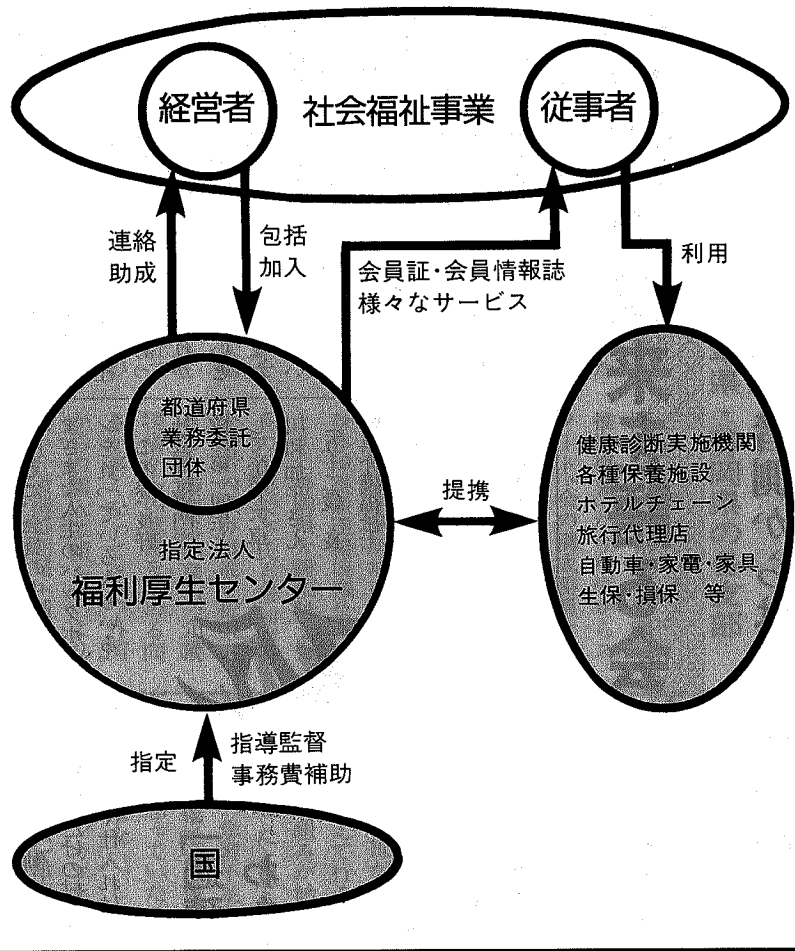
日本介護福祉士会

福利厚生センターが事業開始

東京虎ノ門NNビル4階、4月スタート

福利厚生センターのしくみ

福利厚生センターは包括加入方式をとっている。
 社会福祉事業経営者が、すべての従業者を対象としてセンターと契約を結び、職員1人あたり1万円の掛金を負担すると、従業者が会員として登録され、それぞれに会員証が発行されるシステム、パート職員でもよい。
 全国すべての会員が気軽に利用できるよう都道府県ごとに業務委託団体を設けている。



福祉にたずさわる人々の豊かな毎日のために

急速な高齢化と少子化の進展に伴い、国民の福祉に対するニーズが、より高度化・多様化し、増大している中で、家族形態の変化、生活の質や心の豊かさの重視、労働力人口の減少によって、今後福祉にたずさわる人々の確保は難しくなる傾向にある。

平成五年四月には、「社会福祉事業に従事する者の確保をはかるための措置に関する基本的な指針」が告示され、社会福祉事業経営者は、福利厚生センターの積極的活用をはかり、国はその事業の推進をはかっていることを明記された。

そこで、職業選択や定着のための基礎の一つとなっている福利厚生の実現をはかり、未来の福祉社会を担う人々を確保することを目的に、福利厚生センターは設立された。

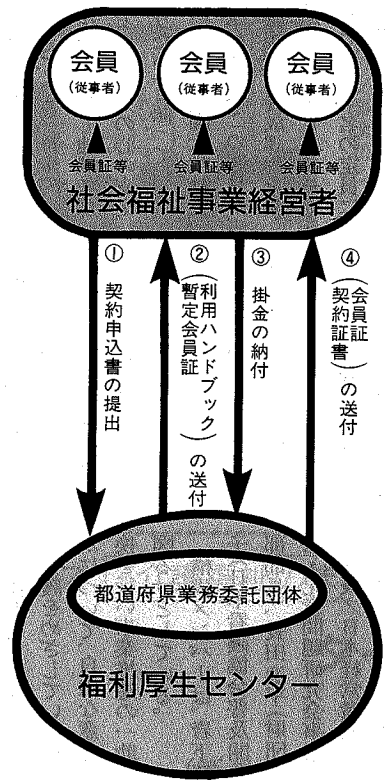
一、イキイキと暮らすために必要なのは、まず健康です。

二、安心とゆとり、それがゆたかな生活の基本です。

三、心も体もリフレッシュ。レジャーは生活のヒタミンです。

四、あなたの元氣と笑顔のために、もともと応援したい。

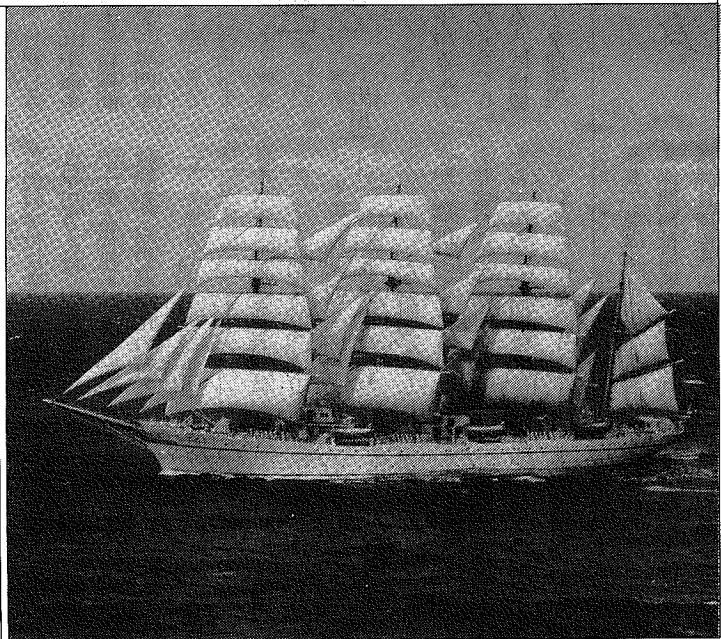
加入契約方法



福利厚生センターの四つのメッセージである。全国規模組織であるので全国一律のサービスが提供されることができ、地域にメリツトがある。地域によるサービスの格差がないよう配慮されている。又それらの情報を充分活用できるように、それぞれのサービスの利用方法を細かく解説したパンフレットの発行、隔月発行の情報誌によるホットな情報の提供と、いろいろな工夫があり常にきめ細かいサービスが受けられる体制が整っている。加入の方法については右図により説明してあるが社会福祉事業経営者の多数の参加によって、介護の現場で働く介護福祉士のより充実したライフワークの実現を期待している。

福利厚生センターの評議委員となっている日本介護福祉士会副会長の田口久美子氏(神奈川県)は、「福利厚生センターの各事業は、福祉施設で働く私達介護福祉士にとっても、仕事への意欲も高まり励みとなるでしょう。ぜひ事業主の方々が、この事業の目的に賛同していただけるようお願いしたい」と語っている。

1994 START



福祉にたずさわる皆様を、バックアップするために誕生。
 福利厚生センター、いよいよ申込受付開始です。

サービスメニューの一部をご紹介します。

- 健康支援事業……成人病予防健診費の補助、全国284カ所のスポーツクラブ利用料の割引、医療関連の相談に24時間対応する健康電話相談、患者移送サービス、etc.
- 生活支援事業……自動車・家電製品・家具・自転車・住宅をはじめ様々な商品の割引価格での提供(通信販売もいたします)、美容室・エステティックサロンの料金の割引、入会とともに団体保険をセット、etc.
- 余暇支援事業……パッケージツアー(国内・海外)を会員特別価格で提供、一流ホテル(国内・海外)の宿泊料の割引、リゾート施設(国内・海外)・マリクラブ・乗馬クラブ・テニスクラブ・レンタカーの割引、etc.
- その他の支援事業……情報満載の会員情報誌(カラー)の発行、介護機器・通信講座・福祉関係図書等の割引、海外研修ツアーの企画、etc.

全国で唯一、厚生大臣が指定した
 社会福祉法人

福利厚生センター

〒105 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル4階 TEL.03-3592-6311(代) FAX.03-3592-6326

【全国に広がるネットワーク】各都道府県社会福祉協議会、共済会等47団体

第6回介護福祉士国家試験

5月30日 合格発表

受験者数13,402人・うち7,041名合格

今春養成校卒業者もおよそ五、〇〇〇名
 社会ニーズに応じ多様な職業に

入学定員総数は、九、一五二名(昨年に比し)

平成六年五月三十日、第六回目の介護福祉士国家試験の合格発表があった。試験は、去る二月二十七日(日)に筆記試験、四月二十四日(日)に実技試験が全国十一会場で行われた。今回の受験申し込み者は一四、五三五人。このうち受験者数は一三、四〇二人、合格者は七、〇四一名。これで国家試験合格者は累計で二九、七六六名となった。県別にみると合格者が多いのは、

養成校	入学定員
1年課程 24校	685名
2年課程 137校	8,122名
3年課程 6校	300名
4年課程 2校	45名
169校	9,152名

東京都(五〇九名)、北海道(三三三名)、神奈川県(二九八名)、福岡県(二七六名)、兵庫県(二四二名)受験者数は昨年の一一、

協会施設
 会長私的懇談会

「介護の未来を語る会」

4月26日 第1回会合

全国老人福祉施設協議会
 会長・石井啓三氏の呼びかけによる私的懇談会「介護の未来を語る会」第一回会合が、四月二十六日(火)

午後六時から東海大学校友会館「霞」にて開かれた。この会の趣旨は以下のとおり。昨今新聞等において、「社会的介護」や「介護保

険」といった用語が頻りに登場する様になった。また、国民的な課題として「家族の誰かに介護が必要となった場合、どうすればよいのか」といった深刻な不安もある。厚生省では「二十一世紀福祉ビジョン」において「国民誰もが身近に、必要な介護サービスをスムーズに手に入れられるシステムづくりの必要性を提唱しており、高齢者の介護対策について総合的検討を行うため「高齢者介護対策本部」を設置したところである。

シリーズ 介護福祉士への道(その一)

四年生大学(東京都)・日本社会事業大学

(熊本県)・熊本学園大学

― 熊本福祉学部介護福祉士養成課程 ―

介護福祉士の資格をとるためには厚生省指定の養成校を卒業するか、国家資格に合格するか、どちらかの方法がある。養成校にもいろいろあるが、ここには紹介しない。養成校には、従来、「老人福祉コース」「障害福祉コース」「家族福祉コース」の三つがあったが、

平成四年の四月、社会福祉学部児童福祉学科に新たに定員二十五名の介護福祉コースを開設。児童福祉学科には、従来、「老人福祉コース」「障害福祉コース」「家族福祉コース」の三つがあったが、

教師の牧田弘子さんは、「学校説明会に行っても、情報処理のところがほとんどは私のところは順番待ち。社会が不況ということもあってか、同じ二年ならこれからの時代の資格を得たいと思う人が増えている。また、それだけでなく、介護という職業が社会の中で認められてきたということの現われでもあるでしょう」と語り、就職先もリハビリセンター、デイサービス、老人保健施設、民間事業所など多様化してきている。

人を相手とする介護福祉士ゆえに、会員の中にはさまざまな人生のバックボーンを負っている人もいます。この春、長野社会福祉専門学校(一三三)の卒業生として卒業した早川和加子さん(五十一歳)は、野原介護福祉士(会員)もそのひとり。昭和十四年、長野の山村「中条村」に生まれた早川さん(五十一歳)は、五人姉妹の三女であつた。



「過疎の村がわたしの仕事場」

― 早川和加子さん(長野県) ―

次いで両親を亡くし悲しみの極を味わった。五十歳を機に自分の生き方を積極的に変えようと決心。専門学校の卒業と同時に、早川さん(長野県)は、現在建設中の「老人福祉センター」に就職が決定。過疎化の村と共に生きる早川さんはセンター開業を心待ちにしている。通りに通って来た苦しさからつちかた、忍耐力を養った。

設(一名)、県職員(一名)、専門学校教員(一名)。このうち、川崎市にある特別養護老人ホーム「すみよし」に就職した東京都出身の鈴木朋子さん(二十二歳)は、「老人ホームでのアルバイトがきっかけで、老人福祉に興味を持ち介護福祉コースを選びました。四年の専門課程では、実習で学んだ事を整理・復習でき、とても勉強になりました。このホームは開設後間もなく、入居者もまだ六名。どうすれば皆さんに「自分の家のように思っていた」だけの日々考え、介護した。

毎日です」と、就職二ヶ月の様子を語る。その他、東京都の特別養護老人ホーム「緑寿園」に就職した有井志保さんは、「入居者の笑顔がたまらなく好きで、一緒にいかに楽しむか」をいつも考えている。将来的にはヘルパーとして地域で暮らしている老人の心の支えになりたい」と語っている。また、熊本学園大学社会福祉学部では、この四月から介護福祉士養成課程を開いた。新入生オリエンテーションでは二十名の定員に対し「一四〇名の希望があつた。希望者には特別養護

「介護福祉士」の英文は「Certified Care Worker」

厚生省が介護福祉士を英文で書く場合は、「Certified Care Worker」(Certifiedは証明された、保障されたの意)。ドイツには州政府資格として「Altenpfleger」(老人介護士)という資格があるが、日本の様に介護に関する広い職業領域にたざさわる国家資格としての「介護福祉士」制度は世界ではじめて、

「あんな店の人はい昔からなかった。すると、そらばんがヘタでよくまらなくなった。箱の中に何人入ってそらばんははじか知らないか。まらなくなったのかね。うその様な本当の話、そんなお年寄りとの出会いがまた楽しい。

療技術短期大学助教授、佐川英美(日本労働組合総連合会政策部門生活福祉局部長)、鈴木五郎(全国老人クラブ連合会事務局長)、田中雅子(日本介護福祉士会会長、栃本三郎(社会保障研究所主任研究員)、藤原房(ジャーナリスト)、松田鈴夫(評論家)、山谷えり子(サンケイリビング新聞社編集長)。又、オプザバーとして山崎史郎(厚生省・高齢者介護対策本部事務局

に沿った懇談がされる模様。田中雅子会長が出席。私的懇談会とは言い、こうした機会に介護福祉士側から参加するのははじめて。日本介護福祉士会という職能団体が設立されたために他ならず、介護の質を高める為に介護福祉士たちへ各界からの期待が、大きいかをひしひしと感じ、身が引きしまる思い」と田中会長は出席の感想を述べている。第一回目の会合では、顔合わせが主。次回からテーマ

「レシート」長野県はホームヘルパー発祥の地。ホームヘルパーとして長い間仕事をしていた会員も多い。小島つる江さんは、現在長野県介護福祉士会の会長でもあるが、ヘルパー歴二十四年の大ベテラン。多くのお年寄りとの出会いの中でエピソードは数え切れない。

かなり以前の話。買い物をしておつりとレシートを渡す小島さんに利用者者のTさんは、レシートの裏表をヒラヒラさせて怪訝そうに言う。「この紙は何だね」「これはね、レシートと言った買ったものを機械が計算して出してくるんだよ。説明する小島さんにTさんは「箱の中には何人入っているんだね」。「???」

「あんな店の人はい昔からなかった。すると、そらばんがヘタでよくまらなくなった。箱の中に何人入ってそらばんははじか知らないか。まらなくなったのかね。うその様な本当の話、そんなお年寄りとの出会いがまた楽しい。



「レシート」

未設置県に次々と設立への動き

すべての分野で働く 介護福祉士の参加へむけて

6月には兵庫県、埼玉県で設立総会

各県支部

二月十二日の日本介護福祉士会設立総会以来、来四ヶ月が経過。この職能団体としての設立は、福祉関係分野の各事業体や個々の介護福祉士へ予想以上の反響をもたらしている。

県支部未設置県に次々と動きを起すと共に、本部活動及び県支部活動への各界からの協力を得やすい

ものとし、「現任研修」や「一、二、三級のホームヘルパー養成研修講座」を県から依頼され、事業活動を開始した県や、会員数が倍増した県もみられる。

有資格者数一五〇〇名がある兵庫県では、去る六月五日(日)に、神戸市健康管理センターにて約二百名近い出席者をもって、兵庫県支部・兵庫県介護福祉士会が設立された。総会には、厚生省から、社会援護局施設人材課福祉人材確保対策室長の宮島俊彦氏が来賓として出席。また、一〇〇〇名の有資格者をもつ埼玉県でも十二日(日)埼玉県共済会館において埼玉支部・埼玉県介護福祉士会の設立総会があった。その他未設置県においても、すでに複数グループが自主的に種々な活動をしていて、統合し

て県支部設立へ準備を進めている県、また個々の有志者が設立へ呼びかけている県も設立への動きは様々であるが、日本介護福祉士会では、田中雅子会長及び各ブロックの五人の副会長を中心に、隣県の理事の協力を加えながら、未設置県における支部設立へ積極的に助言・協力していく。北海道・山形県・茨城県・石川県においても設立への動きがはじまっている。日本介護福祉士会では、あくまでも職能団体としての認識の上に、日本介護福祉士会会則が承認されている事や、職域・職種に関係なく介護福祉士が加入を得られること等を支部設立の基本的条件としている。公的介護保険が検討されている中高年齢社会への対応の制度やシステムの拡充と同時に、それを担って立つ介護福祉士

最近「環境」という言葉をよく耳にします。それは「環境汚染」「環境破壊」とか、「環境保護」といった、主として自然を対象とした環境です。

また、「施設のよりよい生活環境」「高齢者にやさしい住まいの環境づくり」など、介護の現場でも自然環境とは異なる「環境」がしばしば登場します。では、その環境とは一体何でしょうか?

4月、あちこちで桜の花が満開の頃、私の勤務する施設利用者全員で花見に出かけました。私の担当

だれかさんが 笑った 「環境ということ」

第1回

身体障害者診療施設
「しあわせの里」勤務
夫 溝部 一夫
(福岡市)

したAさん(男性)は四肢マヒで、施設の中では食事以外の大半はベッドで過ごします。会話によるコミュニケーションは殆ど不可能です。

「いから」というもの終始笑顔です。普段なら苦痛を訴える手段として大声をあげるのやよとのAさんが、桜の木の下でニコニコ笑っていました。

Aさんにとって、環境の変わった一日でした。天井や窓の外を見つめて過ごす日々とは違った環境でした。しかし、Aさんの笑顔が誘ったのは外の景色や環境の変化だけではない。私には見えません。いつの間にか笑顔が忘れて仕事をしています。何か飲みたいものはないかと尋ねると、「紅茶」と、こぼれ返事がかえってきました。Aさんの笑顔は帰りの車中でも続いている。

各県の介護機器開発推進 事業へも参加

岐阜県・静岡県各支部



6月5日設立された兵庫県介護福祉士会設立総会
(神戸市健康管理センター)

高山にある岐阜県工業試験場では、「身体障害者のための椅子」を開発する研究を四月二十四日に開催し、岐阜県介護福祉士会へも参加要請があり、山崎イチ子名誉会長はじめ七名が参加。四時間にも及ぶリポートキングがされた。製作側の研究スタッフは、介護現場のニーズが現場を知らない製作側と大きな隔たりがあることに気づき、継続的に意見交換の場を持つていく事となった。椅子の素材はぬくもりの感じられる地元名産の木材使用。又、静岡県においても「静

資格者の七八割加入への望む声も多く、すべての都道府県での支部設立と、有標となっている。

資力者の七八割加入への望む声も多く、すべての都道府県での支部設立と、有標となっている。

自立

シリーズ 介護福祉のまど①

タイ編

(新潟県) 岡田 史



昭和六十三年十月二十四日のことである。新潟市の海外派遣職員研修団の一員として参加した私は老人ホームの職員としてぜひ社会福祉施設を訪ねたいという希望を出しこの日実現したのであった。時間的には短く、単なる旅行者でしかなかったがその日の印象は大きなものであった。

当時、我が国においてははやつとノーマライゼーションという言葉が意識され始め、福祉が多様なニーズに添って行こうと様々な取り組みが始まった頃であったと思う。私自身日頃の学習不足から「タイの福祉は後進国の福祉」と思っていたこと、訪問したバンカエホーム(老人ホーム)は短時間にも関わらず大きな福祉

マイ・ペン・ライ (気にしない)



この老人ホームのサービスは、施設ケアと在宅ケアが用意されていた。施設は三つのタイプがある。まず、無料のタイプ、これは誰からも支援を得られない老人が対象。次に有料のタイプ、六〇歳以上の女性で心身に健康で(痴呆や伝染性の病気にかかってなく)家が無く、一緒に暮らす家族親戚がいないか、家族と一緒に住んでいても幸せに暮らす事の出来ない人であること。

自立は余暇活動への参加が一つのバロメーターとなると思われる。ここにおいては、様々な余暇活動がプログラムとして準備されていた。ペタンク(高齢者向けスポーツの一種)、レクリエーション体操、園芸、手芸が主なメニューである。それぞれ好みのものに参加し、手芸ではそれらを販売することが行われていた。日本からの訪問者も多い様で、日本語で「コンニチハ」「アリアガトウ」を連発して販売する人あり、せつせと物作りし動いている人あり、単なる生き甲斐サークルとは言い切れない表通

的体験を与えてくれた。このホームは、一九五三年よりバンコク市パシチャロエン区において運営されている公立で最初の老人福祉施設である。歴史的にみてタイにおける老人福祉は家族単位で行われ、年長者を敬うことは社会的価値があると思われてきたが、当時発展途上国の中で最高の経済展開をしていたタイでは、その価値観を特に都市部において変遷させつつあった。

職員は、所長、ソーシャルワーカー、看護婦、非常勤医師、非常勤理学療法士、寮母や他のスタッフである。利用者数は三四〇名、正規職員は一八名であった。入所の基準は、六五歳以上の男性、六〇歳以上の女性で心身に健康で(痴呆や伝染性の病気にかかってなく)家が無く、一緒に暮らす家族親戚がいないか、家族と一緒に住んでいても幸せに暮らす事の出来ない人であること。

自立は余暇活動への参加が一つのバロメーターとなると思われる。ここにおいては、様々な余暇活動がプログラムとして準備されていた。ペタンク(高齢者向けスポーツの一種)、レクリエーション体操、園芸、手芸が主なメニューである。それぞれ好みのものに参加し、手芸ではそれらを販売することが行われていた。日本からの訪問者も多い様で、日本語で「コンニチハ」「アリアガトウ」を連発して販売する人あり、せつせと物作りし動いている人あり、単なる生き甲斐サークルとは言い切れない表通

在宅サービスは、高齢者の福祉サービスセンターが併設され、地域の六〇歳以上の男女に対し開かれていた。治療リハビリ、レクリエーション、カウンセリングのサービスを利用したり、ホームの催しに参加したりすることが出来る。また、家庭訪問が定期的にホームのスタッフによって実施されており、老人や地域にたいして必要なサービスや、アドバイスをしている。

職員は、所長、ソーシャルワーカー、看護婦、非常勤医師、非常勤理学療法士、寮母や他のスタッフである。利用者数は三四〇名、正規職員は一八名であった。入所の基準は、六五歳以上の男性、六〇歳以上の女性で心身に健康で(痴呆や伝染性の病気にかかってなく)家が無く、一緒に暮らす家族親戚がいないか、家族と一緒に住んでいても幸せに暮らす事の出来ない人であること。

自立は余暇活動への参加が一つのバロメーターとなると思われる。ここにおいては、様々な余暇活動がプログラムとして準備されていた。ペタンク(高齢者向けスポーツの一種)、レクリエーション体操、園芸、手芸が主なメニューである。それぞれ好みのものに参加し、手芸ではそれらを販売することが行われていた。日本からの訪問者も多い様で、日本語で「コンニチハ」「アリアガトウ」を連発して販売する人あり、せつせと物作りし動いている人あり、単なる生き甲斐サークルとは言い切れない表通

「21世紀の介護を考える」をテーマに 第二回関東・甲信越ブロック研修会

六月十一日、新潟市にて熱気の中で開催

日本介護福祉士会の初めての研修事業である第一回関東甲信越ブロック研修会が、さる六月十一日(土)新潟市にある新潟市万代市民会館にて二百八十名の参加のもと盛大に開催された。

日本介護福祉士会の年間研修の共通テーマである「二十一世紀の介護を考える」をもちにプログラムが進行、開会に際しては、新潟県民生部長真島福一氏より祝辞があった。最初に「厚生行政の動向」について厚生省施設人材課指導係長岩井勝弘氏の説明。基調講演は介護福祉士国家試験委員長であり、日本社会事業大学学長の三浦文夫氏。昼食後のブロック各県代表の実践研究発表では、長野県の榎本弘子会長が「デイサービスにおける入浴事業の問題点と課題」を、神奈川県民生部長真島福一氏より祝辞があった。最初に「厚生行政の動向」について厚生省施設人材課指導係長岩井勝弘氏の説明。基調講演は介護福祉士国家試験委員長であり、日本社会事業大学学長の三浦文夫氏。昼食後のブロック各県代表の実践研究発表では、長野県の榎本弘子会長が「デイサービスにおける入浴事業の問題点と課題」を、神奈川県民生部長真島福一氏より祝辞があった。



ブロック研修会場 (新潟市万代市民会館)

がんばっています — 県支部活動 —



- 長野県介護福祉士会**
 - 長野県建築士会女性部会との意見交換会
 - 五月二十日、長野市にて。各県代表者八名の出席で、高齢化時代の住宅や公共施設を考えると意見交換会が開催された。
 - 県臨時総会「日本介護福祉士会設立記念セミナー」
 - 四月十六日、白田町にて。講師は厚生省社会援護局施設人材課介護技術専門官、丸山美知子氏、佐々広域行政事務組合長三浦大助氏。
- 広島県介護福祉士会**
 - 県理事会
 - 四月二十六日、広島県社会福祉会館にて。
 - 県調査研究委員会
 - 五月十一日みつきり苑にて。
 - 県広報委員会
 - 五月十二日、三次市社会福祉協議会にて。
 - 県研修委員会
 - 五月十三日、広島県社会福祉協議会にて。
 - 県通常総会及び研修会
 - 六月二十五日、広島県社会福祉協議会にて。
- 静岡県介護福祉士会**
 - 県第一回研修会
 - 六月二十五日、沼津市労働会館において。
 - テーマ「安全で安心な介護のために—感染症を持つ利用者への対応—」
 - 講師 富士私立中央病院 萩原政雄院長
 - 西部地区学習会
 - 五月二十一日、市福祉文化会館「介護福祉の原点と介護展開記録方法」
 - 講師 小栗栄子(県会長)
 - 中部地区・福祉講演会
 - 「死に場所づくり」
 - 八月六日、東海軒会館。講師 ゆきくに大和総合病院 斎藤芳雄氏
 - 第二回県研修会
 - 「精神介護—来談者中心カウンセリング技法—」
 - 九月十日、浜松市民会館。
- 山口県介護福祉士会**
 - 新入会員歓迎セミナー
 - 講師 関西学院大学 浅野 仁氏
- 福岡県介護福祉士会**
 - 四月「実技講習会」開催
 - 六月五日 定期総会開催
- 富山県介護福祉士会**
 - 第二回定期総会
 - 五月二十一日、県民会館において。
 - 記念講演 講師 鎌田ケイ子氏(東京都老人総合研究所)
 - テーマ「看護と介護の協調」
 - 介護技術指導者講習会
 - 七月九日・十日、流杉老人ホームにおいて
 - 講師 山崎イチ子(岐阜県)
- 千葉県介護福祉士会**
 - 第二回研修会
 - 六月二十五日、松戸市民会館において。
 - テーマ「あなたの心と体のリフレッシュ」
 - 講師 千葉県介護福祉士会 会員
- 新潟県介護福祉士会**
 - 新人歓迎研修会
 - 七月九日、上越総合福祉センターにおいて。
 - テーマ「介護のプロをめざして」
 - 講師 柴田光栄氏(モアクリエイション)
 - 講師養成講座
 - 六月四日、新潟市社会福祉センターにて。
 - ヘルパー三級過程の「対人援助技術」の講師養成。

この第一回関東甲信越ブロック研修会開催については新潟県介護福祉士会の会費が総出で参加し成功裏に導いたものである。参加者は、長野県より三十五名、神奈川県より十四名、山梨県より十名、千葉県より十名、また遠く、岩手県、山形県からの参加も見られた。会場では、他県同士の交流の輪が広がった。

また当日会場には、NTTの福祉通信機器の展示があり、老人や障害者向けの電話機に実際に触れて、熱心に説明を聴いている参加者の姿も見られた。

十一月二十五日(金) 十一月二十七日にかけて宝塚市「宝塚ランドホテル」にて開催予定の第一回全国研修会では、一分野十五例の実践研修発表を計七十五例予定。現在、各県に一県十五例づつの事例提出を協力依頼。ターミナルケア、痴呆性老人ケア、精神障害者ケア、介護技術改善に関するケア、QOLを旨とするケア等の五分野。

五月十四日(土)、第四回理事会が、東京虎ノ門の日本介護福祉士会事務局にて開催された。主な決定事項は次のとおり。

● 全国一斉介護相談の日
九月十一日(日)各県同時実施

● 中国・四国ブロック研修会
中国・四国ブロックの第一回研修会は、九月十七日(土)高知市本町三丁目「高知新聞放送会館」にて開催予定。

九月十七日(土) 中国・四国ブロック研修会
中国・四国ブロックの第一回研修会は、九月十七日(土)高知市本町三丁目「高知新聞放送会館」にて開催予定。

調査研究事業
調査研究事業委員会では、全国の介護福祉士の置かれている現状・問題点を把握するために、日本介護福祉士会会員の実態調査を二年に一回実施。今年度は八月にアンケートを会員に配布の予定。事務局から各県支部に用紙はまとめて送られる。十月末にアンケート回収。十一月末に調査結果集約。調査結果は、平成七年の二月頃、ニュースに掲載の予定。現在委員会での調査項目を検討中。

九州ブロック研修会
日程 ● 8月25日(木) 13時～26日(金) 12時
場所 ● 長崎ビューホテル 長崎市大浦町2-23 (0958) 24-2211
問い合わせ: 長崎県社会福祉協議会 福祉人材センター (0958) 46-8600

9月11日(日) 全国一斉実施予定

「介護相談の日」

各県支部同一番号で電話相談など

8月25日(木)・26日(金) 九州ブロック研修会は長崎市にて開催予定

9月17日(土) 中国・四国ブロック研修会は高知市にて予定



事務局だより
四月のニュースで会のシンボルマークを募集したところ、アイデア溢れるマークが事務局に寄せられているが、締め切りの7月末日まで、さらに多くの作品を期待しています。各県支部発送の手紙が、あて先不明で本部に届く。あて先の確認をして発送をお願いします。

特別講演は、講師として、日本介護福祉士養成施設協会の江草安彦氏を予定。シンポジウムのテーマは「保健・医療・福祉における介護福祉士の役割」としている。全国からの会員参加申し込みは、八月末までに県支部単位でまとめて事務局に郵送の方式をとる。事務局からは事前に各支部に申し込み用紙が送られる。

館・高新文化ホールにて開催の予定。午前中はテーマに沿った事例発表。午後十三時から十五時三十分までは、シンポジウムを予定。テーマは「介護福祉士の役割とは……」

調査研究事業
調査研究事業委員会は、全国の介護福祉士の置かれている現状・問題点を把握するために、日本介護福祉士会会員の実態調査を二年に一回実施。今年度は八月にアンケートを会員に配布の予定。事務局から各県支部に用紙はまとめて送られる。十月末にアンケート回収。十一月末に調査結果集約。調査結果は、平成七年の二月頃、ニュースに掲載の予定。現在委員会での調査項目を検討中。

九州ブロック研修会
日程 ● 8月25日(木) 13時～26日(金) 12時
場所 ● 長崎ビューホテル 長崎市大浦町2-23 (0958) 24-2211
問い合わせ: 長崎県社会福祉協議会 福祉人材センター (0958) 46-8600

日本介護福祉士会

高齢者ケアガイドラインに基づく

「高齢者ケアプラン策定指針」

— 厚生省冊子にまとめ六月刊行 —

去る六月十五日、厚生省は、「高齢者ケアプラン策定指針」を刊行。今後の高齢者介護に、より質の高いサービスが提供されるための指針を示した。平成四年より横尾和子、厚生省老人保健福祉局長の私的懇談会「介護計画検討会」(井形昭弘座長・国立療養所中部病院長)がケアガイドラインを検討していたが、六月に中間報告書を提出。これを基に指針が出された。

高齢者介護において、より質の高い介護サービスを提供するためには、適切な個別ケアプランが立てられているかがどうかにかかっている。しかし、介護の現場で働く多くの介護福祉士からも現場におけるケアプランの立てかたの未熟さ、不適切さが指摘されていた。今後は、現場におけるケアプラン作成時に基準ができたことになる。

高齢者ケアプラン策定指針は、マニュアル手法の基となる「高齢者ケアガイドライン」は、米国の開発されたRAI(注1)を参考に作成された。RAIに基づいたケアプランの策定は、米国ではナースがホーム入所者のほぼ全員に実施が義務付けられており、デンマーク、オランダ、イタリヤの三方国のモデル州の長期ケア施設において実用化、その他カナダ等八カ国にお

いても試験的導入が進められている。厚生省老人福祉計画課の原口真理長補佐は、この指針と介護福祉士の役割について、「このガイドラインは、患者・入所者に関する状況やニーズを把握し評価するために必要な認知能力、身体機能、精神、行動等に関する調査項目をまとめた「高齢者アセスメント表」と、把握された情報から、十八に分類された領域ごとに、ケアプランを策定する際に検討すべき課題や着目すべき点を提示する「問題領域別検討指針」からなっている。

①患者・入所者の観察などに基つき「高齢者アセスメント表」に記入を行う。②記入結果を問題領域ごとに整理する。これにより、当該患者・入所者に該当する問題領域が、自動的に選定される。③選定された問題領域について、ケアプランの策定の必要性を判断する。④医師、看護婦、介護職員等多様な職種が参加してケ

アセスメントを行う。⑤ケアプラン策定の結果に基づき「問題領域別検討指針」を照合してケアプランを策定する。⑥ケアプランを介護担当者(ケアプラン)に周知し、ケアプランに

基づき介護を行う。⑦ケアプラン策定の結果に基づき「問題領域別検討指針」を照合してケアプランを策定する。⑧ケアプランを介護担当者(ケアプラン)に周知し、ケアプランに

基づき介護を行う。⑨ケアプラン策定の結果に基づき「問題領域別検討指針」を照合してケアプランを策定する。⑩ケアプランを介護担当者(ケアプラン)に周知し、ケアプランに

基づき介護を行う。⑪ケアプラン策定の結果に基づき「問題領域別検討指針」を照合してケアプランを策定する。⑫ケアプランを介護担当者(ケアプラン)に周知し、ケアプランに

基づき介護を行う。⑬ケアプラン策定の結果に基づき「問題領域別検討指針」を照合してケアプランを策定する。⑭ケアプランを介護担当者(ケアプラン)に周知し、ケアプランに

9月11日(日)「全国一斉介護相談」の受付電話 全国统一ダイヤルに決まる

設置場所は県庁所在地・面接相談も
☎0120-008-294
フクシ

日本介護福祉士会は、毎年九月頃に「介護相談」の日をもつて、介護福祉士関係する相談を全国一斉に受け付けることとしたが、今年は九月十一日(日)。県支部のある各県にすべて電話を設置。電話番号は全国统一の「0120-008-294」。支部未設定県はもとより全国どこからかけても、一番近い設置場所にかかる。設置場所は各県の県庁所在地を予定。又、電話相談だけでなく面接相談にも応ずる。面接相談希望者は、各県の介護福祉士会又は、県社会福祉協議会に場所確認のうえ訪れる方が良

い。相談は、介護方法や、福祉サービスの利用、資格取得などに関するものが多く予想されるが、介護用品や住宅改造に関することなど幅広く受け付ける予定。

倫理綱領策定委員会の検討進む

日本介護福祉士会では、設立時からの課題でもあった、介護福祉士の倫理綱領策定のために委員会を作ったが、既に三回の検討会を開催。策定委員会は、田中雅子(日本介護福祉士会会長)を委員長に、五名の各ブロック担当の委員で組織される予定。



富山県介護福祉士会が、実施した介護技術講習会

求められる介護研修指導者

— 各県支部の取り組みに期待 —

高齢者保健福祉推進十ヶ年戦略に基づいて、厚生省はさまざまな事業実施要項を各都道府県知事及び指定

されてきたホームヘルパーの育成を二万人と倍増。この計画に基づいて全国各地で活発に開催されているのが、「ホームヘルパー養成研修の一級、二級、三級過程」。実施主体は、社会福祉協議会、全国農業協同組合生活協同組合、健康保険組合、民間事業所などさまざま。今年度からは家政婦を対象に各県にある介護労働安定センターに、この二級過程を実施するよう労働省から通達が出された。病院の付き添い婦禁止に伴い家政婦の労働対象が在宅介護に向けられること予測からその質の向上を図ろう

といたもの。ところが主催者側が頭を悩ますのが講師の選定。介護福祉士は本来習得すべきすべての課題に精通し、その指導もできるなければならないが、指導力まで身につけている介護福祉士はまだまだ少なく、早急に指導者養成が望まれる。福岡県介護福祉士会では、県内六地区で開催される三級過程に十七名の会員を講師として送り出している。新潟県、富山県の各介護福祉士会も会員向けに指導者養成講座を開催、講師派遣の準備をしているが、今後各県支部の取り組みも活発化が予想される。



刊行された高齢者ケアプラン策定指針

「求められる介護研修指導者」各県支部の取り組みに期待。高齢者保健福祉推進十ヶ年戦略に基づいて、厚生省はさまざまな事業実施要項を各都道府県知事及び指定されてきたホームヘルパーの育成を二万人と倍増。この計画に基づいて全国各地で活発に開催されているのが、「ホームヘルパー養成研修の一級、二級、三級過程」。実施主体は、社会福祉協議会、全国農業協同組合生活協同組合、健康保険組合、民間事業所などさまざま。今年度からは家政婦を対象に各県にある介護労働安定センターに、この二級過程を実施するよう労働省から通達が出された。病院の付き添い婦禁止に伴い家政婦の労働対象が在宅介護に向けられること予測からその質の向上を図ろう

スクランブル

先日浜松市の建築士会の会合に呼ばれた。高齢者住宅や、障害者住宅について介護者の立場から話を聞いた。この中で、講演後話し合いをするうちに、介護経験のない建築士たちには介護者が介護するときの動線がイメージできないという事に気がついた。「トイレは玄関に近い方がいいか、部屋の中がいいか」等、右か左かと単純に図面化をしようとする。私は「建築士も介護者にとっては環境をつくるという介護者。その視点に立つ事が必要。介護者は基本を踏まえて個別介護を創造していく。建築士も同じではないか。まず陣書を持って生活すること。どんな動きなのかを、施設を見たり、実際に介護の実技を学んでみた方がいい」と話したら数日後、「言われる通りだ。ついには見学と介護について学びたい」と電話がきた。うれし

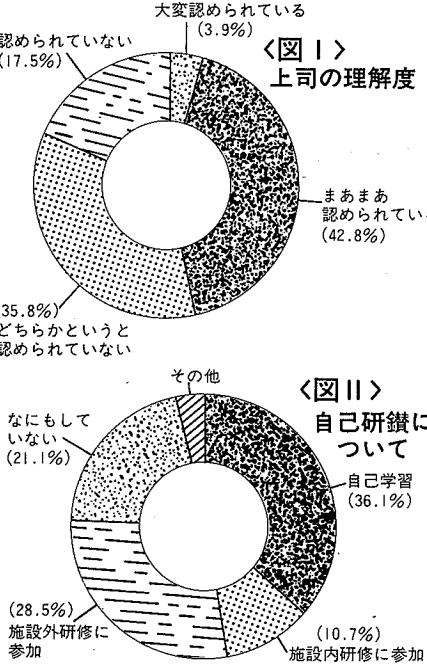
介護福祉士

財団法人・社会福祉振興・試験センター 『現任研修受講者意識調査』結果まとまる

二十一年が自己研鑽に消極的 今後の課題

今日、国民の介護ニーズは、ますます増大しているが、介護サービスの中心は担い手として介護福祉士に寄せられる期待は大きく、資質向上が一層求められている。社会福祉・医療事業団長寿社会福祉基金は、平成二年度から、福祉振興・試験センターに委託し、現任研修を実施してきた。平成五年度からは全国四十七都道府県で実施されたことを機に、受講対象者三千七百二十三名に対し「介護福祉士現任研修受講者意識調査」を実施し、その結果がまとまった。回収率は九十四・四％(三千三百六十七名)と高い回収率だった。

年齢をみると受講者の五十四％が四十歳以上であり、若年層は養成校卒、中高年層は国家試験合格者に多い。受講者の七十八％は国家試験合格者であり、資格取得については八十五％が自分の考えで取得している。受講者の六十二％が寮母(父)、二番目にホームヘルパーが続く。施設従事者には養成校卒業生、ホームヘルパーが続き、大要認められている(3.9%)、認められていない(17.5%)、まあまあ認められている(42.8%)、どちらかというように認められていない(35.8%)、なにもしていない(21.1%)、施設外研修に参加(28.5%)、施設内研修に参加(10.7%)、自己学習(36.1%)、自己研鑽について(10.7%)



「何もしていない」という回答は、認められるにふさわしい資格の内容を創つていくと共に自らの研鑽にかけまわらなければならないが、資質の向上に関する調査結果では、自己研鑽について「積極的にやる」という声も聞かれ、極的にやるという声も聞かれている。九州ブロック研修会／8月25・26日 シンポジウムは全体協議に



「今求められる介護の専門性を目ざして」

多様で充実した内容に期待 八月二十五、二十六日、長崎「エーテル」にて開催九州ブロック研修会、第一目を分科会とシンポジウム形式の全体協議。夜六時から交流会。第二目を特別講演会として「二十六日昼に終」の予定。分科会は六分科会に分け、第一分科会「地域の中の福祉保健、医療の供給体制」、第二分科会「職場における介護福祉士のあり方」、第三分科会「高齢化に伴う重度化への対応」、第四分科会「個別化による諸問題とコミュニケーション」、第五分科会「個別介護計画の実践と在り方」、第六分科会「介護技術の向上及び機械器具の実践」。

だれかさんが 笑った 「七色の眼鏡」



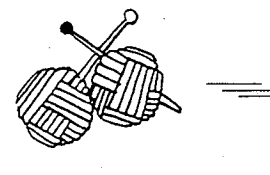
山口県 柳井市社会福祉協議会 (ホームヘルパー) 永田節子

Kさんは、今年八十五歳。外国生活も長かった。十八の年令の差があった夫が亡くなってから、子供がいなくなり、夫もあつた。うつ状態が続く。ヘルパー派遣となった。外国での良かった生活が頭から離れず、近所つき合ひも、親類も、わがままだと相手にならない。初回訪問で初めてKさんに会った時、大柄で背すじもピンとハイカラなKさんに「対象者はこの人だ。」と高い回収率だった。

「あれっ！何だのし...」と、夫の生活の思い出が、あんなに輝き、心にしめつけられる。眼鏡が七色に光っている。「あれっ！何だのし...」と、夫の生活の思い出が、あんなに輝き、心にしめつけられる。眼鏡が七色に光っている。「あれっ！何だのし...」と、夫の生活の思い出が、あんなに輝き、心にしめつけられる。眼鏡が七色に光っている。

「髪を拾ろい」 「お掃除だからねえ、私も一緒に拾ってみようかな」 「髪を拾ってきいれたお嫁さんの疑問がまたふくらんでいく。」 「あなたも拾ってみるか？」 「うん」 「一緒に拾ってしゃがみこんだ。」 「ブラッ、今度は何の研究かしら？」 「お茶を持ってきてくれたお嫁さんの疑問がまたふくらんでいく。」 「髪を拾ってきいれたお嫁さんの疑問がまたふくらんでいく。」 「あなたも拾ってみるか？」 「うん」 「一緒に拾ってしゃがみこんだ。」 「ブラッ、今度は何の研究かしら？」 「お茶を持ってきてくれたお嫁さんの疑問がまたふくらんでいく。」

髪の毛拾ろい



自立 シリーズ 介護福祉のまど② 日本編 (鎌倉市在住) 中田光彦

自立 シリーズ 介護福祉のまど② 日本編

お嫁さんと私は目が点になった。 「金持ちじゃなからって、髪の手だよ」 「なんだ、髪の毛が、ハハハ」 「Kさんは苦笑した。」 「ヨッコラショー」 Kさんは拾った髪の毛をテーブルに置いた。そして、麻痺した左手をかばいながら、テーブルとソファの間から顔を出して言った。 「つかまる所がたかさんあつて安心だわ」 * ケアの過程で、少しでも自立して生活するために、等という言葉をよく使う。それは生活を復たきりにするための援助と、ADLの向上を目的とする。また、



いつもお年寄りと仲良の中田光彦氏

少しでも生活を自分で維持してもらうため、残存能力を発揮できるように援助してあげることが大切だ。しかしKさんは以前、オムツをしていて、入浴・食事も全面介助であった。手足の力はそれなりにあるのだから、トイレへの歩行練習・お風呂への健康浴・タオルを持つことも、食事でも箸を持つことも、提案したがる。最近では金持ちが多いわね。 「髪を拾ってきいれたお嫁さんの疑問がまたふくらんでいく。」 「あなたも拾ってみるか？」 「うん」 「一緒に拾ってしゃがみこんだ。」 「ブラッ、今度は何の研究かしら？」 「お茶を持ってきてくれたお嫁さんの疑問がまたふくらんでいく。」 「髪を拾ってきいれたお嫁さんの疑問がまたふくらんでいく。」 「あなたも拾ってみるか？」 「うん」 「一緒に拾ってしゃがみこんだ。」 「ブラッ、今度は何の研究かしら？」 「お茶を持ってきてくれたお嫁さんの疑問がまたふくらんでいく。」

中田光彦プロフィール 1955年10月12日、北海道小樽市生まれ。 淑徳大学社会福祉学部卒業後、特別養護老人ホームの生活指導員として勤務。 1990年3月退職、現在フリー。 淑徳大学・サンシャインビジネス社会福祉専門学校、講師。 鎌倉市社協登録ヘルパー。 他に、講演・執筆・相談で全国を走りまわっている。 著書 「今をときめいて」 きらら書房'89 「老人介護のあそび学」 リブリオ出版'91 「増補版 ついで・ひらめき・無計画」 簡井書房'94

がんばっています —各県支部活動—

各県活動 これからの予定

滋賀県介護福祉士会

●滋賀県介護福祉士会
十月十五日、午前十時より長寿会福祉センターにて内容は講演及び研究発表。講師 人間介護の根本目標 講師 社会福祉法人宇治福祉園理事長 杉本一義氏。

静岡県介護福祉士会

●静岡県介護福祉士会第二回研修会
九月十日(土)午前十時

山口県介護福祉士会

●新入会員歓迎会
八月二十七日午前十時より山口市防長青年館にて開催。講師 関西大学教授 浅野仁氏「喜びと生きがい」の援助。

全国の会員へ呼びかけ 『宝塚で会いましょう』



井原慶子研修委員長

今回の全国研修会を中心と
なして計画を進めている
日本介護福祉士会・研修委
員長の井原慶子氏(大阪介
護福祉士会会長)は次の様
に全国の会員に呼びかけて
いる。
「第一回の全国研修会へ
の期待が高まってきており
ますが、準備も着々と進み
具体的な細目が決まってい
ました。特に分科会におい



十二時まで事例研究発表。
午後一時から三時半技術研
修。講師—来談者中心カウ
ンセリング創始者の中村喜
久子氏
「介護における受容的接
遇」—来談者中心カウ
ンセリングを用いて介護利用者
ニーズ把握と自立援助。

新潟県介護福祉士会

●県社協主催三級ヘルパー
講習会講師派遣
七、八月上越、長岡、新
潟各市において開催される
研修会への講師派遣の依頼
を受け、各地域の会員がそ
れにあたる。

埼玉県介護福祉士会

●第一回介護福祉士研修会
九月二十五日(日)一時
半より浦和市市民会館にて。
埼玉県老人福祉施設協議会
会長の石井三三氏と共栄学
園短期大学教授の泉 順氏
の講演会。

各県活動報告

山口県介護福祉士会

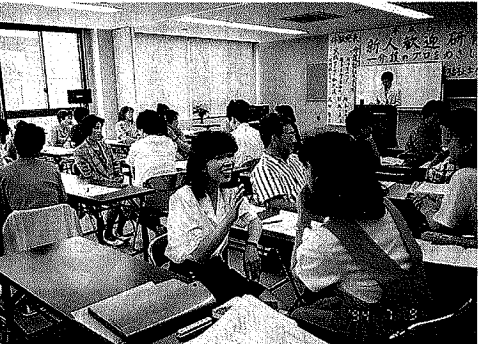
●通常総会・記念講演
四月十日、山口県社会福
祉会館大ホールにて、会員
百六名の参加で開催された。
総会、日本介護福祉士会
副会長の井原慶子氏より、
「日本介護福祉士会設立の
意義と将来の展望」と題し
て講演。ついで、コンチ
ネンス研究会の西村かおる
氏の「失禁ケアについて」
と題した記念講演があった。
失禁に対する認識とケアす
る上で具体的な対応の仕方
(言葉、気持ち、着脱)が
説明され、また尿失禁は
老人になってからの問題で
はなく、若い時から骨盤底
筋を強化していく事の必要
性が語られた。

新潟県介護福祉士会

●新人歓迎研修会
七月九日上越市総合福祉
センターにて開催された。
資格取得後三年未満の介護
福祉士を対象で、若い力が
はじける楽しい研修会とな
った。講師は経営教育コン
サルタントの柴田光栄氏、
「福祉職における接遇マナ
ーについて」と題し、介護
福祉士の存在理念と経営理
念、行動理念がこの資格の
イメージを作るという講演。先
輩介護福祉士の体験発表に
基づき、六月三日新潟市社会福祉
センターにて「対人援助技
術」の講師養成のため。講
師は河渡病院PSWの、横
山直子氏。社会福祉援助技
術についての基本を学ぶ。

静岡県介護福祉士会

●第一回研修会
六月二十五日沼津市労働



新潟県介護福祉士会 7月9日新人歓迎研修会

続き、今回合
格した新人介
護福祉士が実
技セミナーを
経て、合格に
至るまでの努
力の話しをし、
取得から本
当の学習であ
ると言う決意
を語った。
●講師養成講
座
六月三日新潟市社会福祉
センターにて「対人援助技
術」の講師養成のため。講
師は河渡病院PSWの、横
山直子氏。社会福祉援助技
術についての基本を学ぶ。

静岡県介護福祉士会

●第一回研修会
六月二十五日沼津市労働



静岡県介護福祉士会 第1回研修会

●静岡県介護福祉士会中部
支部「福祉講演会」
八月六日午後三時より、
静岡市「東海軒会館」にて。
静学科教授 秋山智久氏の
講演とグループ討議。
●実技指導者研修
七月九・十日、流形老人
ホームにて。講師は岐阜県
介護福祉士会会長、山崎イ
チ子氏。介護概論から介護
実技まで指導法を学習。日
頃自己流になりがちな介護
の基本を見直すよい機会と
なったという参加者の声か
聞かれた。

富山県介護福祉士会

●実技指導者研修
七月九・十日、流形老人
ホームにて。講師は岐阜県
介護福祉士会会長、山崎イ
チ子氏。介護概論から介護
実技まで指導法を学習。日
頃自己流になりがちな介護
の基本を見直すよい機会と
なったという参加者の声か
聞かれた。

平成6年度第1回全国大会研修会 宝塚市 実施要項決まる

21世紀の介護を考える

保健・医療・福祉の連携における介護 福祉士の役割と介護サービスの標準化

1. 主旨 本研修会は、21世紀の介護ニーズに的確に対応するため、介護福祉士の実践における介護技術の開発と専門的知識の研究を通して質の向上をはかる。
2. 主催 日本介護福祉士会
3. 後援
4. 期日 平成6年11月25日(金)～11月26日(土)
5. 会場 宝塚市栄町3-10-1 ☎(0797)87-1111 (代表)
宝塚市栄町3-10-1 ☎(0797)87-1111 (代表)
6. 参加予定人数 500名
7. 日程

11月25日	受付	12:30～13:30	
	会長挨拶	13:30～13:40	
	「福祉の動向」	13:40～14:20	
	特別講演	14:30～15:30	厚生省社会援護局施設人材室長 宮嶋俊彦氏
	シンポジウム	15:40～17:30	川崎医療福祉大学学長 日本介護福祉士養成施設協会会長 江草安彦氏
	シンポジスト		「保健・医療・福祉における介護福祉士の役割」
			全国老人福祉施設協議会会長 石井三三氏 平成帝京短大助教授 山崎摩耶氏 (看護・介護福祉学科教員) 天本 宏氏 天本病院院長 老人の専門医療を考える会会長 村田幸子氏 NHK解説委員 田中雅子氏 日本介護福祉士会会長 杉本一三郎氏 社会保障研究所主任研究員 橋本一三郎氏
11月26日	懇親会	18:00～21:00 (全員宿泊)	
	分科会		
	研究発表	9:00～12:00	
	(休憩)	12:00～13:00	
	討議	13:00～14:30	
	第1分科会		『ターミナルケア』 松尾周子氏
	第2分科会		『痴呆性老人の理解と対応』 大阪市立弘済院付属病院精神内科医長 小林敏子氏 大阪市民政局医務官
	第3分科会		『介護技術改善事例』 舟木美砂子氏 舟木義肢専務取締役 作業療法士
	第4分科会		『QOLの向上』 簡井孝子氏 全国社会福祉協議会研究員
	第5分科会		『在宅福祉と地域におけるケースマネジメント』 白澤政和氏 大阪市立大学教授
	〈休憩・移動〉	14:30～14:40	
	全体会		各分科会まとめの発表(各5分) 全国研修委員配分 14:40～15:10 助言者総評 15:10～15:40 (各5分)
	閉会挨拶	15:40～16:00	近畿圏会長 来年度全国大会場所発表 アンケート収集
	解散		

中国・四国ブロック研修会

『介護福祉士の役割とは』

9月17日 高知市高新文化ホール

中国・四国ブロック研修会
会費は、サプティマに、「QOL」を支えるサービス向上を
目指して」とし、広島県・
山口県・香川県・高知県の
各会員を対象に開催予定。
会員外の参加も、参加料三
千五百円にて可。当日は、
来賓に高知県知事、高知市
長を迎え、厚生省より行政
説明のあと、日本介護福祉
士養成施設協会会長、江草
安彦氏の基調講演、午後は
老人福祉施設、在宅福祉、
障害者福祉、老人保健施設
の各分野より担当員から研
究発表。問い合わせは高知
県介護福祉士会まで。
☎0888(0)756331

北海道 東北ブロック研修会

10月29日(土)

10:00～16:00

岩手県水産会館(盛岡市)にて
『基調講演と実践発表会』
講師・杉本一三郎氏
問い合わせは(0197)35-2852 聖愛園(秋田まで)

日本介護福祉士会



宣伝カーを先頭にパレードをする宮崎県

9月11日
全国一斉介護相談

23県にて実施 社会の理解が拡大

日本介護福祉士会は、九月十一日(日)、会設立後初めての「全国一斉介護相談」を実施した。当日実施した県支部は、青森、岩手、埼玉、千葉、神奈川、新潟、富山、山梨、長野、岐阜、静岡、滋賀、大阪、岡山、広島、山口、香川、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎の二十三県。

PRがまだ十分でなかったため電話件数は多くはなかったが、今回の実施には、各県・実施場所の市町、各種団体やマスコミが全面的に後援協力をしてくれたことが多く、又、チラシ配

東京都・徳島県に10月介護福祉士会設立

九月末において日本介護福祉士会の県支部は、二十三府県に設立されているが、未設置県においても着々と設立への動きが進められていく。東京都介護福祉士会が有資格者数三万六千五百名

「さわやか財団」設立へ

「さわやか財団」の設立準備を進めているが、その基金募集のために「さわやか準備財団」を十月に設立する予定。役員には、石川忠雄(慶応義塾大学前学長)、磯邊律男(株式会社博報堂代表取締役社長)、大

全国老協が日本介護福祉士会へ賛助会員として入会

七月二十八日(東京)東京老協が、徳島県介護福祉士会も日本介護福祉士会の理事会の承認を持って県支部として登録される予定。

第二回介護の未来を語る会

七月二十六日(火)東京霞が関ビル内「東海倶楽部」が、第二回介護の未来を語る会を開催された。今回は「企業福祉と介護問題」に関するプロジェクト報告及び「在宅医療制度と老人福祉」についてリポート・意見交換がされた。

第一分科会

- 白木由美子(静岡)
- 保坂ひとみ(静岡)
- 今井悟(滋賀)
- 前川隆子(滋賀)
- 宮本久恵(大阪)
- 文植れい子(大阪)
- 広瀬征子(福岡)
- 工藤和子(福岡)
- 勝吉和子(福岡)

第二分科会

- 小野寺美代子(神奈川)
- 若杉喜久子(新潟)
- 三木弘代(新潟)
- 山下洋子(新潟)
- 井上栄子(新潟)
- 水谷愛子(新潟)
- 松本カズ子(新潟)

第三分科会

- 宮澤美栄子(長野)
- 長瀬良介(長野)
- 中村博道(静岡)
- 高部紀子(静岡)
- 森岡敏子(大阪)
- 吉野芳恵(大阪)

第四分科会

- 石橋英子(新潟)
- 市川文子(新潟)
- 金子智子(新潟)
- 澤田則子(新潟)
- 吉村一子(新潟)
- 秋吉牧子(新潟)
- 金丸美智子(新潟)
- 鍛冶きよみ(新潟)

第五分科会

- 春原利江(長野)
- 萩原久美子(長野)
- 伊藤智子(岐阜)
- 鈴木綱代(岐阜)
- 杉本春子(滋賀)
- 浜元文子(滋賀)
- 白田園子(滋賀)
- 安東栄子(滋賀)
- 大橋佳子(滋賀)
- 別所純子(滋賀)

あらゆる層の市民が参加する「さわやか社会」の構築をめざして活動している。さわやか福祉推進センター(堀田 力所)は、活動の担い手創出と

四百名の会員及びその他の参加を予定しており、午後一時から四時半まで議事審議及び記念講演。総会終了後は、もみじ山文化センター内カーテンレストラン「二幸」にて懇親会がもたれる。

この事業は「職場研修推進マニュアル」の作成により、職場研修の充実を図ることを目的とするものであるが、多様化する在宅サービスに対応するために、介護者が実践を生かして、よりよいサービスを提供出来るために糸口となる研修指針を期待したい。

従来、職場における研究方法には、OJT(On the Job Training)職場内研修とOff-JT(施設外研修)という二つの方法がよく用いられてきた。福祉サービス従事者の資質向上のためには、日ごろ自分が仕事をしている職場内で業務のイメージを意識しながら行えるOJTが有効な方法と言われている。しかし実際には、今までの福祉現場にあつては、各所で行われる研修に従事者自身がその熱意によって参加してきた。すなわちOFF・JTにより多くを頼って来たと言えよう。それは施設内において十分従事者を研修育成するに足る高度なマニュアルをもっていない。たといつてに起因していた。「職場研修マニュアル」は今後の研修のひとつの指針を示した事となる。

第1回 中部ブロック研修会
静岡市にて開催(1月28日)
中心テーマ
「介護福祉と創造性」
日時 平成7年1月28日(出)10時~16時
場所 静岡県女性総合センター「あざれあ」6F大ホール
静岡県馬淵1丁目 (TEL054-255-8440)
内容
○厚生省講演(Ⅰ)「21C福祉ビジョンとケアプラン策定」
○事例発表(4例)と発表事例の研究・検討会
○講演(Ⅱ)
問い合わせ先 静岡県介護福祉士会
・聖隷コミュニティケアセンター内(小栗) 053-475-5555
・クオリティ静岡内(中村) 054-284-4600

全国研修会 研究発表者一覧
第一分科会
白木由美子(静岡)
保坂ひとみ(静岡)
今井悟(滋賀)
前川隆子(滋賀)
宮本久恵(大阪)
文植れい子(大阪)
広瀬征子(福岡)
工藤和子(福岡)
勝吉和子(福岡)
第二分科会
小野寺美代子(神奈川)
若杉喜久子(新潟)
三木弘代(新潟)
山下洋子(新潟)
井上栄子(新潟)
水谷愛子(新潟)
松本カズ子(新潟)
第三分科会
宮澤美栄子(長野)
長瀬良介(長野)
中村博道(静岡)
高部紀子(静岡)
森岡敏子(大阪)
吉野芳恵(大阪)
第四分科会
石橋英子(新潟)
市川文子(新潟)
金子智子(新潟)
澤田則子(新潟)
吉村一子(新潟)
秋吉牧子(新潟)
金丸美智子(新潟)
鍛冶きよみ(新潟)
第五分科会
春原利江(長野)
萩原久美子(長野)
伊藤智子(岐阜)
鈴木綱代(岐阜)
杉本春子(滋賀)
浜元文子(滋賀)
白田園子(滋賀)
安東栄子(滋賀)
大橋佳子(滋賀)
別所純子(滋賀)

スクランブル
全国社会福祉協議会は、「社会福祉医療事業団」の助成を受け平成六年九月から、在宅福祉サービス従事者の職場内研修のあり方に関する調査研究事業」をスタートさせた。
この事業は「職場研修推進マニュアル」の作成により、職場研修の充実を図ることを目的とするものであるが、多様化する在宅サービスに対応するために、介護者が実践を生かして、よりよいサービスを提供出来るために糸口となる研修指針を期待したい。

福祉のしごとを考える

理性とこころ

厚生省老人福祉振興課長 河 幹夫

この題は同名の本を承知であろうか。昭和60年に山内豊徳氏(当時・厚生省人事課長)が著された書(中央法規刊)。山内氏は社会福祉行政を愛され、個人として公務員として「福祉のしごと」に携わっている人々を励まされ続けた。福祉事業に従事することを「福祉のしごと」と捉え、「技術の福祉」と「人間の福祉」を総合したいと考え続けられた方であった。4年前の師走に自死されたが、「しごと」といふ言葉で示され

た氏の想いを今、改めて考えている。社会福祉に携わる者には「冷徹な理性」と「暖かな感性」が求められると言っている。いわゆる弱者の置かれている社会状況を的確に把握する理性とその弱者に対する思いやりを併せ持つ感性である。しかし、この二つの均衡を維持することは、必ずしも容易なことではない。介護福祉士制度の発足は、我が国の社会福祉の世界に「技術」と「理性」を導入した画期的な出来事である。私ごとであるが、今から四半世紀前、学生時代の五年間(一年多い)の弁解

は省略を、障害者福祉のボランティア・サークルで過ごした。いろいろな考え方をあつちあひしながら、点を打ちつづけた。ボランティアと言ったのはアマチュア集団でありながら、ドイツ語や数学の点字を打てる人は、全国的にも少数であった。このサークルの点字本制作に対する期待は必ずしも小さくはなかった。それだけに、サークルの仲間、プロの技術者と責任感を持っていたと自負を述べている。

かつて社会福祉施設を尋ねると、見学者はプライバシーの侵害になるから有罪であり、「ボランティアは処遇を乱すから不要」という主張をしばしば聞かされた。当時、私は、これらの意見は一見(聞)尤もではあるが、嘘が混じっていると感じた。要するに、自分の生き方と福祉のしごとを重ね合わせ過ぎる」としばしば忠告された。このころ感性の福祉に傾きがちな私に対するアドバースであり、社会の中に社会福祉を政策としてきちんと位置付けたいという思いでもあったのである。政策には理性と客観性が必要であるのだから。

「日本の介護福祉士」の設立を心からお慶び申し上げます。二人の今は亡き先輩の言葉を紹介し、皆さんのこれからの歩みのはなむけにさせていただきます。

静岡県

静岡市青葉公園

静岡県は、静岡市の中心にある青葉公園イベント広場にテント二つを張って実施。新聞やチラシで事前にPRもして、当日はテント内に電話を設置して対応を待ったが、電話相談は一件もなかった。その他広場面で立ち寄る市民の介護相談も数件。会員の中に、介護ショップの店長をしている者がいるため、大がかりな機器や用品の展示物をつくり、入浴車をほしめ、介護ショップが一軒で上がった様を見せた。



青葉公園内にテントを張っての静岡県介護福祉士会

長野県

社会福祉総合センター

社会福祉総合センターで実施した長野県は、スタッフ二十四名の参加。相談件数は電話が十一件、面接が十九件。相談内容は、福祉の仕事についてが二件、機器の相談が八件、介護技術についてが二十件。社会福祉総合センターには、三階の一室が住宅リフォームのショールームになっており、単に介護機器の展示や説明に止まらず、部屋全体を障害者や、お年寄りの動きをもっと説明するスタッフにおとづれた市民も多かった。左写真は、ショールームにて木製便器の説明をする会員

(全国23支部実施)

えた一日

山口県

第一勧業銀行前

山口県介護福祉士会は、シンボルマークを胸に染めたピンクのTシャツを着て実施。場所は、山口市米屋町の第一勧業銀行前に作られた特設会場。三十名のスタッフが大奮闘。介護機器の展示を業者の「ひまわり」に依頼。山口



山口県介護福祉士会(第一勧業銀行前)

神奈川県

福祉プラザ14階

神奈川県支部は、参加スタッフ十六名で対応。電話相談のみの実施であったが事前に、チラシを作成し、社会福祉協議会、プラザ、福祉事務所、新聞社に配布。当日は、横浜駅でチ

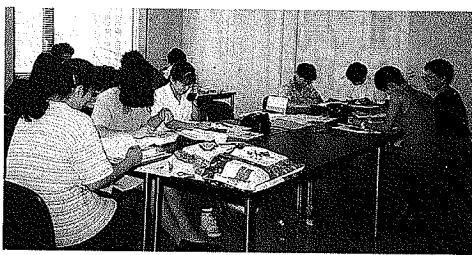


写真 電話を待つ神奈川県支部の会員

宮崎県

宮崎市総合福祉センター

ボンベルタ橋

「大切な人だから知っておきたい介護の知識」を合言葉に約百名で約三十分間市内パレードを実施。多くの市民の関心を集めた。ボンベルタ前の路上での介護実技の他、総合保健センターでの相談には、保健婦二名、社会福祉士二名、会員四名が待機。六件の電話が寄せられた。パレードでは宣伝カーも使い、当日の案内や、介護福祉士についてマイクで呼びかける方法も駆使。



100人の市内パレードを繰り広げた宮崎県介護福祉士会



長野県介護福祉士会(県社会福祉総合センター内)

全国一斉介護相談 熱く燃

香川県

県身体障害者
総合リハビリテー
ションセンター

香川県では「おもいやり、ふれあい、介護の日」を合い言葉に、電話・面接相談、介護機器展示と技術指導、介護に関する書籍展示などを実施。スタッフ二十六名が対応。会場には、会員六十名と一般五十五名が来所。電話十件、面接十件の相談があった。実施前にはサンケイリビング、朝日、読売各社にPR依頼。チラシを二日間商店街で配布。又アンケートも実施。特に午前中は、対応に追われる程で、全国実施県の中でも大きなイベントであった。



▲会場で介護機器の試乗会(香川県)



▶写真右・介護用品の展示にも、きめ細かな説明書きがされている

福岡県

福岡市中心身障害者
福祉センター
天神岩田屋前

福岡県は、福祉センターでの電話相談の他、福岡市天神岩田屋前での街頭相談会と千枚のチラシ配布。横断幕とピンクのタスキがけで楽しく実施。電話二十件、面接が二件、相談は電話が二件、面接が二件。

全国23ヶ所の一つとして、この新潟のNEXT21で全国一斉介護相談が開催された。何回もの実行委員会を経て五里霧中のうちに当日を迎えた。

新潟県

- 相談
- アンケート
- 介護機器試乗

新潟県広報

川村雅代

同時に実施した新潟県下越ブロック研究班による『介護に関するアンケート』にスタッフは、市内随一の繁華街である古町方面へ関をきつたように勢いよく飛び出す。

十代から八十代まで、五百七十六人の市民が足を止め、会員との一問一答に本音で応じていた。このアンケートについては集計結果が待たれること



電話相談中の新潟県介護福祉士会



残暑の中、道行く市民にチラシを配付する福岡県介護福祉士会

岐阜県

高島屋百貨店前

参加スタッフ二十九名で当日に臨んだ岐阜県介護福祉士会は、電話六件、面接三十二件。面接が多かったのは、デパートの一階という設置場所が良かったこと。また、全国一多かった電話・面接コーナーの他、デパート入口では介護用品展示、入浴車も設置して市民に体験してもらった。その他三百枚のチラシ配布。当日は、八十歳のお年寄りの介護をしているという市民から六十個のおにぎりの差し入れがあり、対応に追われて昼食もままならなかった会員達は大喜び。



岐阜市内高島屋デパート1階に相談会場を設置した岐阜県

山梨県

山梨県は、電話と面接を別々の場所で行った。面接は甲府市和戸町桜井畑リバーズにて、電話は特別養護老人ホーム奥湯村園にて受け付け。参加スタッフは七名。相談は電話が二件、面接が二件。

富山県

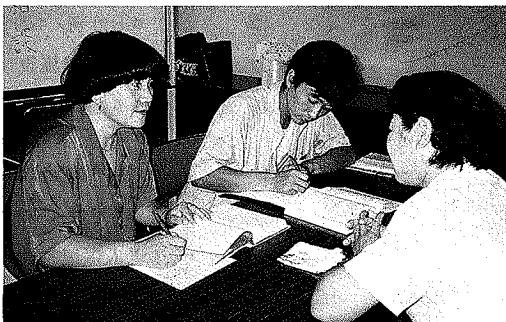
富山市デイサービスセンター

八名のスタッフで電話相談と面接受け付けを実施。スタッフには社会福祉士三名も応援に駆けつけた。電話九件、面接一件。そのうち九件は介護方法についてであった。当日はテレビ局三社も実施を報道。

高知県

県福祉人材センター

当日の参加会員は、十一名。相談は電話・面接を含めて六件あった。相談内容は、介護(2)、職業(2)資格について(1)、ヘルパー派遣について(1)、介護講習について(1)。



真剣に資料を手に相談に応じる山梨県介護福祉士会

第3回日本社会福祉士会全国大会 社会福祉学会開催

大会テーマ 「社会福祉士と各種専門職との連携をめざして」
日時 平成7年1月20日(金)~21日(土)
会場 諏訪市文化センター
問い合わせ先 大会実行委員会事務局 (長野市) 小池方 0262-26-2078

(編集部)

がんばりつめてます —各県支部活動—

各県活動 これからの予定

静岡県介護福祉士会

●介護技術一泊研修会
十一月十九日(土)午前
十一時より二十日(日)午
後十二時迄、天龍厚生会研
修所にて。

新潟県介護福祉士会

●一周年記念公開講演会
「一年を振り返って」
—これから—
十一月十九日午後一時よ
り新潟市万代市民会館にて
内容 講演会及び発表。
講師 中田光彦氏
講演 老人介護の遊び学
参加費 会員無料、
会費外五百円。
●講師養成講座
国家試験対策実技セミナー
に向けての講師養成を自
目的とする。
Aコース
十一月十九日(土)午前
十時より十二時、新潟市万
代市民会館にて、内容「援
助技術」リハビリデモン
ン、講師未定
Bコース 宿泊研修
十二月三日(土)より四
日(日)、内容「介護概論」
「実技指導の方法」会場は中
越地区を予定しているが詳

福岡県介護福祉士会

●福岡・福岡市支部合同研
修会
十月一日(土)午後一時
より福岡市心身障害福祉セ
ンターにて講演会を行う。
講演 公的介護保険の導入
で介護の現場はどう変わる
のか
講師 九州大学法学部教授
河野正輝氏
講演後、質疑応答・意見交
換と交流会(別会場)を予
定している。

山梨県介護福祉士会

●県介護福祉士会研修会
三月十九日、甲府市リバ
ース和戸にて開催された。
講師は、地域保健研究会代
表田中甲子氏による「障害

福岡県介護福祉士会

●ホームヘルパー三級課程
講師派遣二五名
科目は「ホームヘルプサ
ービス入門」家事援助「老
人等家庭訪問技術講習」で
計八時間の六地区を担当し
た。

富山県介護福祉士会

●実践事例発表と講演会
十月二十二日(土)午前
十時から富山市富山県民会
館五〇九号室にて。
内容 実践事例(演習)
講演

岐阜県介護福祉士会

●筑豊支部研修会
九月三日飯塚市飯塚総合
会館にて開催された。
内容はコミュニケーション
と対人援助技術。

長野県介護福祉士会

●住宅展示場合同見学会
九月十日(土)長野市内
の住宅展示場において、県
介護福祉士会、県建築士会
県老人クラブ連合会、県身
体障害者福祉協会の参加に
よるはじめての合同見学会
が開催された。高齢者、障
害者にやさしい住まい作り
を考慮することをテーマに意
見交換がされた。高齢者団
体からも約四十人が参加。



●九月三日飯塚市飯塚総合
会館にて開催された。
内容はコミュニケーション
と対人援助技術。

山梨県介護福祉士会

●ホームヘルパー三級課程
講師派遣二五名
科目は「ホームヘルプサ
ービス入門」家事援助「老
人等家庭訪問技術講習」で
計八時間の六地区を担当し
た。

福岡県介護福祉士会

●福岡・福岡市支部合同研
修会
十月一日(土)午後一時
より福岡市心身障害福祉セ
ンターにて講演会を行う。
講演 公的介護保険の導入
で介護の現場はどう変わる
のか
講師 九州大学法学部教授
河野正輝氏
講演後、質疑応答・意見交
換と交流会(別会場)を予
定している。

山梨県介護福祉士会

●県介護福祉士会研修会
三月十九日、甲府市リバ
ース和戸にて開催された。
講師は、地域保健研究会代
表田中甲子氏による「障害

富山県介護福祉士会

●実践事例発表と講演会
十月二十二日(土)午前
十時から富山市富山県民会
館五〇九号室にて。
内容 実践事例(演習)
講演

岐阜県介護福祉士会

●筑豊支部研修会
九月三日飯塚市飯塚総合
会館にて開催された。
内容はコミュニケーション
と対人援助技術。

長野県介護福祉士会

●住宅展示場合同見学会
九月十日(土)長野市内
の住宅展示場において、県
介護福祉士会、県建築士会
県老人クラブ連合会、県身
体障害者福祉協会の参加に
よるはじめての合同見学会
が開催された。高齢者、障
害者にやさしい住まい作り
を考慮することをテーマに意
見交換がされた。高齢者団
体からも約四十人が参加。



長崎ビューホテルにて開催

第1回九州ブロック研修会 四百名の参加にて多面的に実施

第一回九州ブロック研修
会が、さる八月二十五日(木)
二六日の両日長崎市にある
長崎ビューホテルにて四百
名以上の参加のもと、盛大
に開催された。ブロック研
修会としては初めての試み
で宿泊形式で行われたもの
である。日本介
護福祉士の年
間テーマである
「二十一世紀の
介護を考える」
—今求められる
介護の専門性を
めざして—をも
とにプログラム
が進行。
開会記念式典
に続いて、分科
会が行われた。
内容は第一が地
域の中の福祉、
保健、医療の供
給体制、第二が
職場における介
護福祉士の在り

方、第三が高齢化に伴う重
度化への対応、第四は個別
化による諸問題とコミュニ
ケーション、第五は個別介
護計画の実際と在り方、第
六は介護技術の向上及び機
械器具の実践、各分科会
では積極的な意見交換が行
われた。続いて全体協議に
は入り、シンポジウム形
式でコーディネーターの森
俊介氏の進行により進めら
れた。二日目は、一燈園園
長の石川洋氏の特別講演
「人としての生きざま—介
護職の心を学ぶ」と題して
「介護の本当の心は母への
お返しではないか」と講演
し、参加者の感動を呼んだ。
記録的な猛暑の中での研
修会であったが、参加者は
設置県は勿論のこと、未設
置県からも多かつた。
本研修会開催については
長崎県、長崎市を始めとし
て九州ブロック内の各福祉
会福祉協議会その他各福祉
団体の後援が大きかつた。

第1回 中国・四国ブロック研修会 高知市文化ホールにて二百名の参加

高知市文化ホールにて二百名の参加
中国・四国ブロック研修会
が、高知市の高知新聞放送
会館・高知文化ホールにて
開催。二百名の参加にて盛大
に開催された。サブテーマ
の「介護福祉士の役割とは
QOLを支えるサービスの
向上をめざして」をもとに
進行。
開会に際しては、高知県
知事、高知市長より祝辞が
あった。厚生省福祉人材確
保対策室長本間一氏より厚
生行政の動向について説明
され、共に、日本介護福
祉士会への期待が語られた。
続いて「二十一世紀の介
護を考える」と題して、旭
川荘理事長の江草安彦氏の

資格を生かす 知ってますか?リフォームヘルパー

介護福祉士は、名称独占
で業務独占の資格ではない
が、得た資格を十分に活用
することも大切。
●主任寮母制度
介護福祉士の資格を有しか
つ相当程度の介護経験を
有する者に寮母のリーダー
として連絡調整や介護
方針・介護計画を策定し、
業務遂行にあたり各寮母
に適切な指導・助言を行
う。
●介護福祉士に対するホ
ームヘルプサービス事業
委託
介護業務に十年以上の経
験を有する介護福祉士に、
市長村長は委託すること
ができる。(平成四年通
知)

方、第三が高齢化に伴う重
度化への対応、第四は個別
化による諸問題とコミュニ
ケーション、第五は個別介
護計画の実際と在り方、第
六は介護技術の向上及び機
械器具の実践、各分科会
では積極的な意見交換が行
われた。続いて全体協議に
は入り、シンポジウム形
式でコーディネーターの森
俊介氏の進行により進めら
れた。二日目は、一燈園園
長の石川洋氏の特別講演
「人としての生きざま—介
護職の心を学ぶ」と題して
「介護の本当の心は母への
お返しではないか」と講演
し、参加者の感動を呼んだ。
記録的な猛暑の中での研
修会であったが、参加者は
設置県は勿論のこと、未設
置県からも多かつた。
本研修会開催については
長崎県、長崎市を始めとし
て九州ブロック内の各福祉
会福祉協議会その他各福祉
団体の後援が大きかつた。

Quality of Lifeの向上をめざして

いま話題の図書 により刊行

個別の看護・介護計画策定の決定版!

[大好評] **高齢者ケアプラン策定指針**

監修: 厚生省老人保健福祉局老人保健課・老人福祉計画課

● B 5判 / 244ページ / 2色刷 / 定価 3,800円(税込)・送料380円

[最新刊] **高齢者ケアプラン策定指針・要約版**

監修: 厚生省老人保健福祉局老人保健課・老人福祉計画課

● A 5判 / 92ページ / 2色刷 / 定価 1,200円(税込)・送料240円

[改訂版] 老人病院 機能評価マニュアル

編集: 老人の専門医療を考える会 ● B5判 / 100ページ / 定価 2,000円(税込)・送料310円

老人保健施設職員必携の図書

社全国老人保健施設協会編集

最新刊

老人保健施設 **職員ハンドブック'94年度**

● B 6判 / 428ページ / 定価 3,500円(税込)・送料310円

老人保健施設 **デイ・ケアマニュアル**

● A 5判 / 182ページ / 定価 2,500円(税込)・送料310円

好評既刊

老人保健施設 **相談業務マニュアル**

● A 5判 / 182ページ / 定価 2,500円(税込)・送料310円

老人保健施設 **看護・介護マニュアル**

● A 5判 / 182ページ / 定価 2,500円(税込)・送料310円

老人保健施設 **機能評価マニュアル**

● A 5判 / 190ページ / 定価 1,800円(税込)・送料310円

厚生科学研究所 Tel. 03-3470-4661
Fax. 03-3470-4682
本社 東京都港区南青山1-13-5 振替 00190-2-106950
編集センター 東京都港区南青山1-15-32

日本介護福祉士会

第1回 全国研修会 11月25日～26日

専門性への再認識 続々参加八百名を越す

公的介護保険の導入構想が明らかになってきている中、今年1月に設立された日本介護福祉士会は、はじめての全国研修会を兵庫県宝塚市宝塚グランドホテルにて開催し、横のつながりを深めた。

今年の遅い紅葉が風景を色づける中、去る十一月二十五日(金)、二十六日(土)二日間に渡って宝塚市の宝塚グランドホテルにて第一回全国研修会が開かれた。五百名定員のところ、予想をはるかに上回り参加者は八百五十名(事務局発表)。ホールも分科会もすべて机をとり除いての対応となった。宝塚グランドホテルは、ほぼ日全本介護福祉士会で貸し切り状態。田中雅子会長のあいさつにはじまり、本田一氏が新ゴールドプランにもと

づいた今後の福祉動向を講演。続く特別講演では江草安彦氏が「癒す」と題して、介護福祉士の基本的理念を事例をあげながら講演。続くシンポジウムには、今の日本の老人医療や福祉の第一人者がズラリとシンポジストとして出席。「介護福祉士」から福祉の字をとるべきだと主張する天本 宏氏(天本病院院長)の発言が、職域を越えこの分野においても質の高い介護が求められる近未来の視点を鋭く

突いており参加者に強い印象を残した。一日目の夜は二時間にも渡る懇親会。他県の会員との交流やシンポジスト各氏との交流に花が咲いた。二日目は各部屋に分かれての分科会と午後の討議。討議は午前中の発表にもとづいて会場からの質問やアンケートを中心に助言者からの的確な中立的視点や技術アドバイスが展開された。会場の後には介護や福祉関係の本の販売、ゲアプラ

「大盛況で地域の中に介護福祉士にありと力を示した。今後大切なことは各会員が地域の中で認めさせていくことが大切。期待している」(石井氏)とコメントを寄せた。会の熱気は、そのまま全国の会員の思いを感じさせるものであった。(詳細2・3ページ掲載)



兵庫県宝塚市宝塚グランドホテルにて開催された第1回日本介護福祉士会の全国大会で来賓として挨拶する全国老人福祉施設協議会会長の石井岱三氏

高齢者の公的介護保険 介護福祉士の果たす役割増

本格的な高齢社会の対応として二十歳以上の国民がお互いに負担しあう公的介護保険が導入されることに社会の関心が高まっている。厚生省の介護対策本部に設けられた「高齢者、介護、自立支援システム研究会」(座長、大森彌東大教授)の構想は、①費用分担は社会保険方式を導入し、二十歳以上の全世代が負担する。②特別養護老人ホーム、老人保健施設、老人病院(療養型病床群)、介護力

強化病院等、保健福祉における制度下では、それぞれの施設において運営上から利用負担に格差があること、これを是正し使いやすくすること。③「ゲアマネシメント」システムというサービスの給付方式をとっていく等が大きな柱となっている。特にゲアマネシメントにおいては、医師、看護婦、介護職員それぞれの専門家が高齢者のひとりひとりの自立支援を基本とした介護

られてくる。福祉や医療などの既存制度を横断的に再編成していく中にあるのは、介護福祉士の役割が、従来の狭義の福祉分野だけでなく、広く介護を必要とする人々に適切な介護サービスを提供し、自立を支援する役割を果たしていく可能性をもつものといえる。もちろんそのためには、介護福祉の専門性と独自性を築き上げ明確化していくことが前提でもある。さらにゲアプラン作成においては、身体状況、精神状況だけでなく、高齢者の生活関係にまでかかわる幅の広さと深さをもつて利用者の自己決定をも支援して行くことが必要であり、これについて介護福祉士の果たす役割は大変重要なものとなり、それぞれの自己研鑽が求められるべきである。

「厚生省は福祉サービス向上のため利用者丁寧に説明し、相談にこたえてくれる業者を育成しよう」と「福祉用具販売サービスガイドライン」を策定。又シルバーマーク制度に福祉用具販売サービス部門を追加した。基準を満たした優良業者への認定を二月から始める。職員配置事項の中で、理学療法士、作業療法士、保健婦(士)、看護婦(士)、社会福祉士、介護福祉士、義肢装具士、一定の研修を受けた者の配置が義務づけられている。

「厚生省は福祉サービス向上のため利用者丁寧に説明し、相談にこたえてくれる業者を育成しよう」と「福祉用具販売サービスガイドライン」を策定。又シルバーマーク制度に福祉用具販売サービス部門を追加した。基準を満たした優良業者への認定を二月から始める。職員配置事項の中で、理学療法士、作業療法士、保健婦(士)、看護婦(士)、社会福祉士、介護福祉士、義肢装具士、一定の研修を受けた者の配置が義務づけられている。

「厚生省は福祉サービス向上のため利用者丁寧に説明し、相談にこたえてくれる業者を育成しよう」と「福祉用具販売サービスガイドライン」を策定。又シルバーマーク制度に福祉用具販売サービス部門を追加した。基準を満たした優良業者への認定を二月から始める。職員配置事項の中で、理学療法士、作業療法士、保健婦(士)、看護婦(士)、社会福祉士、介護福祉士、義肢装具士、一定の研修を受けた者の配置が義務づけられている。

スクランブル

「グッモロ」と部屋のドアを開けると「ヨート」と元気のよい女性の返事が帰ってきた。私の顔をその端々しい両手でつまみこみ根っからの明るい笑顔で覗きこんでいる。そうされたまま、部屋の中や彼女のいでたちを見回すと、ページで統一されたシックな部屋は、クロゼットから引っ張り出された衣類が散乱。彼女はTシャツの上にフレンチジャー、パントステッキングの上にオムツネットという姿。それに、どうやら私の顔をほさんだこの両手の端々しいオムツのようである。もう一人のゲアスタッフとも同じように朝の挨拶を交わした。スタッフの笑顔とスキンスリップの様子から察すると特別な朝の挨拶ではないらしい。スウェーデンのグループホーム研修でのひとりで

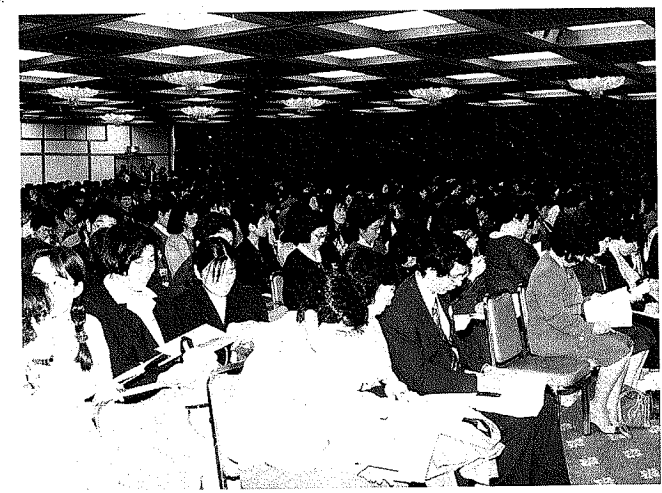
第1回全国研修会(特集) をとり新しい介護のシステム

シンポジウム(概略)

シンポジスト

全国老人福祉施設協議会会長 石井 岱三氏
 平成帝京短大助教授(看護・介護福祉学) 山崎 摩耶氏
 天本病院院長 老人の専門医療を考える会長 天本 宏氏
 NHK解説委員 村田 幸子氏
 日本介護福祉士会会長 田中 雅子氏
 社会保障研究所主任研究員 橋本一三郎氏

石井氏 介護福祉士は多くなってきた。問題は実践の中で国民が安心して任せられるという責任を誰が持っているかどうかが重要。それには、自分達が専門技術を持っているという自覚を持つていく必要がある。三年間の教育を受けた老



816名が会場を埋め大ホールは熱気にあふれた

人介護士が医師がする事となっていて介護士が老人介護職のプロとして位置づけられている。外国では介護する人のポテンシャルが高い。この資格は国の追い風を受けている。人を相手とした仕事、これは私もうであるが、終わりが無い。日々新しい。その新鮮さが魅力を持つ。専門職は常にその技術をみがく事が

講演内容(概略) 厚生行政の動向について 「新ゴールドプランに介護福祉士の専門性を」

厚生省社会援護局施設人材課 福祉人材確保対策室 室長 本田 一氏

平成元年に出された「ゴールドプラン」は、今世紀最後の十年間に、在宅ヘルパーを十万人に、特別養護老人ホーム二四万床、老人保健施設二八万床に、という目標値が示された。高齢化社会の基盤整理が行われた訳であるが、これは福祉行政の中で画期的なものであった。その後、福祉八法の改正があり、地方の福祉計画にもついで試算した結果、ゴールドプランの数値より上回る結果となった。それらをふまえて平成六年三月に「二世紀福祉ビジョン」が策定された訳である。「二世紀福祉ビジョン」では「ゴールドプラン」の見直しが行われ、高齢者介護対策においては「新ゴールドプラン」の策定。少子化対策として「エンゼルプラン」が策定され育児の環境を整える計画が立てられた。更に年金改革として年金支給開始年齢の引上げにより若年者の年金負担軽減等が行われることとなった。ビジョンは社会保障制度の枠組を現行の年金五・医療四・福祉一という給付の構成割合を、年金五・医療三・福祉二に改善、福祉比率が大きく変化した。「新ゴールドプラン」にかかると算要求を現在行っているところであるが計画通りでは年間三五百億の予算が必要。消費税引上げの前の前倒しをもって、平成九年よりスタートさせていくことを目指している。

国民の誰もが一度は受けるであろう介護は、家族だけで済むものではなく、専門的機関に委ねられ、病院、保健施設、老人ホームに移っていくだろう。しかし、制度的費用のアンバランスが生じており、又措置制度も限界にきた現在、措置制度の見直しも行われている。又、本人が自分の意思で選択ができ、ニーズに応じたサービスを受けられるために、サービス提供側の競争により、より良いサービス提供ができる新しい介護のシステム作りが、介護保険として現在議論されている。その流れの中で介護の質を考えると、個人に対しての個別性の尊重、身体的、精神的側面からの援助を行い、トータルな日常生活面まで考慮された介護が必要となり、それらの総合的評価が求められてきている。高齢者一人ひとりの状態を個別に把握し、問題や原因を科学的に評価して行かなければならない。これらの評価は、医療担当者、福祉ケア担当者、PT・OTなどの専門家による共通の認識が必要であり、又、施設や老人病院等でも共通した介護の中味が提供されなければならない。

この評価を遂行するために「高齢者ケアガイドライン」が作成され、現在モデル施設により進められ研究されている。介護福祉士は、そのケアの中で、アセスメントケアプランの策定、実行、評価というプロセスを、専門家として客観的、科学的に行なっていく、ということが是非行なっていく。

分科会 技術改善事例

第三分科会では六事例の発表が、介護機器、道具、基本的な介護技術の改善を中心に行われた。午前中は、リフターを使っている介護方法や介護福祉士として機器を販売する立場からの報告、又、車イスにテーブルをとりつけた改造用品、嚔下困難者の援助等が報告され、ビデオや実演、嚔下体操など取り入れた具体的なもので参加者は思わず立ち上ったり、触れたり一緒に体験したりと和気あいあいの雰囲気。午後からは、回収された質問用紙を中心に取りはがし可能な車イス用テーブル(作品を持ち込んで説明)



(静岡一 大石美記)

第一分科会 「ターミナルケア」

助言者 社会福祉法人みきわ会 理事長 松尾周子氏

第一分科会においては、施設で迎えたターミナルケアが四事例、在宅でのターミナルケアが五事例発表された。助言者は、社会福祉法人みきわ会理事長の松尾周子氏。会場は予定以上の参加者で、椅子の補充で最初はおわらわらだった。最初の発表者は「終末はホームで、私たちの取り組み」

「少産少子の時代においては在宅でのターミナルケアは家族だけでは困難な時代である。訪問看護、在宅ヘルパー、支援センターといった医療と福祉のネットワークが必要であるが、今はその過渡期であり、地域差もある。死なせないことよりも、最後まで如何に人間らしく生きたか、自分なりに考えた人生の閉じ方を回りが如何にケアしていくかが大切である。

第二分科会 「痴呆性老人の理解と対応」

助言者 大阪市立弘済院付属病院 精神内科医長 小林敏子氏

第二分科会においては、「痴呆性老人の理解と対応」として、在宅でのケアが二事例、特養、老健から六事例が発表された。助言者は大阪市立弘済院付属病院精神内科医長小林敏子氏。発表内容は社会資源とヘルパーが有機的に結びついてケアを提供した例や、また施設関係ではチームを組んで取り組み、改善していった事例であった。総じて、痴呆にはアルツハイマー型、



第二分科会発表の様子

年老いて、死の需要は難しい。感傷に流されない冷静な判断で、誠実で優しい自分も温かく行っている。科学的と助言した。

社会的知識を大切に、ある種の使命感を持って、しかも温かく行っている。科学的と助言した。

国民的介護の時代

「リ・マインディング」一壁

(意識改革)



2日午後シンポジストたちの新しい視点が会場を包む。左から、栃木氏、石井氏、山崎氏、天本氏、村田氏、田中(会長)

求められて、その仕事の魅力を次の世代に伝える専門職として育つてほしい。

田中氏 入浴や排泄、食事その動作だけの援助ではなく、どうしたらその人の生活すべてを援助できるか、より自立できるかを常に考える。それが福祉という視点からの援助と思う。

山崎氏 在宅では訪問看護婦の入浴もヘルパーの入浴も家族にとっては同じ。今までの様に看護と介護をどう分けて考え、リストラという言葉が流行しているが、「リ・マインディング」

村田氏 質という体の介護に傾きやすい。私という人間や世界をわかってくれる人に私は世話されたい。

司会 それも専門的技術でしよう。十二月には介護保険が具体的に発表される。高度な職業論とサービス質の保障が求められる。独の老人介護士では対象者の自己決定権を誰がどうで代弁するかが議論されている、日本もそうなるだろう。

グ(意識的進んで壁をなす。新しい介護システムを考える必要がある。介護保険が一般化してくれば介護は商品となってくる。安からう悪からうでは誰も買わない。あなたのサービスは売れますか。質の管理が求められる。

特別講演

「癒す」

川崎医療福祉大学
日本介護福祉士養成施設協会
会長 江草安彦氏

この「癒す」と題した講演は、二月十二日の設立総会において予定されていたものである。あの大雪による交通マヒのため折角の講演が出来ず、会員より機会があればぜひ江草氏の「癒す」を聞きたくて、再び、研修委員会が依頼した。

まず、介護について、介護福祉士について需要などとの三点がある。

第一は「癒す」という事である。それは慰める、治療する、見守るや言葉の味を持つ。一緒に苦しみながら癒す。

第二に大切なのは「たましいの平安」を得、精神がさわやかでわき上がる思いで満たされる事である。介護福祉士は体や心やたましいを癒すことのできる人であって欲しい。

より深い生活態度を身に付けてもらいたい。

大江健三郎親子のテレビ番組の題が「ひびけ愛」であった。響くと言いつの心があつた。言葉が無くてもわかちあつた。そのよきな関係をぜひサービス利用者との便利屋でしかない。癒や

持たになる事が出来、それを態度や言葉に表して「たましいの平安」を得、精神がさわやかでわき上がる思いで満たされる事である。

第一に大切なのは「たましいの平安」を得、精神がさわやかでわき上がる思いで満たされる事である。介護福祉士は体や心やたましいを癒すことのできる人であって欲しい。

より深い生活態度を身に付けてもらいたい。

大江健三郎親子のテレビ番組の題が「ひびけ愛」であった。響くと言いつの心があつた。言葉が無くてもわかちあつた。そのよきな関係をぜひサービス利用者との便利屋でしかない。癒や

かなたましいのサービスを

枕草子や徒然草にはいろいろな人間の苦しみや悲しみを乗り越えた文章が多く、それを讀むだけで救われる思いがするといふ人がいる。宿罪に苦しんでいる人から今の自分の気持ちはこの段に書かれていると、手紙を貰ったことがある。保育園の保育者が子供と話すとき目の高さを合わせる。子供の風邪がうつると言っていて話したり、口にハンカチを当てたりすれば、触れ合いや響き合いは出来ない。「たましいの平安は共に生き暮らして、祈ることで得られる。祈る言つても宗教の事ではない。おたがいに充実した生活をしてよつねと祈りあつてほしい。

第三に「専門職は妄想に陥る危険がある。精神医学のヤスパースは妄想について次のように言っている。「誰が見てもおかしいと思つて固く信じて、それが誤りであるといふ事をこの様に話しても聞き入れない。これは、専門職の陥りやすい思い込みではないか。これは他の専門職がする事だと言ふ思い込みは止めて頂きたい。」

専門職としての、誇りを持つことは大変大事な事である。介護福祉士の質の向上に繋がっていく。しかし介護福祉士はこれだけの資格だから、という事を始めから決めてしまつては危険である。という認識を持つてほしい。そのために健康、福祉以外の職業の人と交わつてほしい。衣服はその組み合わせによって印象を変えるが、

第三 介護

助言者
榎丹木義肢専務取締役
作業療法士

舟木美砂子氏



第三分科会会場嚙下体操指導も

第四分科会では、「QOLの向上」についての事例発表と討議が行われた。事例発表では、八名より報告があった。それぞれ全く違う職場・立場からの実践報告であり、興味深い内容であった。

「精神薄弱を伴う人老老人の処遇について」二人部屋という状況の中で居室配置や対人関係への援助に日々苦労している姿がうかがえた。更に身体障害者養護施設からは、ADLの著しく低下した利用者に対し処遇目標をたて計画的に介護を展開しADLを向上させていった事例発表があった。

午後の討議に際し昼休み中に参加者が自由に質問を書いて、助言者である筒井孝子氏に提出した。老健施設職員からは、三ヶ月以内という期間の中でQOLの向上をどうしていくかという問いやケアチームの中でケアに対する考え方が違うという悩みが出された。これらに対し、筒井氏よりQOLの概念・要素についての講義があり、疑問や悩みに対して指針を得られた。その後グループに分かれ、事例に対し、QOL向上のためにどのようなケア方針を樹てるかについて討議した。たった十五分のケアカンファレンスだったが体験的に学習でき、爽やかな分科会となった。

(静岡県一小川記)

第四分科会 「QOLの向上」

助言者 国立医療病院管理研究所リサーチレジデント
筒井孝子氏

特別養護老人ホームのホームヘルパーから「生活エリアの拡大をめざして」というテーマで、援助を通じて必要量を越えたニーズに対してどう対応していくかについての提言があった。又養護老人ホームからは

第五分科会

「在宅福祉と地域における ケースマネジメント」

助言者 大阪市立大学生活科学部社会福祉研究室
助教授 日澤政和氏

「ケースマネジメント」は、だれが担当するのがベターなのかをめぐって会場からの発言、地域により主任ヘルパー・福祉課の職員・支援センター職員、保健婦などの組合せが異なる。

第五分科会では、十名の発表者と、分科会の中でも最も人数が多かったため発表時間も他に比べ短かった。(福岡県一松尾智子記)

分科会での発表者は、四十一名。発表時までに何回も原稿の書き直しをした人も、第一日の夜は参加者が自宅にもどったあとも八時半過ぎまで分科会ごとに発表の打ち合せが続いた。また、長野県からはバス一台を貸し切り、五十名の参加。前日の夜十時に長野

「ケースマネジメント」は、だれが担当するのがベターなのかをめぐって会場からの発言、地域により主任ヘルパー・福祉課の職員・支援センター職員、保健婦などの組合せが異なる。

第五分科会では、十名の発表者と、分科会の中でも最も人数が多かったため発表時間も他に比べ短かった。(福岡県一松尾智子記)

第1回 東海北陸ブロック研修会 「21世紀の介護を考える」

新しい年のスタート、静岡に集まろう

★「公的介護保険と介護福祉士について」(講演)厚生省 担当官から

★「介護福祉士と創造性」ケアプラン策定者のひとり 弘済ケアセンター所長 (特別講演) 橋本泰子氏

平成7年1月28日(土)9時~4時 (静岡市) 県女性総合センター「あざれあ」
問い合わせ 054-284-4600

がんばっています —各県支部活動—

各県活動
これからの予定

期日 平成七年一月十四日
講師 五島シズ子氏(おほよ
う21編集委員)

福岡県介護福祉士会

●平成六年度介護福祉士現
任研修会講師派遣
平成六年十二月十五日・
十六日の福岡県福祉人材セ
ンター主催の現任研修会に
て、各グループリーダー及
び助言を行う。

新潟県介護福祉士会

●国家試験対策実技研修会
上越、中越、下越、佐渡の
四ブロックにて開催予定。
詳細については、事務局へ

埼玉県介護福祉士会

●研修会
「あたりの生活のめ
き」
平成七年一月五日(日)十
時から午後四時まで。埼玉
連ビル、三階にて。問い
合わせは事務局048-8
29-3330。

山口県介護福祉士会

●研修会

各県活動報告

神奈川県介護福祉士会

●二周年記念講演会
十一月十二日評論家依
子氏を招き、「人生に定年
はない(生命を輝かせて生き
る)」と題して講演会を開
催した。

山口県介護福祉士会

●公開講座「さわやか老人
介護セミナー」に因会長が
シンポジウムのパネラー
として参加。
○公開講座(高齢者の介護
理論と実践)
十月十五日、福岡Y.M.C
A国際専門学校にて開催。
介護の現状説明と介護実技
指導を行う。

福岡県介護福祉士会

○「介護の中のリハビリ
の重要性」講師は都立医療
短期大学教授松村秩氏。講
義、実技を行う。

大阪介護福祉士会

○「フライングあめいフェ
スティバル94」世代間交流
事業にボランティア参加
○大阪府地域福祉推進財
団の企画により島根県松
江市にて八月七・八の二日
間開催の会に会員十五名参
加する。可能な限り楽しく
生きて行くこと力を合わせ

新潟県介護福祉士会

○設立一周年記念公開講演
会
「老人介護の遊び学」と
題し中田光彦氏が講演。新
潟市万代市民会館にて二五
〇名の参加

静岡県介護福祉士会

○ケアプラン策定と介護技
術の評価チェック一泊研修
十一月十九・二十日実施

全国一斉介護相談実施の全国まとめ 「相談件数20件」社会的地位向上、委員会報告

去る九月十一日全国各地
で開催された「全国一斉介
護相談」の実施報告が、こ
のほど、日本介護福祉士会
社会的地位向上委員会(委
員長一宮崎県会長・鬼束幸
子)から発表された。
それによると実施県は二
十三県。相談件数は電話と
面接で二百一件。相談内容
を分類的に見ると、
介護技術関係(2件)
ねたきり老人の排世介護
や痴呆性老人の介護等
介護機器・用品関係(63件)
日常生活用具の給付やオ
ムツの種類、機器利用の
補助制度について等
資格取得関係(46件)
介護福祉士の資格取得方
法、福祉職に就くには等
公的サービス関係(45件)
ホームヘルパー、デイサ
ービス、ショートステイ
の利用方法等
施設入所関係(10件)
入所のための手続きや経
費について
その他(25件)
自分の老後の心配と老
退院後の生活について。
また、実施県においては、
介護機器や用品の展示、チ
ラシ配布、アンケート、デ
モストレーションなどが行
われた。社会的地位向上委
員会では「第一回でもあ
る」と報告。

設立二年目に向けて 「質の向上と会員の拡大を」

日本介護福祉士会
会長 田中雅子

介護福祉の専門性の確立
と地域福祉に貢献する介護
福祉士の育成を目指し、職
能団体を設立して10カ月が
経過した。この間、私達を
取り巻く状況は大きく変化
している。「いつまでも」で
も誰でも利用できる介護サ
ービスを目指し、「21世紀
福祉ビジョン」では私たち
介護福祉士が果たさなけれ
ばならない役割と期待が提
言されている。八五〇名の
参加者を得た全国研修会シ
ンポジウムでも今後、国民

の中で議論されるであろう
公的介護保険制度創設にあ
たって、介護福祉士の役割
を医療・保険・福祉領域の
シンポジウムから具体的な
助言があった。勤や経験、
思いのりの介護だけでは
これからの介護を論ずるこ
とはできない。介護は誰でも
できるという一般認識の中
に介護福祉士はプロの介護
を明確に示して行かなけれ
ばならない。既に「高齢者
ケアプラン策定指針」が出
されているが、利用者の

個々のニーズに対応する
ため客観的な評価(アセ
スメント)に基づくケア
プランを作成し、適切な
介護サービスを提供する
ことが介護福祉士に求め
られている。国民のすべ
てが真に幸福を実感でき
る福祉社会の実現のため
その一翼を担う具体的な
事業を展開して行きたい。
現在会員は四千名を越
した。来年度は七千名を
越すと予想される。全県
での設立を目指したい。

北海道東北ブロック研修会 一五〇名参加多くの実り残す



盛岡市水産会館で開催された
北海道東北ブロック研修会

日本介護福祉士会第一回
北海道東北ブロック研修会
21世紀の介護を考える

賛助会員に三社加入

日本火災海上保険株式会
社、中央法規出版株式会社、
東京海上火災保険株式会
社の三社は、この度、日本介
護福祉士会の賛助会員とし
て登録。会をバックアップ
してくれる事となった。

11/26第六回理事会 宝塚にて開催

十一月二十六日、宝塚グ
ランドホテルにて全国研修
会終了後、夜十一時に至る
まで、第六回理事会が開催
された。

第一回全国研修会のデー タ報告を反省・評価

○意識調査委員会より、先
に実施されたアンケート
回収の中間報告。
○組織強化については、今
年度の設立原は二十四県
来年度は二十九県以上と
なる旨報告。未設置県の
実情把握していく。
○論理綱領については、日
本介護福祉士会としての
論理綱領ではなく、日本
のすべての介護福祉士の
綱領とする旨が決定。
○その他来年度事業への大
まか事業書が各委員会
から出された。

長年の介護職—後輩に伝えて 介護福祉士の二名表彰



小島つる江氏(60歳)



渡辺武子氏(63歳)

厚生大臣表彰「社会福祉事
業功労」長野県生まれ。
ヘルパー歴二十五年。四百
名を越える県会員に慕われ
る。

山口県介護福祉士会会長
(山口市)特別養護老人ホ
ーム「梅光園」寮母長
「戦七等瑞宝章」受賞。
上海生まれ。昭和五十一年
から寮母職。四百名の
会員を束ねる県会長。

長野県介護福祉士会会長
下高井郡山ノ内町社会福
祉協議会ホームヘルパー

財団法人 社会福祉振興・試験センター 事務所移転のお知らせ

記

1.新住所 〒150東京都渋谷区渋谷一丁目5番6号
SEMPOSビル内

2.電話番号(移転日より)
・役員室・総務部・福祉保険部(5階)
03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
・試験部・保険部(4階)
03-3486-7521 FAX 03-3486-7527

3.移転日 平成6年11月22日(火)

専門性が支える介護福祉の充実のために

この資格に対する社会の期待も日増しに大きくなり、介護福祉士は、この期待に応えるべく、理念と資質の向上に努力することが責務であると考えます。この季刊介護福祉は介護について徹底した解説と具体的な介護行為を解説するほか、介護に関する最新情報をお届けしております。

購読申込みは、日本介護福祉士会事務局又は、各県介護福祉士会へお申込み下さい。

介護福祉 季刊

購読料(年) 3,440円(送料含む)

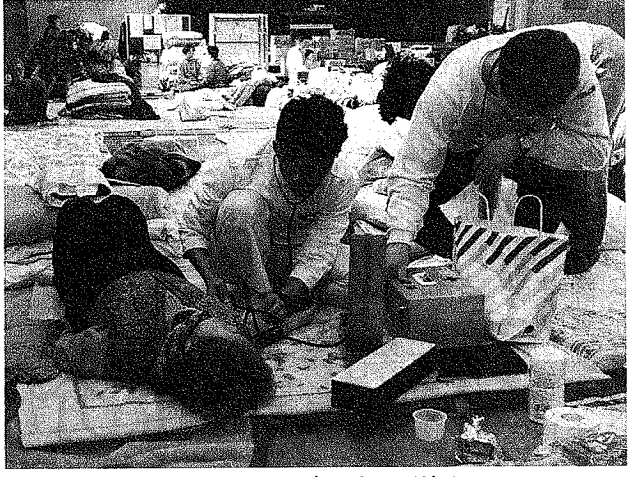
財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目5番6号
SEMPOSビル Tel(03)3486-7511

日本介護福祉士会

阪神大震災 一月を経ていま

求められる介護 「自分ひとりでは負いきれない。話したい」

「阪神大震災」。一月十七日の早朝兵庫県南部を中心に起きた直下型大地震から一月が過ぎた。五千二百五十人を越える死者の中には、足腰も弱く逃げ遅れ、家屋の下敷きになる犠牲者が多く、特にお年寄りが目立っていた。直後の大混乱・食料不足・寒さから、今日までの一月に及ぶ避難生活。お年寄りや障害者の生活を守るべく仕事を続けている介護福祉士の目を通して大地震のつめ跡と今後の課題を追う。



一避難所での不安な生活が続く一

日本介護福祉士会は地震後、兵庫県介護福祉士会の会員の様子や職場状況をつかむため手配しているが、電話不通や所在不明で正確な情報がなかなかつかみ切れないのが実情である。全国の会員からも安否や様子を気づかう声が届いている。大阪をはじめ近隣の支部会員の有志が直後から現地へボランティア参加をしている模様であるが、会員達の総合的状況については把握にはもう少し時間がかかりそうである。

兵庫県介護福祉士会は事務局の米田満知子さんを中心に連絡のとれた理事一名と会い二月五日までにおける会員の様子や活動について話し合った。それによると、今のごとく死亡した会員の連絡は届いていない。「自分は小学校の避難地にいる」と自ら手紙をくれた会員もいる。二月十一日の県の研修会開催予定の日はあえさ延期の連絡が来ており、状況の連絡を知らせてほしいと言のたまも続いている。少しづつ全体状況をつかんでいく予定。淡路島にも会員が多いが電話連絡がとれず死亡者の確認もできていない。お年寄り達は持病が悪化してきている。米田さんは「非常時袋の中に薬を入れておくこと、又はどういった薬を飲むかを書いた紙を入れておくこと、これからホームヘルパーにやっておいてもらいたい」でも、どんなにいろいろ備えておいても、その非常時袋を取り出すことも、備えたいものごとくに行くことも出来ないのが今回。冷蔵庫のドアがひきまかれても何もかもメチャメチャに散らかる中では、どういう方法がいいのか、エリーネス須磨では入居者五十二名のカルテをラックに登録しており、またまたその日、担当者が入力しよと持ち帰っていた。機械はあれだがフロッキーは無事だったが、投棄の個人データもすべて出せた。

お年寄りはそれぞれに持病を持っている。被災直後からすくはじまる避難地の生活において、まず薬が手に入らない。何の薬を飲んでいいかわからない。被災直後は一日一食だった食事も現在は三食食べられる。電話は開通したが、ガスや電気はなかなかで食料は当初全部空輸であった。しかもすべて冷えて固くな

ったお弁当が毎食。職員やボランティア達は簡易コンロでお年寄りが何とかが食べられずにおかゆに作りがたり刻み直したりするが十分でなくお年寄りの体力も低下。下痢をする人も相次ぐが医者がいない。病院へ行けない。次々にお年寄りに追いつけなくなる。出来事となっている。

「エリーネス須磨」では温泉による浴場を早期から公開。病院や施設で働く職員やボランティアの人達が中心に利用。中には、一週間に一回程度しか入浴できない状況の中、被災された高齢者の方々の介護にあたり、支援する仕組みであるケアマネジメントの導入については、高齢者の立場に立つてサービスを調整する役割と弁論人としての役割が求められる。ケアマネジメントは、保健・医療・福祉のケア担当者等メンバーとするケアチームによって動められることが望ましく、すでに市町村には高齢者サービス調整チームがあるが、直接ケアに関わる担当者が参加しているチームでは高齢者へ適切な介護サービスが提供されている」と現状についても触れ、参加者からは、介護福祉士、及び日本介護福祉士会の役割が今後ますます重要となってきており、一層の自己研鑽が必要だという声があがった。お詫びいたします。

各県支部会長を集めて 高齢者介護システムの学習会開催

昨年十二月十三日厚生省介護対策本部に設置された高齢者介護・自立支援システム研究会から「新たな高齢者介護システムの構築を目指して」の報告書が発表された。

日本介護福祉士会では一月十四日(土)に東京乃木坂の健康会館において各県支部会長を対象とした「報告書」の学習会を開催した。講師に厚生省高齢者介護対策本部事務局次長山崎史郎氏を迎え、各県支部会長二十五名が熱心に報告書について学んだ。学習会では「報告書」に沿って、新介護システムの基本理念、新しいサービス体系、費用を中心とした概要説明がされ、山崎氏が「従来、高齢者介護は『お世話』という考え

一日一回のおにぎりしかなかった被災直後でもお年寄りが「私は半分でもいいから子供に分け与えてくれる姿があり、みんなすごく我慢している」と感じた。戦争を体験しているお年寄りたちは多くのサバイバルの知恵と知識を持っている。いろいろな教える姿も見られた。我慢の限度が不満となつて破裂する直前に三食食べられる様になった。

アとして介護活動に参加する旨を伝えている。全国社会福祉協議会や兵庫県老人福祉施設連盟の救護活動に参加予定。被災された方々の支援のため、息の長いボランティア活動を行うことが今、求められている。

スクランブル

「目の前で血にまみれた人々が息をひきこめていく中で何もできなかった。介護福祉士として無力を知った」という米田さんの言葉は印象的だ。だからと言って介護福祉士が不用と言っている訳ではない。介護の介は人を支えていく人の柱を意味すると言われる。今、被災地の人々は余震におびえたり、とび回る子供達の声等で眠れない一月が続き疲れも限界。冷たい床だった体育館や教室に一人一枚の畳が支給されたがみんなが傷ついている。皆が自分の状況を誰かに話したがっている。自分ひとりの心では負いきれないのだ。しかし皆が疲れているから十分聞いたらあきらめない。救急時には医療や看護がまず要求されたが、今夜たまりないうちにお年寄りの介護や心のケアをする介護が必要となつてきている。避難所に置くのは限界ではないかと思うお年寄りも遠くのホームへ行くのはもういやだという。

訂正とお詫び
十二月十五日発行の五号日本介護福祉士会「ニュース」において、全国研修会第五分科会の助言者は、日澤政和氏ではなく白澤政和氏に訂正させていただきます。また、第三分科会の助言者、舟木美砂子氏は舟木義隆氏ではなく舟木義隆専務取締役。また、シンポジウムの司会者は橋本三郎氏に訂正してお詫びいたします。

そしてこれから長い戦いが始まる。介護福祉士は救急疾患から慢性疾患として高齢社会という社会の発達段階から生まれた時代の子ども達に共に行き届くのが私達の仕事である。社会はそれぞれの立場の人々がそれぞれ必要場面助け合つて成り立っている。(栗)

特別寄稿

新たな高齢者介護システムへの動きと介護福祉士

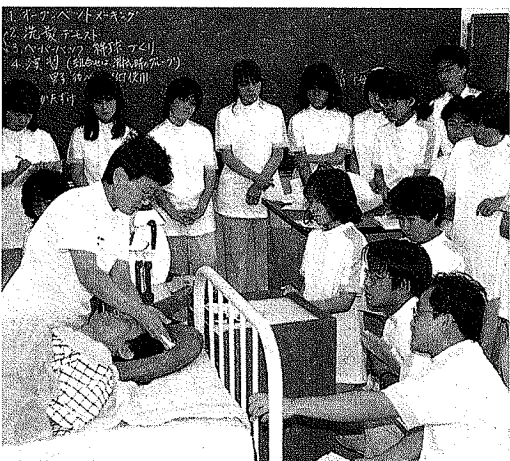
東京弘済園 弘済ケアセンター所長 橋本泰子

昨年の暮れ、厚生省は、「新たな高齢者介護システム」の構築を目指して」とする報告書を公表した。この報告書をたたき台として、老人保健福祉審議会での議論が始まっている。同時に、各方面からの積極的で建設的な議論も期待されている。介護が必要となった場合には、高齢者が自らの意思に基づいて利用するサービスや生活する環境を選択し、決定することを基本に据えたシステムを構築すべきである。この介護の基本的理念が私ども援助者にも求められている。サージス利用者の主体性を尊重するケアであり、十把ひとからげではない個性豊かなケアである。もちろんだらば、介護福祉士に求められる役割はどのようなものか。二つ目は、高齢者の命と暮らしを支えるケアチームの一員としての専門職としての役割を担うことである。その暮らしを見守り続ける役割を担うことである。効果的に稼働するためには信頼関係を築かなければならない。信頼関係は互いの職能を認め合い、互いの高い専門性を評価し合うことから始まる。介護と家事の専門職としての力を一層高めたい。

シリーズ③ 介護福祉士への道

(九州・宮崎) 日章学園高等学校福祉科 (静岡県) 県立吉田高等学校福祉科

介護福祉士国家資格を得るためには、いくつかの道があるが、今回は高等学校を卒業してから受験のコースを紹介する。



介護を学ぶ若い学生たち

九州宮崎にある「日章学園高等学校」の福祉科は、昭和六十三年に設立された福祉専門職人材育成を担っている。現在二級級八十名が福祉専門コースで学んでいる。その卒業後の三十五％は老人ホーム等の施設関係に就職。五十五％は福祉専門学校に進学している。日章学園の学生は宮崎県各地より来ているため、その実習先は学生の自宅近くの施設に依頼して、地域のコミュニケーションを計ることも目的として良い結果を得ている。この実習を経て学生のほとんどは進路を決めるといわれている。

上四十三名の応募があった。今回は三名の男子の希望者。東京YMCA専門学校「社会福祉科」「介護福祉士研究コース」開設。東京YMCA専門学校は、国都千代田区にある。福祉科は「介護福祉士研究コース」を開講。指導者や専門分野のワーカー育成が目的。

三つ目は、ケアマネジャーとしての役割である。ケアマネジメントとは簡単に言えば、安定した日常生活を維持するためのニーズを明らかにし、これを解決するために必要なサービスを効果的に利用できるような援助者である。これもケアチームで行っていることであるが、チームの中での主担当として、サージス利用者を見守りながらその暮らしを見守り続ける役割を担うことである。効果的に稼働するためには信頼関係を築かなければならない。信頼関係は互いの職能を認め合い、互いの高い専門性を評価し合うことから始まる。介護と家事の専門職としての力を一層高めたい。

第七回介護福祉士国家試験 全国十一会場にて実施。第七回社会福祉士・介護福祉士国家試験が、全国十一会場において二月二十一日の日に実施された。受験者数は社会的ニーズの高まりが過去最高となり、社会福祉士が五千七百八十六人、介護福祉士が一万四千四百九十九人。

合格発表は、社会福祉士が四月五日、介護福祉士が三月二十二日の実技試験後の四月二十日に行われる予定。各会場の介護福祉士国家試験受験者数は次の通り。

「チリ紙」 神奈川県にある特別養護老人ホームでの出来事。痴果のお年寄り十人を連れて泊旅行に出かけた時のこと。

「チリ紙」 神奈川県にある特別養護老人ホームでの出来事。痴果のお年寄り十人を連れて泊旅行に出かけた時のこと。

「チリ紙」 神奈川県にある特別養護老人ホームでの出来事。痴果のお年寄り十人を連れて泊旅行に出かけた時のこと。

「チリ紙」 神奈川県にある特別養護老人ホームでの出来事。痴果のお年寄り十人を連れて泊旅行に出かけた時のこと。

山梨の夢追い人 特別養護老人ホーム「仁生園」 寮母 井上早智子

介護機器点検表による全国会員アンケート調査

車イスとポータブルトイレ 介護者側から利用者側から

日本介護福祉士会 介護開発委員会報告(パート1)

「よしん(八十才男性は)偏屈で頑固な方です。昨年の夏頃から車椅子生活になり、今まで生きていた排泄面の処理ができません。介助が必要になってしまいました。Iさんは介助を拒否するのです。自分では対応できないとわかっていても、そんなIさんが、あるきっかけから、介助する事を拒否しなげなりました。それは、私が夜勤で、朝の着替えをやらせて聞き入れてもらい、フンドシの紐を結び前に回ってかがみ、

日本介護福祉士会の介護開発委員会は、介護者、利用者にとって、より使いやすく自立を高める介護機器の開発をめざす第一歩として、市販されているポータブルトイレと車イスについて独自に作った介護機器点検表を各県支部に発送。その結果、車イスについては四十六人から、ポータブルトイレについては三十八人から回答が寄せられ、委員会は、それらをまとめた一部を発表した。秋田委員長はこの度の第一回調査について「メーカーや型式について特に指定をしなかったのだから、多種多様な回答になった。利用者や介護者から見た使いやすさ、安全性、衛生、管理、経済性について調査したが、まとめてみると共通点が出てきている。その共通点をもとに、より良い製品の姿が見えてくるような気がしています」と語っている。

米改善を要すると思う点
①利用者側から
・背もたれがあるため、蓋の閉閉がしにくい。
・立ち上がりやすさや足が底部(楕円形)にありたり立ちにくい。
・小物入れが外れやすく不便。
・座の高さがみな同じ、背の低い人では足がつかず不安定。
②介護者側から
・片手でもロールからパーを必要分だけ切り取れる工夫が欲しい。
・座の高さの調整が出来て簡易手摺りや前に握まるパッドがあるといい。
③安全性
・利用者の立場で
・手摺り、背もたれがあり、安定して排泄が出来。
・移動介助時のみ、ナースコールで呼ばれば、排泄が落ち着いて出来る。
④介護者の立場で
・利用者の立場で
・ふたを開けるとき、大きな音がする。
・滑り止めの工夫が欲しい。
・便座がやや薄く、ひび割れしやすく、止め具が外れやすい。
・本体の細かい部分の掃除が十分に出来ない。
・排尿時はね返りがあるのか、内容器の取手が汚れるし、内容器の上周辺も汚れる。
・しぼりへ使用すると内容器が変色、汚く感じる。

米改善を要すると思う点
①利用者側から
・背もたれを支えるパイプが便座のところにあり汚れ易く掃除がしにくい。
②介護者の立場で
・背もたれを立てず排泄しづらい。
③安全性
・利用者の立場で
・便座とポディが識別できず、色分けをする。
・便座の高さを二、三種にしたらいい。背の低い人は足が届かずに危険。
④介護者の立場で
・ふたを開けると、大きな音がする。
・滑り止めの工夫が欲しい。
・便座がやや薄く、ひび割れしやすく、止め具が外れやすい。
⑤衛生・管理
・利用者の立場で
・ふたが軽くて開閉が楽であり、プラスチックの割に肌ざわりがいい。
・安定感があり、自力で使える可能な方には手入れも楽に行える。

米改善を要すると思う点
①利用者側から
・背もたれを支えるパイプが便座のところにあり汚れ易く掃除がしにくい。
②介護者の立場で
・背もたれを立てず排泄しづらい。
③安全性
・利用者の立場で
・便座とポディが識別できず、色分けをする。
・便座の高さを二、三種にしたらいい。背の低い人は足が届かずに危険。
④介護者の立場で
・ふたを開けると、大きな音がする。
・滑り止めの工夫が欲しい。
・便座がやや薄く、ひび割れしやすく、止め具が外れやすい。
⑤衛生・管理
・利用者の立場で
・ふたが軽くて開閉が楽であり、プラスチックの割に肌ざわりがいい。
・安定感があり、自力で使える可能な方には手入れも楽に行える。

米改善を要すると思う点
①利用者側から
・背もたれを支えるパイプが便座のところにあり汚れ易く掃除がしにくい。
②介護者の立場で
・背もたれを立てず排泄しづらい。
③安全性
・利用者の立場で
・便座とポディが識別できず、色分けをする。
・便座の高さを二、三種にしたらいい。背の低い人は足が届かずに危険。
④介護者の立場で
・ふたを開けると、大きな音がする。
・滑り止めの工夫が欲しい。
・便座がやや薄く、ひび割れしやすく、止め具が外れやすい。
⑤衛生・管理
・利用者の立場で
・ふたが軽くて開閉が楽であり、プラスチックの割に肌ざわりがいい。
・安定感があり、自力で使える可能な方には手入れも楽に行える。



背もたれ式ポータブルトイレ

「消えた壁」
大分県介護福祉士会会員
阿部 勢津子

「消えた壁」
大分県介護福祉士会会員
阿部 勢津子

「消えた壁」
大分県介護福祉士会会員
阿部 勢津子

「消えた壁」
大分県介護福祉士会会員
阿部 勢津子

「消えた壁」
大分県介護福祉士会会員
阿部 勢津子

自立 シリーズ 介護福祉のまど ③ スウェーデン編



(ストックホルム在住) フリーライター 奥村芳孝

白い調査結果がのっている。この調査によると第一に親が単身の場合、第二に持ち家の場合、第三に長男の場合、第四に見合い結婚のほうに恋愛結婚よりも同居率が高い。高齢者の自立について考えて見た場合、三つの条件がある。一つは高齢者が自立できる物理的環境であり、二つ目は経済的環境、三つ目は高齢者の精神的環境である。物理的環境として、住宅の整備と福祉の充実が上げられる。スウェーデンは一九二〇年代より、住宅政策に力を入れており、特に高齢者の住宅には力が入られてきた。この結果スウェーデンの高



ストックホルム市街の中心にある老人ホーム「ホルムラッドサービスハウス」
白い調査結果がのっている。この調査によると第一に親が単身の場合、第二に持ち家の場合、第三に長男の場合、第四に見合い結婚のほうに恋愛結婚よりも同居率が高い。高齢者の自立について考えて見た場合、三つの条件がある。一つは高齢者が自立できる物理的環境であり、二つ目は経済的環境、三つ目は高齢者の精神的環境である。物理的環境として、住宅の整備と福祉の充実が上げられる。スウェーデンは一九二〇年代より、住宅政策に力を入れており、特に高齢者の住宅には力が入られてきた。この結果スウェーデンの高

自立 シリーズ 介護福祉のまど ③ スウェーデン編

北歐諸国は福祉国家として有名で、毎年たかさんの日本人が視察に訪れる。一様に感心して帰るが一つ忘れていることがある。それはどのような原則に基づいて、社会が高齢者、障害者等に介護を行うのかという点である。彼らが貧しいから介護を行うのであろうか。或いは彼らがかわいそうだから介護を行うのであろうか。スウェーデンにおけるケアの原則は彼らの自立を助けることである。スウェーデンの高齢者のうち僅か四パーセントの人が子供と住んでいる。日本ではこの数字は六〇パーセントである。この四パーセントという数字はヨーロッパの中でも低い数字である。が、反対に日本の六〇パーセントというのは、先進諸国の中で非常に高い数字である。去年出版された平成六年版国民生活白書には面

「個人が強い社会は自分に対しても厳しい」
個人が強い社会は自分に対しても厳しい

個人が強い社会は自分に対しても厳しい
個人が強い社会は自分に対しても厳しい

個人が強い社会は自分に対しても厳しい
個人が強い社会は自分に対しても厳しい

がんばっています —各県支部活動—



各県活動 —これからの予定—

福岡県介護福祉士会

○介護実習・普及センター
設立準備会参加
平成八年オープン予定の
「県庁総合福祉センター」
内に開設する同センターの
設立準備委員会として因会長
が参加。

○「社会福祉施設就職説明
会」(県社会福祉人材センタ
ー主催)
二月二十八日(火)福岡ファ
ッションビルホールにおい
て開催される表記事業に、
介護及び資格取得相談員と
して会員を三名派遣。

○「痴呆性高齢者問題シン
ポジウム」(厚生省・福岡県
主催)
三月四日(土)百道ハルス
にて開催される表記事業に、
介護及び資格取得相談員と
して会員を派遣。

○支部研修会
筑豊支部—一月二十一日
「JANの介護」講師藤原
直高氏(支部役員)
筑後支部—二月四日「リハ
ビリテーション」知識と技
術」講師阿部直氏
福岡・福岡市支部—二月四
日「老人と性」講師森高氏
北九州支部—一月五日「現
場と介護福祉士」講師藤原
梅幸氏、「公的介護保険の導
入で介護の現場はこう変わ
るか」講師河野正輝氏。

山梨県介護福祉士会

○第二回山梨県介護福祉士
会研修会
二月二十五日(土)甲府市リ
バース和戸にて開催。
午前、事例研究発表及び講
演「ケアプランと介護保険」
講師 吉原久子県会長
午後演習「在宅と施設にお
ける介護技術の基本と応
用」講師 山崎イチ子岐阜
県会長。

高知県介護福祉士会

○「在宅介護者の集い」
二月二日(日)、グリーンピ
ア高知で開催される表記事
業に講師として会員を派遣
○「痴呆性高齢者問題シン
ポジウム」(厚生省・福岡県
主催)
三月一八日(土)広島県社
会福祉会館にて開催。

広島県介護福祉士会

○通常総会及び講演会
三月一八日(土)広島県社
会福祉会館にて開催。

宮崎県介護福祉士会

○講習指導者養成研修会
二月四日(土)宮崎医療福
祉専門学校にて開催。
○介護福祉士受験講習会
二月二六日(日)宮崎医療
福祉専門学校にて開催。二
五名の会員が指導にあたる。

新潟県介護福祉士会

○受験実技セミナー及び実
技模範試験
二月一日(土)佐渡地区
真野の里にて。
二月二日(日)中越地区
長岡福祉専門学校にて。
二月九日(日)下越地区

各県活動報告

広島県介護福祉士会

○一月二四、二五日の平
成六年度介護福祉士現任研
修会(主催全社協・県社協)
にて、事例研究発表の助言
者として協力した。

高知県介護福祉士会

○一月二二、二三日の平
成六年度介護福祉士現任研
修会の企画委員として参加
する。また当日はスタッフ
として会員が参加協力した。

滋賀県介護福祉士会

○社会福祉士・介護福祉士
合同セミナー
二月四日(土)柏崎市総合
福祉センターにて開催。講
師岡田史典県会長。

1/28東海北陸ブロック研修会(静岡市にて開催) 三百人の参加 —阪神大震災の義援金箱に 十二万円のあたたい応援

一月二十八日(土)静岡
市にある静岡県女性総合セ
ンター「あざれあ」れにて
東海北陸ブロック研修会が
開催された。



静岡県女性総合センターで開催された東海北陸ブロック研修会

を考へる」と題して山井和
則氏が講演。

千葉県介護福祉士会

○第三回千葉県介護福祉士
研修会
一月二五日千葉市コミュニ
ティーセンターにて「Q
OLの向上をめざして」を
テーマに分科会形式で事例
発表と討議を行った。

講評は淑徳短期大学助教授
亀山幸吉氏。
「脳挫傷の後遺症により夫
と離れて暮らす女性への援
助」等、高齢者の事例や精
神薄弱者更生施設での事例
を通して介護計画の立案や
方法を学習した。

当日は会員外の参加も多
く見られ当日の研修会に付
いてのアンケートでは、内
容について大変好評だった。

厚生省の福祉人材確保
対策の一環として一瀬正志氏の講演
後午後からは事例研究発表
会。静岡市社会福祉協議会
のホームヘルパー長坂みど
り、富山県大沢野町のホー
ムヘルパー中田カズエ氏、
岐阜県の特別養護老人ホー
ム寮母の坂田美栄子の三氏
が各十五分ずつ発表。

事例発表後十五分の会場
との質疑応答が行われ、介
護福祉士としての視点や気
づき、アセスメントや連携
について真剣な質問が発表
者に向けられた。その後東
山美知子氏の具体的な講評
と助言が続いた。最後は東
京弘済園弘済ケアセンター
所長の橋本泰子氏が「介護
福祉と創造性」について講
演した。会員からの発表で
置かれた阪神大震災の義援
金箱には、十二万二千六百
四十五円の気持ちで寄せら
れ日本赤十字を通して災害
地に送られた。

ジウムに会長出席
(於 広島市、主催 厚生
省・広島県)

第七回理事会 三月四日 東京にて開催予定

第七回理事会は、三月四
日十三時より、東京の健保
会館「ハートイン」乃木坂に
て開催の予定。日本介護福
祉士会参加の申請を出して
いる、茨城県・徳島県・東
京都・福井県・鳥取県・北
海道について審議する他、
五月十三日の総会に先立っ
て、平成七年度の事業計画
の詳細等について審議する
見通し。

平成七年度 第一回会長
会議の日程決まる
平成七年度、第一回会長
会議が四月八日、大阪市
中央区にある「大阪社会福祉
指導センター」にて開催さ
れる予定。新加入県も含め
二十九県の会長による会議
の予定。

新賛助会員
「全国介護福祉士養成施設
協会」「三井海上火災保険株
式会社」が新たに賛助会員
として介護福祉士会をハッ
クアップする事となった。

日本介護福祉士会
事務局の活動
十二月一日 中国・四国ブ
ロック寝たきり防止シンポ
ジウムに会長出席
(於 埼玉市 介護開発委
員出席)
十九日 「月刊福祉」座談
会に会長出席
(於 東京)

平成7年度 日本介護福祉士会 第2回総会

日時 平成7年5月13日(土)
場所 「大阪社会福祉指導センター」
(大阪市中央区)

平成7年度 日本介護福祉士会 第2回全国研修会

日時 平成7年11月17日(金)~11月18日(土)
会場 熱海温泉 「ニューフジヤホテル」
〒413 静岡県熱海市銀座町1-16
☎0557-81-0111
交通 東海道本線熱海駅下車
東海道新幹線熱海駅下車
主催 日本介護福祉士会
〒105 東京都港区虎ノ門1-21-17
NNビル4階(福祉厚生センター内)
☎FAX03-3507-0784

介護福祉士向け専門情報誌

季刊 介護福祉

購読料(年) 3,440円(送料含む)

財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目5番6号
SEMPOSビル Tel(03)3486-7511

専門性が支える介護福祉の充実のために

この資格に対する社会の期待も日増しに大きくなり、介護福祉士は、この期待に応えるべく、理念と資質の向上に努力することが責務であると考えます。この季刊介護福祉は介護について徹底した解説と具体的な介護行為を解説するほか、介護に関する最新情報をお届けしております。

購読申込みは、日本介護福祉士会事務局又は、各県介護福祉士会へお申込み下さい。



日本介護福祉士会

介護福祉士の就労実態と専門性の意識に関する調査

(中間報告)

「専門性認められていない」が半数以上も

全国の介護福祉士の勤務状況や専門職としての意識等に関する実態調査を行い、介護福祉士の就労実態や学習に対する課題等を把握し、今後の日本介護福祉士会活動の一層の充実を図っていくことを目的として、平成6年8月末現在の日本介護福祉士会会員及び各県所属の会員四七〇〇名を対象に本調査を行った。そのうち三三九五名から回答があり、回収率は51%である。

一、職場における業務内容と介護福祉士

《職務の内容と専門性との関係について》 処遇計画の立案評価 45.0%となっており、「関係の調整や打ち合わせ」28.6%、「介護教室の講師等の地域福祉活動」14.5%、「ボランティアの受け入れ調整や指導」14.1%等対外的な調整や地域活動に関わる職務はやや低い数値となっている。

二、介護福祉士制度について

《介護福祉士の資格を得た理由》

資格取得の理由として複数回答で聞いたところ、「介護技術を向上させ、処遇の向上に役立たせたいから」68.9%と最も多く、次いで「自分の力を試してみたかったから」51.5%、「人生経験のひとつとして」29.4%、「社会的評価が得られるから」27.3%、「福祉の仕事に就きたかったから」18.5%となっている。

《介護福祉士に求められる資質、条件》

「専門知識、技術に優れていること」が82%と最も多く、次いで「対象

介護福祉士の有資格者となられる皆様へ

介護福祉士国家試験に合格され、または介護福祉士養成校を卒業し、このたび国家資格である介護福祉士となられる皆様、心からのお慶びを申し上げます。

介護福祉士は日常活動において、看護婦、保健婦、PT、OT、その他多くの専門職の皆さんと肩を組む、多様なニーズに個別にこたえることがで

きいと思います。高齢者介護、障害者介護の基本理念は、高齢者、障害者が自らの意思に基づき、自立した質の高い生活の実現をめざして支援することです。

介護福祉士は日常活動において、看護婦、保健婦、PT、OT、その他多くの専門職の皆さんと肩を組む、多様なニーズに個別にこたえることがで

きいと思います。高齢者介護、障害者介護の基本理念は、高齢者、障害者が自らの意思に基づき、自立した質の高い生活の実現をめざして支援することです。

介護福祉士は日常活動において、看護婦、保健婦、PT、OT、その他多くの専門職の皆さんと肩を組む、多様なニーズに個別にこたえることがで

▽東海・北陸ブロック研修会は、新たに介護の特質、専門性について考えるきっかけとなった。弘済ケアセンター所長・橋本泰子氏から、自立支援を行う際に日常用語として使っている「QOL生活の質」について、言葉の意味を考えて使っていますかという問いかけがあった。「生活の質を高める」とは、「質の高い生活を営む」とは、「橋本氏は「その人が望んでいる生活ができること。その人の価値観、価値をおいているものが大切にされ、その人なりのライフスタイルが維持できるような生活が保障されていることが質の高い生活ではないだろうか」と述べている。長年築いて来たその人の価値観が大切にされ、その人なりのライフスタイルが維持できるような暮らしが保障される」とが質の高い生活ではないだろうか。栄養価が高いから、という理由でみかんを買ってはいなかったらどうか。利用者の声に真剣に耳を傾けていたどうか。自分の価値観や考えをさいび利用者に押し付けてはいなかったらどうか。▽介護は利用者の安定した日常生活を支える仕事である。相手の価値観に自分を添わせることのできる感性と柔軟性、観察力と分析力をもって、科学的な介護を実践していきたい。(雅)

講や受験勉強のための職務免除などの配慮」39.1%となっており、「特別に援助の必要はない」は3.8%にすぎない。《介護福祉士専門職の制度について》 介護福祉士専門職の制度が充実するためには何が必要か聞いたところ、「専門職としての労働条件の改善」が49.4%と最も多く、次いで「介護福祉士の研修学習活動の推進」45.0%、「介護福祉士としての実践力の強化」40.6%、「介護福祉士としての仕事に対する住民への啓発活動の推進」28.5%、「専門職団体の基盤強化」25.7%、「介護福祉士の職務倫理の確立」24.3%となっている。

江草先生よりこのようにメッセージが事務局に届いている。各県支部に届くか、支部未設置県については直接日本介護福祉士会事務局に手続きをしていただきたい。

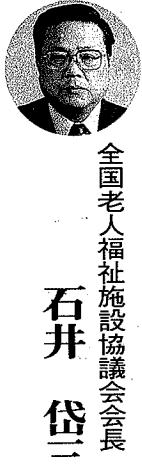
今回、専門性の意識に焦点を絞っての一部報告とする。最終的な分析、報告書の作成は7年度の事業の中で、8月頃を予定している。

《調査研究委員会報告》 なお、支部未設置県においても、厚生省社会、援護局全国民生主管部局長会議資料により、社会福祉士会、介護福祉士会の設立の推進について、その育成のための配慮を都道府県に願っている。各県介護福祉士有資格者並びに関係機関の皆様方の努力でぜひ支部が設置されるよう期待している。

《訂正とお詫び》 2月15日発行のニュース第6号の特別寄稿「新たな高齢者介護システムへの動きと介護福祉士」は東京YMCA専門学校で東京YWCAの誤りでした。訂正してお詫び致します。

特別寄稿

新たな高齢者介護システムにおける介護福祉士の役割



全国老人福祉施設協議会会長
石井 岱二

高齢者の介護は年々増えると同時に重要性が増して行くことはご存知の通りである。その介護は福祉の場のみではなく、医療にも、保健にも必要なのである。

特に医療における介護は、治療に対して病人自身の自然治癒力を強化することによって、治療効果を上げることが最も重要な介護なのである。医療機関における介護は

高年齢の介護は年々増える意味においては治療的介護となり、病気の回復を促進する役割を持つことになるのである。

保健においては現在も実施していることであるが、介護が主体であったり、介護が二次的な役割となつていて、保健施設の主たる機能はリハビリによる回復効果であるが、自立を目的としたものである。長期生活をする所ではないのが特色とされて

生活面の援助も含めて多面的に行うことから、生活リハビリが可能となり、自立援助には生活の中で実践されることで無理がなく出来る所が長所である。

在宅での介護は、主に家族が中心となつて行われるがセオリーの考え方がない部分も多くある。しかし知識と経験が十分にある人にとつてみれば簡単であると言えるのである。施設における介護は

下越、佐渡の4ブロックに分けて開催。実技講習と模擬試験を行った。内容はボディメカニクスを利用した介護、トランスファー、車いすの介助、洗髪、足浴など。4ブロックで110名が参加。会場が講師、スタッフになつてのセミナーで、この日に向けての相互の研鑽が資質の向上目的になつて

技術に理論的うらづけを

二次試験対策実技セミナー各地で開催

◎宮崎県 2月25日、宮崎医療福祉専門学校で、63名の受講者に指導員21名で開催。シツ交換、衣類の着脱トランスファー、杖歩行など、きめ細かな指導を行った。

◎東京都 2月26日、江戸川区東京福祉専門学校で、51名の受講者に講師3名、当会理事がスタッフとして協力して開催。

◎福岡県 3月5日、県内4支部で一斉に開催。今年で3回目になる。模擬試験の問題作成や会場設営が会員が行い、毎回150名が受講している。

◎山口県 筆記の模擬試験も行っており、障害形態別介護技術の問題は毎年会員が分担して作成。実技では平成4年から模擬試験を行っている。



新潟県 上越、中越、

求められる確かな技術

各県介護福祉士会では実技試験に向けて執心な取り組みがなされている。東京都のように、試験対策ではなく継続的な実技講習会を行っている支部も少なくない。新潟県の受講者や講師となつた会員からは「現場での自分の介護が変わつた」「介護を見直す良い機会となつた」という感想がある。

と云いたいのである。ここに活躍する介護福祉士は、質の高い福祉マインドのあるサービスを提供することが求められているのである。

次に、社会がどのような要求をするかが問題となる。「いつでも、どこでも、誰にでも」公平に供給することが最も大切になる。

その第一としては、供給するサービスが利用する人たちに最適なものでなければならぬのである。その方法としてケアプラン(個別介護計画)があると考えるべきである。

施設でも在宅でもケアプランを立てることが一般化する、介護法が利用者や家族に理解されることになる。これが介護を見せることになり、評価しにくかつた介護が理解されることになり、家族の役割と介護福祉士の役割が明確になるのである。

従つて役割分担が出来ることによって介護が軽減されると同時に、受け手の人には希望が湧くことになる。この希望を持たせることによって生き残る力が出て来るのが、回復を早める要因になるのである。このような作用は個別介護計画によるものであり、21世紀の高齢化社会の中では大いに生かされるものであると言え

高校卒業から現在まで、少々廻り道をした。生命保険会社の事務員8年半、証券会社に3年のOL時代は、華やかさの一方で、数字のさびしさ、つらさ、上下の人間関係のむずかしさを身をもって学んだ。出産後の子供の病気で止むなく退社したが、私なりに誇りをもち、全力投球してきた。

むなしさ、かなしさを感じながら、何か人のために役立つ仕事をしたいとの道を選んだ。40歳であった。義父母との同居でお年寄り宅の訪問に違和感はなく、心はなごみ、入社半年後に担当した精薄児を持つ母親から、「境さん、私も歳で介護福祉士試験にトライ! 普通の会社勤めを継続していたら経験できなかった心のうらさ、相手に対する思いやりを十分に感じて



心の痛みがわかるヘルパーへ

高岡市社会福祉協議会 ヘルパー境 法子

多くの心から信頼され、心の痛みがわかるヘルパーをめざし、50歳で介護福祉士試験にトライ! 普通の会社勤めを継続していたら経験できなかった心のうらさ、相手に対する思いやりを十分に感じて

私達介護福祉士に医療行為は出来ない。しかし15年間の経験と実績をオブラートに包んで、心の薬(愛)をいつでも、誰にでも差し出すことのできる介護者になるため、自己を見つめ、研鑽に努力したい。

大阪コミュニケーション介護福祉士のための研究コース開設

大阪府淀川区にある大阪コミュニケーション介護福祉士専門学校は「介護福祉士のための研究コース」を本年4月から開講。現役介護福祉士を対象として、これより高度な研修の機会を提供することが目的である。

介護福祉士として現場で活躍する人たちが、より深い専門知識と高度な技術を修得することによって、自らが考えている問題を直視し、様々な状況に適切に対応できる上が求められるようになってきていることもまた事実である。

内容は、今年「体の科学」「生活リハビリ」「ターミナル・ケア」「福祉レクリエーション」の4科目を設けている。各科目とも13回で構成されている。

コースは、夜間の1年コースとし、前期・後期に分けられている。また、現場で働く人の勤務の都合を考慮して、毎週火・木曜日の18時30分～20時30分としている。受講資格者は、介護福祉士である者で、定員は40名、先着順に受付している。

問い合わせ 大阪コミュニケーション介護福祉士専門学校 (06) 3093232

「ハイキング」

春が近く、日差しも柔らかくなって来たある日、神奈川県特別養護老人ホームでは大騒ぎ。ある入所者が「今日はハイキングですよ」と各居室にふれまわつていました。他の入所者は「私もつれていってもらえませんか。さあ何を着ていこうかしら」とにわか

「いいえ、申し送りノートにも書いてないし、誰が計画したのかしら。まだ外は寒いし」と皆首をひねるばかり。おふれを出した入居者に「誰がハイキングにつれていってくれるの?」と思ひあまつて訊ねると、「ほらここに書いてあるでしょ、ハイキングつて」と日々の献立を書くメニュー板を指してすまし顔。寮母はなるほど、次はハイキングだったのです。おまけにハイキングのバンのが何かのひょうしにこすれて消えてしまつていたので、ハイキングも楽しみですが、外出することがそれ以上に待ち遠しい冬でした。もうそろそろ暖かい日にお出掛けしましょうね。老人ホームの「春よこい」の一日でした。

阪神大震災ボランティアレポート

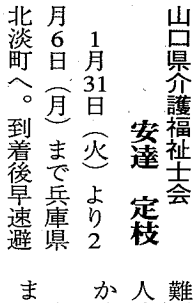
心の癒しを介護で……

現地ですめられた専門性

地震発生から3か月が経過した。この間、北淡町、神戸の病院、長田地区などの援助活動を行った。現地入りした会員より報告が届いているのでここにその一部を紹介する。

山口県介護福祉士会
安達 定枝

1月31日(火)より2月6日(月)まで兵庫県北淡町へ。到着後早速避難所2か所まわる。若い人達は家のかたづけに出かけ、お年寄りが多い。風呂にも入れず洗顔もままならない避難所で、先ず私達が行ったのは熱いおしぼり配り。ビニール袋に熱くしぼったおしぼりを10枚位入れ、口を固く閉めて一人一人に手渡す。「フーツ、気持ちいい」という声が聞かれた。館内は空気がよ



緊急避難所でホットと一息

きた。生きた心地がしなかった」と額のすり傷も生々しい老人の姿。また75歳の老人は、寝ていたベッドの棚がタンスの直撃から身を守ることになった、と話していた。避難所からきた85歳の老人は、寝たきり状態のまま体育館で数日過ごし、褥そうが出来てしまし、褥そうが出来るまゝ身を寄せる。身体的ケアも大切であるが、心理面、精神面のケアも一層の大切さを痛感する。特に高齢者には、今まで体験したことのない恐怖が不安要因になり、精神的な症状が現れている。環境への適応能力の低い老人にとって避難所生活が長びいて、病気の悪化や痴呆症状が現れることが懸念される。一日も早く安住の地で心の傷を癒されるよう願っている。

大阪介護福祉士協会
北川 妙子

施設援助に参加。このホームでは特に大きな被害はなく、水道電気がガスは平常通り使用可能、建物にもさほど影響はなかった。自宅で被災された方々のショート受け入れで、20名の被災者が利用している。

「その時、天井に穴があき、2階の風呂の水が落ちて寝ている顔の上に落ちて

みどり荘にダウン症による知的障害の男性がおり、入所して20年、60歳になります。いつもみんなの人気者でしたが4年位前から痴呆が進行し、今ではほとんど全介助の毎日です。言葉が少なくなり、動作も緩慢で、次に何をしたらいいかわからない状態です。今では十八番の歌や踊りもご無沙汰で寂しいことですが、さすがみんなに親しまれているだけあって、今でも人を笑わせてくれます。

食事をする時になって義歯がないことがわかり、あちこち捜してみますがどこにもありません。何とコタツの中に大切にしまっていたのです。ある夜はトイレの掃りに部屋がわからなくなり、女子の部屋にお邪魔しました。枕元に座

だれかさんが 笑った

「笑って許して」

長崎県介護福祉士会
みどり荘
救護施設
片岡 郁子

り、足などをなでておりましたので、寝ていた彼女はびっくり、寮母室へ飛んで行きました。またある時は、トイレのスリッパをはいたままテレビを見て、その時、天井に穴があき、2階の風呂の水が落ちて寝ている顔の上に落ちてきた。生きた心地がしなかった」と額のすり傷も生々しい老人の姿。また75歳の老人は、寝ていたベッドの棚がタンスの直撃から身を守ることになった、と話していた。避難所からきた85歳の老人は、寝たきり状態のまま体育館で数日過ごし、褥そうが出来てしまし、褥そうが出来るまゝ身を寄せる。身体的ケアも大切であるが、心理面、精神面のケアも一層の大切さを痛感する。特に高齢者には、今まで体験したことのない恐怖が不安要因になり、精神的な症状が現れている。環境への適応能力の低い老人にとって避難所生活が長びいて、病気の悪化や痴呆症状が現れることが懸念される。一日も早く安住の地で心の傷を癒されるよう願っている。

でも誰も彼の行動には怒れないうです。怒っても後では許しているし、無力な彼には、自然に手を貸したり世話をしたりしています。みどり荘には精神障害者の方が半数近くおられるので、彼の存在は人をなごませてくれる光のようです。利用者と共に生活していると、与えられることよりも与えることを、許されることよりも許すことを、生活の中からは生み出していることが何れもです。

それらは、彼の行動の「笑い」の中から生きてきたものと思われたい。日々の笑いの生活に感謝の気持ちを忘れないうと痛感する毎日です。

介護機器点検表による全国会員アンケート調査

車椅子とポータブルトイレ

日本介護福祉士会 介護開発委員会報告(パート2)

介護者・利用者にとつてより使いやすい、自立を高める介護機器の開発をめざして行った調査結果報告書。今回は家具調タイプと標準型のポータブルトイレについてのまとめである。

家具調タイプ

使い易さの良い点を見るとき、どっしりと安定感



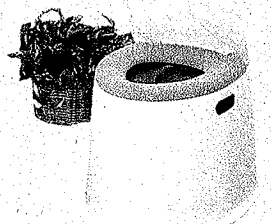
家具調トイレ座楽

があり、外見は家具調であるので、部屋にあってもトイレとは思えない。背もたれも丈夫で、椅子としても使用でき、立ち上がりやすい。改善を要する点では、少々幅が広く座りにくい。固くお尻が痛いなど、やせている人には問題があるようだ。中ぶたを取ったときに置き場がない。ポリアクセスが動いて尿もれがある。もう少し軽量で、丸みがあればよいとの意見もあった。

安全性からみると、安定感があり転倒の心配がない。また破損の心配もなく、介助なしでも移動しやすい。改良を要する点として、両サイドの枠が握れる位細くて、頑丈なものであればよい。高身長の人には低いとの感もあるようだ。

衛生、管理面からは、木製のため汚れがとりにくい、消臭効果が高い。ふたの開閉時の音が静かなので、トイレの音が気になるのを軽減する所がある。ペーパーをかける所がない、座板が冬は冷たい、失敗したとき、染み込みやすくジメジメ感がある問題もある。

価格面からは、家具調タイプが三万九千八百円から五万円とやや高価であり、良く使われている標準タイプは八千五百円から一万三千円と低価格であるが、各項目の評価は低い。(今回は車椅子について掲載)



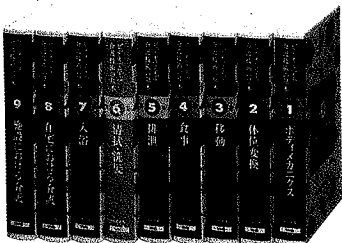
ポータブルトイレスタンダード型

お年よりをやさしくサポートする中央法規

ビデオで学ぶ 介護技術の基本 1224

介護を行う際に必要な基礎知識や介護の場面における一連の流れを、ストップモーションや違う角度からの映像を駆使し、わかりやすく解説。

- 厚生省社会・援護局施設人材課/監修 中央法規出版/企画
- NHKエデュケーショナル/制作
- 定価180,000円 全9巻(VHS、各巻平均25分)



おはよう21 (月刊誌) 6021

専門職として、更なる熟達を目指す方々のための総合情報誌。介護現場の様々な実践・創意工夫から「介護とは何か」を問い続ける。

- 年間購読料11,460円(送料込)
- A5判 100頁



福祉レクリエーション実践マニュアル 1272

●福祉レクリエーション・ワーカー研究協議会/編集 ●定価3,000円 B5判 278頁 「生活の快」のためのレクリエーションを理論・実践の両面から考える。すぐに実践できるレクリエーション・プログラムをイラストや写真を用いて詳しく解説。

在宅介護支援センターに学ぶ ケースマネージメント事例集 1117

●白澤政和/編著 大阪府地域福祉推進財団/協力 ●定価2,800円 B5判 288頁 保健・医療・福祉連携のキーワード=ケースマネージメントは、現場で具体的にどのように実践されるのか。ケースマネージメントの実施機関として期待されている在宅介護支援センターの事例から、そのあるべき姿を探る。

【事例でみる・学ぶ】福祉実践演習ブック 1316

●黒澤貞夫/著 ●定価2,500円 B5判 204頁 福祉現場で実際に行われたカンファレンスや研究会を紹介し、生活課題の解決へのプロセスを導く。福祉従事者の方々が実践で役立てることができるよう、演習・実習のポイントを設けた。

各県支部活動

これからの予定

○茨城県 総会及び記念講演会
4月20日(木)開催
記念講演の講師は三好春樹氏「新しい老人ケアー・安静介護から生活づくりのケアへ」。講師は会員のアンケートで決定。

○長野県 通常総会及び記念講演
4月22日(土)長野県民文化会館にて開催。長野県社会福祉部厚生課による県福祉行政の説明がある。記念講演「高齢者のケアを科学する」。講師は井上勝也氏(筑波大学教授)「老年行動科学研究会(会長)」

○山口県 総会及び講演
4月23日(日)山口県セミナーパークにて開催。講演「福祉と共に生きる」講師佐々木重行氏(山口県社会福祉事業団副理事長)。

○宮崎県
4月23日(日)開催。講師 板本一三郎氏。

○富山県 通常総会及講演会
5月21日(日)富山市民プラザ3階AVスタジオにて開催。午前11時から通常総会。午後は講演会。講師は橋本泰子氏(弘済ケアセンター所長)福田まつ江(富山県立中央病院総看護部長)。

○千葉県 通常総会及講演会
5月28日(土)蘇我コミュニティ、千葉勤労者総合福祉センターにて開催。午前10時半から通常総会。午後は講演会。講師は大野勇夫氏(日本福祉大学教授)「公的介護保険とケアマネージメント」大田貞司氏(帝京平成短期大学助教授)「介護福祉士の将来像」。

○兵庫県 第1回研修会
6月4日(日)神戸総合医療介護福祉専門学校にて「ケアワークの専門性を考える」がテーマ。記念講演は沢田清方氏。

○新潟県 総会及び記念講演
6月24日(土)長岡市厚生会館にて。講師は舟木美砂子氏(舟木義肢専務取締役)演題は未定。引き続き新年度第一回講師養成講座の予定。

○香川県
4月22日(土)県リハビリテーションセンターにて所属代表者会議。
5月27日(土)香川県リハビリテーションセンターにて平成7年度総会開催。

○青森県 研修会
1月28日(土)弘前市社会福祉センターにて開催。「痴呆性老人を在宅で支える」などをテーマに事例発表を行い、続いて市社会福祉協議会職員と題した講演があった。

○埼玉県 第2回研修会
2月5日(日)テーマは「あたりまえの生活をめざして」。ジャーナリスト大熊一夫氏が「明るい老後を手に入れるために」と題して講演。続いて「痴呆性老人の介護について」自立支援について「各分科会が行われた。助言者には中田光彦氏(淑徳大学講師)高橋里子氏(日本社会事業大学助教授)。一般の参加者も多く熱心に意見交換が行われた。160名参加。

○福岡県 介護福祉士養成校卒業生全員入会
2月22日(水)福岡介護福祉専門学校にて「日本介護福祉士会、県支部入会説明会」を開催。今春卒業の4回生全員(38名)が入会した。

○岡山県 第2回研修会
2月28日(火)岡山郵便貯金会館にて開催。「ケアマネージメント」のテーマで黒澤貞夫氏(岡山県立大学教授)が、「人にかかわるといこと」のテーマで柳田公佑氏(ゆうくりニック院長)が講演された。

○東京都 第1回実技講習会
2月26日(日)東京福祉専門学校で開催された。「本当にわかっていませう、バイタルチェック」の課題で血圧や体温

○静岡県 中部支部例会
3月4日(土)静岡県中央福祉センターにて開催。講師は中田光彦氏(淑徳大学講師)高橋里子氏(日本社会事業大学助教授)。一般の参加者も多く熱心に意見交換が行われた。160名参加。

○福井県 介護福祉士会より高井和子会長(特養津山崎園養母主任)が、県特別養護老人ホーム老人保険施設サービスマン老人保険の委員に就任。委員会の目的は、介護の質の向上を目指し、福祉サービスマン標準化を図る事にある。

○香川県 定例研究会
3月25日(土)県リハビリテーションセンターにて。講演「痴呆性老人の介護」講師香川県介護専門学校西島和子先生。

○理事會報告
3月4日、第7回理事會を東京で開催。阪神大震災に対する支援活動として長田支援ネットワーク、吉田アデント病院に会員派遣の報告。倫理綱領原案を各支部を通じて会員に提示、検討の上意見を理事會に。平成7年度通常総会代議員の選出について周知。各県会

○事務局長の活動
2月5日 月刊「厚生」インタビュー取材(会長)
2月13・14日 兵庫県老連、長田支援ネットワークへのボランティア派遣現地打ち合わせ(会長、南理事、岡田理事)
2月26日 第6回組織委員会(於東京)
2月28日 福利厚生センター「在宅介護支援事業充実のための調査研究委員会」第1回会議(南理事)

○3月4日 第7回理事會、広報委員会(於東京)
○3月11日 社会的地位向上委員会(於宮崎)
○3月13日 大阪府庁大阪府社会福祉協議会に平成7年度通常総会出席依頼、大阪社会福祉指導センターに会場借用などのあいさつ、会場設営に係る現地打ち合わせなど(井原理事、南理事)
○3月18日 広島県介護福祉士会臨時総会(会長出席)
○3月19日 社会的地位向上委員会(於宮崎)
○3月22日 第5回介護の未来を語る会「全国老人福祉施設協議会主催」(会長出席)
○3月26日 調査研究委員会(於香川)
○3月27日 福利厚生センター「在宅介護支援事業充実のための調査研究委員会」第2回会議(南理事)

日本介護福祉士会 平成7年度通常総会及び記念講演会

日時 平成7年5月13日(土) 10:00~16:00
場所 大阪社会福祉指導センター5F大ホール
内容 通常総会10:00~12:00
記念講習会13:00~16:00
講演 13:00~16:00

「福祉施策の動向—介護問題を中心に—」
厚生省社会援護局福祉人材確保対策室長 本田 一氏
「これからの老人ケア—ケアプランとケアマネージメント—」
東京都老人総合研究所主任研究員 鎌田ケイ子氏

大阪社会福祉指導センター
大阪府中央区中寺1丁目6番54号 ☎06-762-9471
交通 ▷地下鉄谷町線谷町6丁目下車
南西4番出口より南へ3つ目の信号
谷町七丁目交差点を右へ
▷地下鉄千日前線谷町9丁目下車
北西2番出口より北へ3つ目の信号
谷町七丁目交差点を左へ

中国四国ブロック研修会

テーマ 「介護福祉士と自立支援 21世紀の介護システムを考える」
日時 平成7年6月3日(土)
会場 湯田温泉 かめ福ホテル
厚生省行政説明
記念講演 「介護福祉士とケアマネージメント」
橋本 泰子氏(西南女学院大学教授)
午後は4分科会に分かれて研究討議を行う。
参加予定 400名
参加費 会員 1,500円(昼食含む)
一般 3,500円(昼食含む)
事務局 山口県介護福祉士会
☎0839-87-1310 FAX 0839-87-1330

関東甲信越ブロック研修会

日時 平成7年8月19日(土)
場所 長野県民文化会館
厚生省行政説明
記念講演 石井岱三氏(全国老人福祉施設協議会会長)

九州ブロック研修会

日時 平成7年8月30日(木) 13:00開会
平成7年8月31日(金) 12:00閉会
場所 大分県別府市観海寺 杉の井ホテル
☎0977-24-1141(代)
事務局 大分県介護福祉士会
☎0975-52-6888 FAX 0975-52-8880

日本介護福祉士会平成7年度ブロック研修会

2年目を迎えて、さらなるサービスの充実をはかります。

- ① 大規模年金保養基地(グリーンピア)と泉郷「保養所システム」の利用料割引
- ② 永年勤続の方のリフレッシュのために、ご希望の旅行券、食事券などを贈呈
- ③ 海外研修旅行の実施と、費用の一部を助成
- ④ 機能性やデザインにこだわったワーキングウェア(仕事着)を、割安な価格で提供
- ⑤ 職場のクラブ・サークルが対外交渉活動を行う場合、必要な経費の一部を助成
- ⑥ 「東京ディズニーランド」「三越」「高島屋」など新たに16社と提携

- ⑦ 旅行・スポーツ大会など、各都道府県で企画された会員交流事業の拡充
- ⑧ 成人病予防健診費用の助成対象を拡大
- ⑨ 入会とともにセットされる団体保険の保障内容を充実
- ⑩ 団体扱いで割安な、傷害保険・積立保険(任意加入)がスタート

※スポーツクラブの優待利用、割安な旅行、便利でお得な通信販売など、さらにサービスを充実していきます。

新規加入法人募集中!

お申込み方法など詳しくは、右記にお問合わせください。TEL. ☎0120-292-711 FAX. ☎0120-292-722

福利厚生センター
〒105 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル4階

日本介護福祉士会

介護の質向上めざして新たな一歩

平成7年度通常総会・記念講演会

21世紀はケアの時代

今年度中に八千名会員へ

日本介護福祉士会が設立されて1年余が経過し、この間に介護福祉士は約2万人増え、介護の質向上の点でも専門職としてより大きな期待がかかるようになった。そのような中、日本介護福祉士会としての2回目の総会、平成7年度通常総会及び記念講演会が5月13日(日)、大阪市中央区の大坂社会福祉指導センターで開催され、介護の職能団体として各種研修会、学習会で資質の向上を引き続き図るとともに、昨年同様全国一斉の介護電話相談を9月10日(日)に開催することなどを決めた。

11月に熱海で全国研修会

この日は、大雪にたたり、会場の5階ホールはほぼ満員だった。立総会の時と打って変わって、穏やかな大坂の空気に、選出された代議員46名のうち7名(他に委任状7名)が参集。一般参加の会員などを含めると約200名と、総会は始まり、田中雅子



会場は全国から集まった会員の熱気で包まれた。

保健福祉室長代議、全国老人福祉施設協議会の福原信行副会長、大阪府社会福祉協議会の永島剛常理事、厚生省・同室の澤田信子介護技術専門官の五氏がそれぞれ挨拶した。

議事に入り、代議員の中から議長団に、新潟県の高岡恵美子氏と長野県の塩崎豊紀氏を選出。

報告は石橋真二副会長(香川県介護福祉士会会長)、同収支決算報告と平成7年度収支予算は南正子事務局長、同事業計画は田中会長がそれぞれ提案し、いずれの案も、設立総会と同様に代議員が黄色い代議員カードを挙手して承認された。

午後には、記念講演会が行われ、まず、厚生省の本田室長が「福祉施策の動向・介護問題を中心」と題して新介護システムなど最新動向を解説し、今後の介護福祉士の役割や期待するところなどを述べた。

7年度の委員決まる

6月7日(日)の理事会で、平成7年度の各委員会の委員が決まった。(〇は委員長)

研究委員会 ○井原慶子(大阪) 吉原久子(山梨) 長瀬良介(岐阜) 高柴広子(広島) 荒井純子(福井)

林淳子(滋賀) 中村さす子(兵庫) 渡辺武子(山口) 広報委員会 ○田口久美子(神奈川) 小栗栄子(静岡) 小島つる江(長野) 是枝祥子(東京) 岡田史(新潟) 野口涉子(千葉) 調査研究委員会 ○石橋真二(香川) 山本幸子(高知) 島田輝子(徳島) 杉原良子(岡山)

介護開発委員会 ○荻田栄治(岩手) 戸来陸男(青森) 宮沢重幸(埼玉) 宇都宮和子(茨城)

社会的地位向上委員会 ○鬼束幸子(宮崎) 尾前文明(大分) 山下千鶴子(長崎) 因利江(福岡)

日本介護福祉士会 平成7年度予算 (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	予算額	科目	予算額
前期繰越高金	10,669,255	事業費	17,350,000
入会費	15,000,000	専門研究部会	2,500,000
その他の収入	24,000,000	管理費	9,000,000
	1,000,000	会議費	11,200,000
合計	50,669,255	総会開催費	1,500,000
		組織活動費	3,000,000
		基本財産形成費	5,000,000
		渉外費	500,000
		予備費	619,255
		合計	50,669,255

感銘与えた記念講演会

「1つは介護福祉士の就労実態と専門性の意識調査も実施。各所で様々な具体的相談や介護福祉士理解のためのチラシを配布した。

広報事業としては、6回のニュース発行と実践報告の編集(各会員には平成7年度に配布予定)。その他、介護機器の点検アンケート。

議事では質問も活発に出た。社団法人化の見通しの質問には、田中会長は「近く北海道と愛媛県の加盟を理事会に諮るが、それ以外でも県単位組織の設立準備も進められている」と述べた。

「21世紀はケアの時代。看護職と介護職は共に手を携えてケアの領域を広げ、積み上げていくパートナー、がかなり進んでいる」と述べた。また、「会議の回数が増えるようだが、会議費の予算上の仕方を分りやすく」「支部の育成費を出してほしい」などの要望も出され、会員に分りやすい運営が大切であることもうかがわれた。

設立時より4支部増えたこともあり、初参加の代議員も多かった。東京都の代議員は「今は勉強させてもらうことばかり。都の会は会員30名で昨秋に設立し、半年で60名増えた」とのこと。圧倒的少数だが男性代議員の姿もあちこちに見られた。青森県の工藤さん(県職員)は「養成施設卒業の介護福祉士が増えていくが、資格に対する意識が低い。この会に若い仲間が増えたらいい意見が言うようになってほしい」と、こちらは若い世代を代表して力強い抱負を聞かされた。

スクランブル

◇ノーベル平和賞作家大江健三郎氏は、ある講演の中で「心を癒す者は死をも語る(れる)」と話していた。

「死」は人間誰しも避けられないことであり、また、誰しも初めてのことだけに不安、恐怖は否めない。そして、何らかの障害を持つようになると、高齢者に至っては、近い将来の不安として極めて強く脳裏を去来する問題である。◇その問題を皆で語り合えること、また、一人ひとりの要望をじっくり話し合うことは、障害者が「生きていく」ために大きな力となる。しかし、「このように死にたいですか」と問えるような信頼関係を築いておくことが、その前提として必要なことではないか。◇「いかにかいけるか」「いかにか死ぬか」を含んだものであることを、多くの関わりを通じて実感している。氏は「しっかりと死のうしろをた元気に死なな」と、実母の言葉も引用しておられた。◇自分の「生」に自ら参加し、同時に「死」にも参加することが「生きる」ことそのものであり、完全燃焼できる条件ではないだろうか。(中)

特別寄稿

新たな高齢者介護システムにおける介護福祉士の役割



天本病院院長 老人の専門医 療を考へる 天本 宏 会長

今後の日本の高齢化社会に向けて新ゴールドプランが目標値として掲げられた。あるべき姿からすれば、通過目標の数値といえる。

当然のことながら、数量的な改革のみで解決できるはずはない。どのような定性的な改革がなされるかによる、サービスのアウトプットは決まってくる。どちらにしろ、数量的・定性的な両者の面において、マンパワーの問題が基幹として存在する。さらに分析すると「介護」にかかわる人材次第で、これからの高齢者の介護システムの内容が決まってくる。また、介護現場では、高齢者の残存能力の維持向上を図るとともに、その生活全体を支援するサービスであり、医療の枠組みを越え、福祉サービスの枠組みを越え、トータルなサービス形態に変容していかねばならない。

高齢者の特性は、①高齢者の個別性の尊重、②全人的アプローチの重要性、③予防・予測的ケアの重要性、④継続ケアの重要性、⑤家族を含む介護者へのアプローチの重要性などを有している。

高齢者ケアの特性に合ったサービスを提供するには、状態、ニーズなどの全人的評価から始まり、問題領域を明らかにして、時間的推移、原因、誘因の分析的推移、原因、誘因の分析などを行い、ケアプランを作り、ケアを実践していく。更に効果を再評価していく。その過程で様々な社会サービスをパッケージし、橋渡しをしていく。長期の介護期間においていかにメンテナンスしていくか、施設ケアをいかに活用していくかなど、専門性の高いケアマネジメント機能が充実かつ科学化し、普遍化していかねばならない。

一人のケースの問題解決に多くの職種がかかわるチームケアの形態が、在宅ケアにしろ施設ケアにしろ一般的なスタイルとなる。しかもチーム内で分業していくのではなく、協業していく。すなわち互いに専門的領域を明らかにして、時間的細分化、独立した形ではなく、重複しあう役割分担の専門性が要求される。

また、高齢者をケアする際、介護福祉士単独で行動するのではない。

同じ目標を持ち、チームでケアしていくための直接的介護技術だけでなく、組織的対応としてのノウハウも要求される。様々なサービスへの橋渡し、様々な専門職と連携するチームプレイの能力も要求される。

介護サービスは物を与えるサービスではなく、人が生み出すサービスである。介護者の人格、倫理観が直接反映されていく。いかにその人らしく、楽しく生活してもらうかという基本目標に沿って、我々が障害者に見えがちな見当たりません。近隣のポストをのぞいて見たりもして朗報を待ち続けましたが、とうとう来ませんでした。

ある日、ふと自分を省みて、今まで「年」なんて、自分なりに自信もついで、2年後の平成元年に再度挑戦しましたが、残念ながら又失敗。さすがに私も三度目の受験は躊躇し、たが、同僚の暖かい励まし

介護福祉士の年齢層は幅広い。その中で、埼玉県の高木きみ子さんは還暦を過ぎた。しかし思い直して、次の試験に備えていろいろな勉強方法を試みました。

「昭和63年、初めての介護福祉士の国家試験を受験しました。まずは張り切った挑戦でした。手応えがあったので期待して通知を待ちました。友達は合格通知がきたのに私は来ない。ポストやその回りを何度も見たが見当たらない。近隣のポストをのぞいて見たりもして朗報を待ち続けましたが、とうとう来ませんでした。

ある日、ふと自分を省みて、今まで「年」なんて、自分なりに自信もついで、2年後の平成元年に再度挑戦しましたが、残念ながら又失敗。さすがに私も三度目の受験は躊躇し、たが、同僚の暖かい励まし

還暦過ぎたのライセンス

東松山ホーム(特別養護老人ホーム) デイサービス担当

高木 きみ子

に意を決して、再年度の受験に挑みました。私にとっては血のにじむ努力になりました。毎日の仕事の疲れを片隅に追いやり、積み重ねたふたふたに寄りかかって仮眠する夜が続きました。

その甲斐あってか、還暦を過ぎてやっとライセンスを手に入れた。その喜びをまず、亡き主人に報告し、プロとして頑張ることを誓ったのです。もちろん、取得後はぐっすり眠る夜もありません。

人生経験豊かな方たちも、専門家としての介護福祉士を目指している。その包容力に富んだ介護に期待したい。

Tさん(55)は、東北出身の男性です。誠実で大の節約家。不用品は布団や肌着までもせつせと家族に送ります。家族思いも人一倍なのです。

真夏のある日、そんなTさんに食堂で呼び止められました。「……たつたのお願いがあんなじやが」「たつたのお願ひ？」どんな事でしょう」「ベルを買ってきてほしい」「ベル？」「ベル、ベルだよ」とTさんは少々いらだち気味。

ハテ、お部屋にナースコールがないので取り付けてほしいのかな？「ベルを買ってどうされますか」「そろそろ、一ダースはいるな。はは、やとと理解できました。今年は何に暑か。仕事が済んだら、皆でキューッと一杯飲んでらいてえ。」

そういえばTさんは大のビール党。曲がった腰を杖で伸ばし、時折折りに行って一杯が何よりの楽しみです。Tさんの優しい心の一面をのぞいてみると、「あひがどう、あひがどう。Tさんの心を無敵にしたくはないが、Tさんのお金は使えない。ビールはたくさんあることを説明してTさんの笑顔を確認し、その気持ちをたっぷりいただきました。

という話を職員会議で聞いた私は、不思議に涼しさを感じたのです。



第2回日本介護福祉士会中国・四国ブロック研修会

分科会で活発に検討

第2回中国・四国ブロック研修会 山口市で430名が参加

「介護福祉士と自立支援」をメインテーマに、今年度最初のブロック研修会が山口市にて開催された。

6月3日(土)、梅雨を思わせる全国的に雨模様の日、別名という大勢の熱気に包まれた山口市湯田温泉の「かめホテル」。主催は、日本介護福祉士会と山口県介護福祉士会。参加者は、

広島、岡山、愛媛、香川、徳島、高知、山口の7支部県介護福祉士会会員とその他の一般参加者。

予定通り9時30分から開会され、はじめに厚生省援護局施設人材課・福祉人材確保対策室室長補佐の一瀬正志氏より「福祉施設の動向」と題して、介護保険及び高齢者ケアプランを中心

と、した日本の福祉行政の動きについて講演があった。10時30分からの基調講演は、老人保健福祉審議会の委員でもある西南学院大学教授の橋本泰子氏が「介護福祉士とケアマネージメント」と題して講演。

午後からの分科会は、以下の4分科会。

第1分科会



分科会での活発な議論

や要介護認定とケアマネージメント、ケアプランの作成方法に至るまで、A氏の事例を図式に出しながらわかりやすく講演。「自己学習ではわからなかった部分」が明確になった。などの声も聞かれた。

第2分科会

テーマ「ケアマネージメントに取組む」。助言者は橋本泰子氏。

第3分科会

テーマ「高齢者ケアプラン」。助言者は山

口県民生部高齢者福祉課長の吉田学氏。

第4分科会

テーマ「QOLを高める介護機器」。助言者は船木義枝ハンスケア事業部の作業療法士・舟木美砂子氏。どの会場も、3〜4名の会員発表に助言者からの適切なアドバイスと参加者からの質問が相次ぎ、12時50分からの2時間にわたる分科会は席を立つ人もないほど熱心に事例が検討されていた。

特に第3分科会では、ケアプランに基づいて介護実践をした報告の中で、「ケアマネージメント作業はほとんどが勤務時間外しかできない

涼しさをありがとう

シリーズ「自立」韓国編

韓国における自立の意味

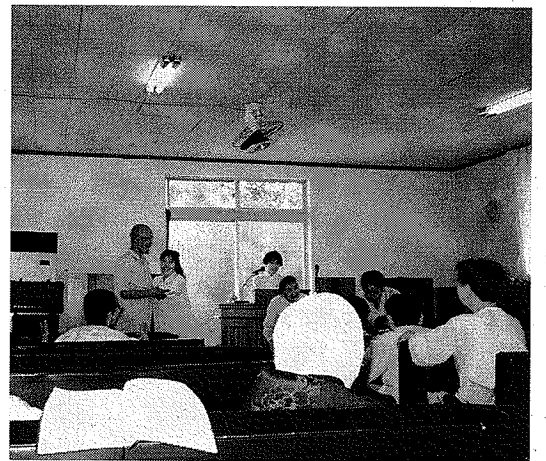
韓国宣文大学校 社会福祉学科教授

洪金子



韓国は個人主義と契約説が発達した欧米の国とは異なり、自由資本主義の社会的経験もあまりないため、同体的責任意識が強く残っている。従って、所得、教育、保健、住宅などの福祉要求に対する責任が、国家や社会よりのむしろ家族と個人にあると考えている人が

多い。そのため、介護は主に家族がその機能を担い、韓国の社会で伝統的に家族は人間形成の一番重要な場所でありながら、人間の生活保障の拠点として位置付けられてきたのである。貧困に対する態度も、労働市場と家族のような資源が個人の欲求を解決できない場合に限って介入する補充的な福祉に頼るのが支配的であった。



朝の礼拝をする入園者たち(韓国の老人ホーム「ナザレ園」にて)

このような傾向は、福祉権、社会権に対する主体的な認識の欠如と市民権の未発達から原因が求められる。それで貧しい人が社会にうまく適応し、社会的な結合もうまくできたと考えられる。

福祉に対する以上のような思考及び態度は、過去の歴史と深い相関関係を持つ。韓国では長い間、封建王朝の国家体制の下で宿命論的な身分制が維持され、身分間の社会的な葛藤も大きく作用できなかったため、福祉の機能と責任が個人化、脱家族化の現象

と見られるようになった。韓国人の福祉意識は伝統的な共同体意識から現代的な協同主義に変化、発展している。そして、福祉意識の変化とともに韓国人の自立に対する思考も変化した。

伝統的に自立という言葉は、他人に対する依存から抜け出て、自立することを意味する。社会福祉行政でも自立というのは、経済的自立を意味し、市民を排除する思想と深い関係を持つ。熱心に働き、経済的に自立するのを理想的だと考えたので、韓国人の障害者に対する態度は平均的な人間に対して、非平均的、特殊な人間として差別したのが事実である。障害者は非障害者に比べ、精神的、身体的能力に限界があるため、成就と寄与度において落ちるといふ理由をあげ、社会的、経済的、文化的、教育的な機会などでの差別を合理化したのである。

けけれども、社会は成就と社会的寄与度だけによって生存が決まらなければならない。障害者の中には非障害者と同じ機会をえ

与えられれば幾らでも彼らの能力が発揮できる人が多くいる。そのため、各自の精神的、身体的能力の範疇以内で非障害者と一緒に相互扶助しながら住む権利があるし、たゞ障害があるからといって差別を受ける理由はないのである。

こんな主旨に基づき、障害者の自立を強調する障害者福祉法が制定され、韓国の社会福祉の関係法の中で生活保護法以外に「自立」を法律用語として導入した唯一の法として位置付けられるようになった。障害者福祉法第四条には、一、障害者は彼が持っている能力を最大限に活用し、社会、経済活動に参加できるように努めなければならない。二、障害者の家族は障害者の自立を促すため努力しなければならない。と規定している。

見かけによる法律上の自立は、障害者の持っている能力を最大限に活用し、職業的、経済的に独立した生活を営むことを意味している。しかし、法の中の自立のための努力と社会参加の保障という理念は、経済的な自立だけに限らず、自己実現のための生存の理念を含む概念にまでも拡大解釈されている。自立というのは、障害の中に内在している潜在的な能力を進展させるための限らざる努力と自らの人生設計、多様な社会的資源を活用しながらの自らの判断と決定による主体的な生き方、その行動に対して自己責任を負うことを意味するのである。

私の宝物

宮崎県介護福祉士会 野田和代

あの日から一年以上経った今も、忘れられない、そして忘れてはいけない言葉がある。

当時82歳の大病なさんは、乳ガンの術後に右足を骨折してしまっ。左足は

だれかさんが 笑った

もともと不自由だったため寝たきりとなり、平成4年5月から移動入浴車による入浴サービスが始められた。私たちヘルパーを最初

り、大きな声で娘さんが即答して「お母さん、きれいになるよ」。介護疲れなど

に。Sさんは、最後まで辛

そつなだ。私たちは今まで何度もその宝物に触れ、話しかけてきたのだが、対応の中でこの当然の思いを忘れてはいなかったらうか。そんなことに

に。Sさんは、最後まで辛

に。Sさんは、最後まで辛

に。Sさんは、最後まで辛

に。Sさんは、最後まで辛

に。Sさんは、最後まで辛

介護機器点検表による全国会員アンケート調査

車椅子とポータブルトイレ

日本介護福祉士会 介護開発委員会報告(パート3)



今回は車椅子についての報告。具体的なメーカー名、機種などが特定できないものが多かったが、形式で分けると「標準型」「リクライニング型」「電動車椅子」の3形式になり、その他、各形式の改造されたものとなる。意見はだいたい共通していた。

標準型 使いやすいとみると、軽量化が進み、利用者が自動する時でも介助の場合でも扱いやすくなった。コンパクトになり、保管しやすいなどの意見があった。

リクライニング型 使いやすいとみると、軽量化が進み、利用者が自動する時でも介助の場合でも扱いやすくなった。コンパクトになり、保管しやすいなどの意見があった。

では、もう少し座面が低ければ自力で移動できる場合がある。また、ハンドリムに滑り止めの工夫が欲しいなどの意見があった。安全性では、ワンタッチ式のブレーキは利用者にはかけやすくて良いが、かかると肘がタイヤにあたる、移動の時に小回りが利かない、座面をすり落し防止の

改善を要する点では、背もたれを倒したとき、利用者の肘がタイヤにあたる、移動の時に小回りが利かない、座面をすり落し防止の

改善を要する点では、背もたれを倒したとき、利用者の肘がタイヤにあたる、移動の時に小回りが利かない、座面をすり落し防止の



3タイプに分けての報告だが、車椅子は自立援助、生活の質の向上に欠かせない機器であることが、それぞれの報告にあった。ただ、その人の体格に合った車椅子を探し難いことを指摘する意見が多かったのは見逃せない点である。座面の高さ、座り心地など、利用者に合わせられたら良いのが規格以外の特長になり、コストがかかる。ある国では、車椅子の給付は利用者の体格、機能に合わせて設計製造されること。利用者のQOLの向上に欠かせないものだと考える由である。

ある方は、38年間、離床できずベッドの生活であったが、車椅子を本人に合ったものを作ってもらい、離床出来た。現在は日中ほとんど離床し、今が青春だと言っていて、精神的に安定し、性格も明るくなったとの報告も出された。その人に合ったものがもう少し簡単に手に入れられるようになることが今後の課題である。

(注)ポータブルトイレ・車椅子の両者とも今回で終了します。会員の皆様のご協力、ありがとうございました。

日本介護福祉士会 平成7年度事業計画

1. 研修事業

①全国研修会(1泊2日)

- ・実施時期 平成7年11月17日(金)・18日(土)
- ・実施場所 熱海市
- ・研修内容 基調講演、シンポジウム、実践研究発表、分科会
実践研究発表・論文発表
テーマ別分科会

②ブロック研修会

- ・実施時期
- 関東・甲信越ブロック 8月19日(土) 長野県
- 九州・沖縄ブロック 8月30日(土)・31日(日) 大分県
- 中国・四国ブロック 6月3日(土) 山口県
- 北海道・東北ブロック 未定
- 近畿ブロック 平成8年2月 滋賀県
- ・研修内容 基調講演、実践研究発表など

③セミナー及びリーダー研修

④学習会(各県代表者により随時)

⑤実践研究報告集の発行

⑥県別研修会(各県介護福祉士会の計画によるものとする)

2. 調査研究事業

①介護福祉士の就労実態と専門性の意識に関する調査の分析及び報告書編集・発行

②資質向上など社会的要請に対応するための特別調査の実施(随時)

3. 介護福祉開発事業

①リフター導入の意向調査、発表

②施設のオムツ交換車の調査、発表

③求められる車椅子、ポータブルトイレの追求

④福祉機器点検まとめと発表(前年度調査済み)

※各項目については、随時「日本介護福祉士会ニュース」で紹介、「研修会」などで発表していく。

4. 広報事業

①「日本介護福祉士会ニュース」の発行 タブloid版4頁 隔月発行

②地域社会へのPR活動

5. 社会的地位向上事業

①介護教室や介護電話相談などの全国一斉開催(平成7年9月10日)

②地域社会へのボランティア参加、並びに専門的介護知識・技術の提供

③介護福祉士活動の社会的PR活動

④介護福祉士をめざす人に対するPR活動・パンフレットなどの配布

6. 組織育成・強化事業

①未設置県への介護福祉士会設置の働きかけ

②各県介護福祉士会の会員拡大と組織の育成・強化

7. ケアマネジメント検討委員会

①報告書作成及び発行

は「新介護システムと介護サービスの範囲と特性について」と題して、介護保険・ケアプランなどの具体的な説明をし、今後の介護福祉士の役割と介護福祉士の使命について大いに期待するので研修を積み重ねて下さいと激励された。

○山梨県 定期総会
5月27日(土)パリス和戸にて開催。平成6年度の事



**平成7年度 日本介護福祉士会
第2回関東・甲信越
ブロック研修会**

- 日時 平成7年8月19日(土)
- 会場 長野県勤労者福祉センター

これからの予定

○新潟県 総会及び公開講演会
6月24日(土)長岡厚生会館で開催。講演「高齢者・障害者に対するやさしい家、町、福祉機器」。講師は舟木美砂子氏(株)舟木義肢ハンスケア事業部専務取締役。

○新潟県 講習会「新しい高齢者介護システムへのうごきをつかめ」
6月24日(土)25日(日)長岡市高齢者センター「けさじろ」で開催。最新の情報をもち、今後の高齢者・障害者の介護がどう変わっていくか、また介護福祉独自の介護方法を描き出す。

講習会「ひとあじ違う実習」介護研修指導者講座
7月1日(土)六日町総合福祉センター、8月5日(土)新潟市社会福祉センター、9月3日(土)佐渡(予定)。

○東京都 講習会及び講演会
6月24日(土)25日(日)東京都社会福祉協議会視聴覚室で赤十字救急法の講習会を開催。

7月7日(金)東京都社会福祉協議会視聴覚室でケアアップラン講習会を開催。

7月9日(日)東京都社会福祉協議会講習室で、厚生省の沢田信子専門官の講演会を開催。

○福岡県 セミナー人材派

6月29日(日)福岡市健康づくりセンター「あいわ」で開催される「ウエルケア・ネットワークさわやか老人介護」セミナー(西日本新聞社主催)のディスカッション「お年寄りのこと」から「に、会長(因利恵)ほか計3名をパネラーとして派遣。

○静岡県 ホームヘルパー養成講座の講師育成宿泊研修会
7月29日(土)30日(日)(夜)間研修(含む)天城湯ヶ島町「天城山荘」で開催。介護福祉士として講師担当を予想される課目の指導マニュアル、指導方法、技術内容

4月22日(日)静岡県福祉センターにて開催。記念講演は「ボケからのカムバック」をテーマに、「スリーA」所長の増田未知子氏が「明るく、頭を使って、あきらめ

4月23日(日)山口県社会福祉研修所にて10名が参加して開催。県民生部社会課長他5名の来賓も出席され、平成6年度事業報告 決算

めない」の頭文字をとる「スリーA」と名付けて、静岡県浜岡町で民宿を借り切った。福祉と共に生きる」と題する佐々木重行氏(山口県社会福祉事業団理事)の講演を聴き、初心を忘れてはいけないという思いと、福祉の仕事についている幸せをかみしめる。午後、6月3日(日)中国・四国ブロック研修会の打ち合わせを行なった。

報告と平成7年度事業案、予算案などを検討、議決された。福祉と共に生きる」と題する佐々木重行氏(山口県社会福祉事業団理事)の講演を聴き、初心を忘れてはいけないという思いと、福祉の仕事についている幸せをかみしめる。午後、6月3日(日)中国・四国ブロック研修会の打ち合わせを行なった。

○宮崎県 研修会
4月23日(日)宮崎県総合福祉センターにて10名が参加して開催。田中雅子氏(日本介護福祉士会会長)は「職能団体としての意義」と題して、団体としての社会的地位の向上と、介護福祉士が介護を科学的に分析する能力が問われてくるなど、一部の者だけでなく全員で力のある団体にしていきましようという思いを話した。また、栃本一三郎氏(社会保障研究所主任研究員)

福岡YMCA国際ホテル福祉専門学校公開講座
「高齢者に対する介護」のテーマで、県支部が委託を受けて実施。5月13日(土)「ベッド上での洗髪」、27日(土)「入浴」、6月3日(土)「食事・排泄・衣着脱」で理論と実践を行う。講師会員12名で指導にあたった。

がんばってます —各県支部活動—



の研修。費用一万五千円(交通費各自負担)。問い合わせは、電話・FAXとも事務局054-2095-351。

活動報告

○東京都 講演会

3月26日(日)開催。日本女子大学社会学部福祉学教授の小笠原祐次氏が「これからの介護サービスあり方と介護福祉士」と題して講演。終了後、グループ討議として様々な福祉分野で働く介護福祉士が自分の業務や日頃感じている問題などを話し合った。

北海道介護福祉士会 4月に設立



さる4月22日、北海道介護福祉士会の設立総会が10名の参加の下、札幌市札幌サンプラザにて開催された。北海道は介護福祉士資格取得者が全国1割を占める大きな地域である。現在のところ会員10名でのスタートとなった。

総会は会則を承認した後、佃公子氏(会長)他の役員を選出、事業計画及び予算案についても承認を得た。

会場からは、広大な地域

での会活動なので、研修には多くの人が参加できる工夫を考えて欲しいとの希望が出された。それに対し、事務局長の奥田宗材氏より、研修プロジェクトチームを組み、計画を立てていきたいとの話があった。

北海道介護福祉士会は、6月の理事会にて承認を受け、正式に支部となる。

介護福祉士向け専門情報誌

季刊 介護福祉

購読料(年) 3,440円(送料含む)

財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目5番6号
SEMPOSビル Tel(03)3486-7511

専門性が支える介護福祉の充実のために

この資格に対する社会の期待も日増しに大きくなり、介護福祉士は、この期待に応えるべく、理念と資質の向上に努力することが責務であると考えます。この季刊介護福祉は介護について徹底した解説と具体的な介護行為を解説するほか、介護に関する最新情報をお届けしております。

購読申込みは、日本介護福祉士会事務局又は、各県介護福祉士会へお申込み下さい。

日本介護福祉士会

熱海で平成7年度 第2回全国研修会

介護福祉士と自立支援 21世紀の介護システムにおける役割とサービスの標準化

- 趣旨 新しい介護システムにおける介護サービスの標準化が求められているとき、介護の実践・研究をとおして資質の向上を図り、自立に向けた介護サービスの展開に反映させる。
- 主催 日本介護福祉士会
- 後援 厚生省・全国社会福祉協議会
- 期日 平成7年11月17日(金)～18日(土)
- 参加予定人数 800名
- 会場 熱海「ニューフジヤホテル」〒413 静岡県熱海市銀座町1-16 TEL 0557-81-0111(代表)

- 日程
 - 11月17日(金)
 - 12:00～13:00 受付
 - 13:00～13:30 開会式典 主催者挨拶、来賓挨拶
 - 13:30～15:00 基調講演 厚生省社会・援護局施設人材課課長 柴田雅人氏
 - 15:10～17:10 特別講演 ドイツ・ディンスラーゲン市「ウィルヘルム ローザンマンハウス(特養・養護の複合施設)」施設長 フィッシュ・マーリス氏
 - 18:30～20:30 懇親会

- 11月18日(土)
 - 9:00～12:00 分科会 8つの分科会により事例発表等
 - 13:00～14:00 分科会評論 各分科会の助言者より講評
 - 14:00～16:30 シンポジウム「介護福祉士と自立支援」
21世紀の介護システムにおける役割とサービスの標準化
 - 16:30～16:40 閉会式典 研修実行委員長挨拶 解散

- 分科会テーマ及び講師
 - 第1分科会 「介護保険制度における介護サービスを展望する——自立支援と積極的介護——」
助言者 栃本 一三郎氏(社会保障研究所 主任研究員)
 - 第2分科会 「ケアプラン作成——実務と課題——」
助言者 中島 健一氏(厚生省老人保健福祉局老人福祉計画課 老人福祉専門官)
 - 第3分科会 「ケアマネージメントと介護福祉士——他専門職との協働——」
助言者 橋本泰子氏(西南女学院大学保健福祉学科教授)
 - 第4分科会 「障害者(児)の自立支援」
助言者 黒沢貞夫氏(岡山県立大学保健福祉学部教授)
 - 第5分科会 「痴呆性老人の尊厳——その人らしく生きるために——」
助言者 野村豊子氏(高齢者ケア研究所所長・心理学専門)
 - 第6分科会 「ターミナルケア——生と死を考えて——」
助言者 時田純氏(特別養護老人ホーム(小田原)潤生園園長)
 - 第7分科会 「豊かな福祉社会を作る——福祉教育と介護福祉士の役割」
助言者 森繁樹氏(生活クラブ生活協同組合政策調整部企画調整課福祉政策担当)
 - 第8分科会 「新介護システムに対応した施設運営と介護専門職」
助言者 蛭江紀雄氏(廿日市高齢者ケアセンター所長(広島) 全国老人福祉施設協議会制度政策委員長)

- シンポジウム
 - コーディネーター ・栃本一三郎氏(社会保障研究所主任研究員)
 - シンポジスト ・石井岱三氏(全国老人福祉施設協議会会長)
 - ・山崎摩耶氏(日本看護協会常任理事)
 - ・大熊由紀子氏(朝日新聞論説委員)
 - ・井上千津子氏(東海大学教授)
 - ・前沢政次氏(桶谷町町民福祉センター所長)
 - ・井原慶子氏(日本介護福祉士会副会長)

- 参加申し込み手続き
 - 支部会員は各支部へ、支部未設置県および一般参加者は日本介護福祉士会事務局へ、「参加申込書」に必要事項を記入の上、お申し込みください。締め切り10月20日(金)。
 - 宿泊・懇親会・昼食については、直接東急観光(株)神田支店(TEL03-3252-6781、FAX03-3252-6898)へ申し込み、送金してください。個人で納金後中止する場合は返金いたしません。締め切り10月30日(月)。

ケアマネージメント研究会を設置

日本介護福祉士会は、8月4日の理事会承認のもと「ケアマネージメント研究会」を設置する。

設立趣旨は次のようにしている。この研究会は、高齢者介護は、生活の継続性の観点から、たとえ心身の機能に一定の障害を有していても、できる限り住み慣れた地域において暮らし続けていくことを支援するものでなければならない。それを支える新たな援助方法として、その確立が求められ

ているのが、ケアマネージメントである。ケアマネージメントにおいては、利用者本人や家族はもとよりのこと、福祉、保健・医療の専門職から地域のボランティア等を含めた様々な関係者が集まり、議論を重ね、援助計画を立て、援助活動の展開を図っていくことで、高齢者の自立を支援していきます。

その際、私たち介護福祉士は生活の質を高め、暮らしを支える介護の視点からアセスメントを行い、ケアプランを立て、モニタリングし、介護福祉士としての適切な援助を実施していくことが求められます。こうした趣旨に基づき、日本介護福祉士会としてケアマネージメント研究会を設置し、介護福祉士の専門性を

高年齢者ケアガイドラインを参考に、各々の障害の状況の評価をふまえた介護サービスの望ましいあり方を検討が設けられた。策定される予定。

障害者ケアガイドライン 平成8年3月に策定予定

明確化するため、厚生省、社会・援護局、児童家族局、保険医療局の依頼により、第1回検討会は6月16日に開催され、平成8年3月には障害者ガイドラインが策定される予定。

を生きかした今後の高齢者介護のあり方についての検討を進めていくものです。研究会構成メンバーは、

検査委員のメンバーは、座長が板山賢治氏、日本障害者リハビリテーション協会会長、副座長が白澤政和氏、大阪市立大学教授を含め14人の構成による。日本介護福祉士会では副会長、田口久美子氏がメンバーの一員として参加している。高齢者ケアガイドラインは医療色が濃いが、高齢者の多岐多様なニーズに答えるために社会資源の適切な組み合わせを図るといふ、ケアマネージメントの考え方を取り入れたものが必要と同検討会は進められて

学識経験者3名、厚生省よりオブザーバー2名、介護福祉士会員より6名の計11名で構成し、役員任期の平成8年3月まで研究を進める。 二、介護福祉士の専門性を生かしたケアマネージメントのあり方について

敬老の日・老人保健福祉週間キャンペーン主催に参加今年も9月15日から21日までの一週間、「敬老の日」老人保健福祉週間「キャンペーン」が実施される。今年のモットーは「みんなを支える 長寿のよこぐさ」。主催団体は、総務庁、厚生省、全国社会福祉協議会、全国老人クラブ連合会、長寿社会開発センター、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、日本看護協会、日本社会福祉士会と日本介護福祉士会の11団体で、当会も専門職の立場から介護への積極的参加を図っていく。

スクランブル

で話題を提供するのに時間をかけた。痴呆重度のKさんには、不穏にならないよう直接介護を多く行ったが、精神的な介護は少なかつた。客観的に見るとKさんの方が介護料は多く見えるが、実際には総合的に見るとこちらともいえない。

▽実践の場では、限られた人数と時間、多様なニーズの中で、介護の目標を立ててあるが、瞬時に判断をし、介護を行う場面が多く、日頃の勉強や体験が役立つ。お年寄りの笑顔に出会う。▽介護は、「ロマンと哲学と遊び心」の考えで行ってきたが、最近の福祉の変化の中で、私たちの行っている介護を、客観的に分かってもらえよう介護の量や質を科学的に示すことが必要になってきた。▽介護の現場にいる私たちは、多くの事例を持っている。事例の一つひとつに、創意工夫と実践・問題点や学びがあり、宝物である。この事例をまとめ、分析していくことを今しなくてはならない。安心して身をまかせられる介護とは何かを追求していくその過程から、介護の専門性を明確化できる。▽各制度にまたがっていた介護サービスの二元性が求められている。介護とは何かを知る、知ってもらえる大事なときなのだ。(星)

▽「先に行っているね」と、Oさんは昇天。ADLはほぼ自立で直接の介護量は少ないが、話が好きなので話題を提供するのに時間をかけた。痴呆重度のKさんには、不穏にならないよう直接介護を多く行ったが、精神的な介護は少なかつた。客観的に見るとKさんの方が介護料は多く見えるが、実際には総合的に見るとこちらともいえない。

特別寄稿

これから老人ケアとケアマネジメン



全国老人ケア研究会会長 鎌田ケイ子

世界に類をみない介護の専門職として介護福祉士が、わが国に誕生したのは画期的なことである。今後ますます増大する介護ニ

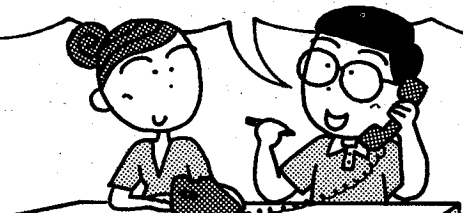
で健康、疾病、障害は、医師による治療(キユー)が対応してきたが、老人の疾病、障害は、治療のみでは解決できない。そのためケ

ケアプラン(MDS+RA)が、一つのモデルを提示している。これは、30項目の情報収集をもとに、高齢者がケ

私は36歳という年齢で社会生活をひと休みして、介護福祉士の資格取得のために、専門学校

「ワッツ、大変です！」急いで声のする方向に行く。利用者が使まみれである。とにかく、シャワー室へ。殴られ、足で蹴られ、

フリーダイヤル 0120-008-294



全国一斉介護相談 主催 日本介護福祉士会

第2回全国一斉介護相談

9月10日、29支部が実施へ

昨年に引き続き、今年も9月10日の日曜日に、日本介護福祉士会主催による全

実施要綱

- 一、日時 9月10日(日)午前10時~午後3時
二、場所 日本介護福祉士会支部(主に県庁所在地)
三、内容 ①電話による介護相談など フリーダイヤル0120-008-294
四、趣旨 国民の多くが、自分自身や家族の老後に不安を持ち、誰にでも起こりうる普遍的な

理事会報告

第3回理事会報告 6月24日(日)、東京の保健会館に於いて第3回理事会が開催された。審議事項は、

好きな歌を生かして

東京都支部会員・なぎさ和楽苑 猪狩 典夫
校卒業まで合唱クラブに籍を置き、多くのコンクールで皆さんの歌を披露し、

「老健」は乃ぼの園

「ワッツ、大変です！」急いで声のする方向に行く。利用者が使まみれである。とにかく、シャワー室へ。殴られ、足で蹴られ、

戦後50年に想う

今日的介護を求めて

大阪介護福祉会顧問
社会福祉法人聖徳会理事長

岩田 克夫

「介護」とは、古く新しい言葉である。昔から家庭の普通の人々によって病人などを介抱し、看護してきたのである。近年「介護」を職業として行う職種が登場してきた。例えば、「介護 自体を公的施設の中で規定するようになったのは「老人福祉法」である。特別養護老人ホームは介護を業務として身辺介助をおこなってきたところである。「社会福祉辞典」によ

れば、「介護とは、疾病や傷害などで日常生活に支障ある場合、介助や身の回りの世話をする」とある。そして「介助」とは「一人での生活が困難な老人など、一人では動作できない人に対する食事・排泄・寝起きなど起居動作の手助けである」といわれているが、特別養護老人ホームなどで業務とする職務内容としては不明瞭なものであった。

さらに在宅にも要介護状態の人々が増加する傾向の中で、より専門的な知識と技能をもって介護を行う者が必要とされ、且つ国際会議を契機に昭和62年に「介護福祉士および社会福祉士法」が制定されたのである。

明治37年、南区天王寺逢坂下之町時代の大阪養老院と老人たち。女の老人は頭巾をかぶっているがシラミ予防のために丸坊主にしたためと思われる



戦後50年は一つの節目、とはよく言われることです。が、介護の分野では2年前の日本介護福祉士の誕生がそれにあたります。そこで、明治以来の歴史を持つ聖徳会理事長の岩田克夫氏と、戦後のホームヘルパーを体験してきた荒牧トシ子さんに、戦後50年の今思ふことを寄稿していただきました。

これにより、従来行ってきた一般的な介護と特定の有資格者を含む介護従事者による介護活動の二つに分けられ、前者を「広義」の介護、後者を「狭義」の介護

と概念を分けられる訳であると概念を分けられる訳である

専門職の時代

北九州市ホームヘルパー

荒牧トシ子

北九州市のホームヘルパー制度(老人家庭奉仕員制度)は、昭和38年、老人福祉法の制度の翌年導入された。当市では、早い時期から、これからの福祉の基盤は住宅援助にあるという考えのもと、初めは、25名のヘルパーが採用されました。



戦時中、配給の石けんを配る寮母さんと入所者たち

私が採用された昭和44年には、ヘルパーも60余名を数え、利用者も老人だけでなく、身体障害者、重度身体障害児(者)への家庭に

は職を求めて各地区へ転出。残留した者のなかには当然老人だけというケースも増加し、その方たちは生活保護制度による援助だけではなく、住宅援助も必要とされていました。今では、利用者からはこんなお

「私たちがこうした活動をしながら、市の施策を動かす原動力にもなりました。ヘルパーと行政との懇談会では、老人や障害者の声を代弁して、歩道の段差をなくしてもらったり、入浴車を早い時期に導入してもらったことが出来て、そうしたことはヘルパーの喜びでした。」

だれかさんが 笑った

Kさんの今

日高村デイサービスセンター
指導員 谷脇恵美子

デイサービスセンターを開業時から利用されているKさんは、今年88歳。昔の事は語りたくないが未だに、4女の家族と同居している。しかし、妙に嬉し

Kさんは口数が少なく、万事ひかえ目で我慢強く、でも時として芯の強さを覗かせる典型的な明治の女性である。Kさんの曲がった腰、節くれた手には、じつと耐えて生きた母の強さと温もりを感じるの

どんな想いが胸を去るのだろうか。Kさんの好きなゲームはポーカーと輪投げ。屈託のない笑顔に職員も嬉しくなる。でも、Kさんが一番嬉しい顔を見せるのは、何となくいつも時

「お世話じゃったね」と、手を引かれて自動車に乗るKさんを見送りながら、「明日も明るく頑張るぞ」と心に誓う私たちである。

「新しい時代になっても、一人でその人の生活の場に入り、その人の全人格を受け止めてヘルプ活動をする緊張感は、26年過ぎた今でも変わらないのです。」

最初はボランティアのヘルパーの出発でしたが、これからは必要の人に必要ヘルプを提供していかなくてはならない時代となり、より専門性が求められるようになりました。そして、今では、専門職なんだという評価をうけるようになってきたり着きました。思えば、これは過去に多くの先輩たちが努力を重ね、ヘルパーの土壌を作ったからだと思います。そして、それが介護福祉の誕生につながったのだと思います。その先輩たちが築いて来たヘルパー制度を安心して利用できるよう、後輩として頑張りたいと思います。

がんばっています —各県支部活動—

これからの予定

○静岡県 事例発表

9月2日(土)三島市「田代パレス」で開催される静岡県リハビリテーション懇話会で、会員4名が事例発表を行う。

○山口県 介護相談

県主催の平成7年度福祉月間行事に介護相談窓口を設置し、県介護福祉士会が担当。県内6市の会場で同時開催する。電話だけでなく、街頭での介護用具の展

示やハンディキャップ体験コーナーなども予定されている。

○東京都 受験養成講座

8月28日(月)から5か月にわたって、計10回の受験養成講座を開催する。

○福岡県 講師派遣

9月から開催されるホーメルパー養成研修3級課程(県福祉人材センター主催)に10名の講師を派遣する。その他、福祉用具供給事業者研修など各種研修にも講師派遣を予定。

活動報告

○東京都 学習会

5月12日(土)は佐藤豊道氏(東洋大学社会福祉学教授)の「ヘルパーの援助計画作り」に89名、6月6日(火)は枝倉会長と内田理事の「ケアプラン」に43名、7

○静岡県 県社会福祉士会と福祉学会設立

6月3日(土)に、福祉専門職として社会からの認知、



6月24日、「日赤救急法」の講習会で人工呼吸や心臓マッサージの実習(東京都)



評価の向上を図るため、福祉学会を設立する方向で県社会福祉士会との間で代表者会議を持った。

第3回研修会

7月2日(日)静岡市もくせい会館にて開催。講師に岡田清氏(全至誠ホーム)を招いて「ケアプラン作成の入門から上級まで」をテーマに、大勢の会員が熱心に研修を行った。

宿泊研修会

県下各地の介護講座の講師育成を目的に、7月29(土)に実施。

黒木氏の講演に聞き入る宮崎県支部の会員



黒木氏の講演に聞き入る宮崎県支部の会員

講義内容の組み立て方から講義・実技の教え方までを指導。30名を選抜。第2回を1月に予定。指導は小栗栄子県会長。

○長野県 セミナー

7月1日(土)2日(日)県社会福祉総合センターにてWAC高齢者疑似体験インストラクター養成セミナーを開催した。定員を上回る21名が受講。約80歳の老人に早変わりする装着器具を身に

○宮崎県 総会

6月11日(日)宮崎県福祉総合センターにて第2回総会を開催。180名が参加した。「新介護システムを考える」と題する黒木茂夫氏の講演があった。介護は技術であり、福祉は心である。その両面を持った介護福祉士会であって欲しい。制度が変わっていく今、この会が自分たちの快打との自覚を持ち、代弁者となり、寝たきり市町村を起して欲しいなど、会の今後の方向性を示す講演であった。

ついで、加齢に伴う肉体的心理的变化がどのようなものであるかを実感し、学んだ。

6月11日(日)宮崎県福祉総合センターにて第2回総会を開催。180名が参加した。「新介護システムを考える」と題する黒木茂夫氏の講演があった。介護は技術であり、福祉は心である。その両面を持った介護福祉士会であって欲しい。制度が変わっていく今、この会が自分たちの快打との自覚を持ち、代弁者となり、寝たきり市町村を起して欲しいなど、会の今後の方向性を示す講演であった。



80歳の老人に早変わり!(長野県)

日本在宅医療福祉協会会長の保志順一氏の講演。その後、日頃工夫している介護機器の事例発表をした。今後も会員や利用者のオリジナルな介護機器の事例を集めていく予定。

○山梨県 定期総会開催

5月27日(日)甲府市リバーアスにて出席者50名、委任状15通で開催。会則の変更では、山梨県介護福祉士協会から山梨県介護福祉士会への改名、日本介護福祉士会の支部組織化などが承認された。平成6年度事業報告、決算報告に続いて、平成7年度事業計画、予算案についても承認を受けた。

役員選出では、「執行部一任」の声をいただき、退任者2名に代わって4名の新しい役員が加わり、再任の11名とともに山梨県介護福祉士会の飛躍に努める決意を表した。会長には吉原久子(再任)、副会長には中沢初枝(再任)と三浦早苗(新任)が就任。

6月17日(日)、18日(月)に宿泊で開催。東海大学教授七田恵子氏に「痴呆老人の介護について」、愛媛福祉専門学校専任教員山崎イナ子氏に「良いリーダーとなるために」と題して、実技を交えた研修を行った。参加者は5年以上の介護福祉士20名限定で行い、夜はリーダーとしての日頃の悩みなどに付いて話し合った。

○神奈川県 研修会

8月6日(日)社会福祉会館にて「介護機器の創意工夫」と題し、

平成7年度第2回九州ブロック介護福祉研修大会

介護福祉士と自立支援

一人ひとりの自立を援助するため、今、我々に出来ること

日時 8月30日(木)~31日(金)
場所 大分県別府市観海寺2272 杉乃井ホテル
TEL 0977-24-1141

内容 特別講演「新しい介護システムの構築を目指して」(公的介護保険の導入と介護福祉士の役割)
講師 京極高宣氏(日本社会事業大学学長)
分科会テーマ

- 第1分科会 福祉、保健、医療における介護福祉士の専門性
- 第2分科会 高齢者施設における自立支援
- 第3分科会 障害者施設における自立支援
- 第4分科会 在宅高齢者に対する自立支援
- 第5分科会 福祉用具の利用とQOLの向上

問い合わせ 大分県介護福祉士会事務局
TEL 0975-52-6888 FAX 0975-52-8880

定期総会

山梨県介護福祉士協会



日介の支部組織化を承認した山梨県総会

■介護福祉士登録者数 (平成7年6月末日現在)

	男	女	計
養成施設卒業者	5,637	20,175	25,812
国家試験合格者	3,123	32,721	35,846
計	8,762	52,896	61,658

■賛助会員企業・団体

- 日本介護福祉士養成施設協会
- 中央法規出版株式会社
- 三井海上火災保険株式会社
- 全国老人福祉施設協議会
- 東京海上火災保険株式会社

沖縄県で支部設置の動き

沖縄県においては20名ほどの有資格者が定期的に集いを開き、設置されている各県支部から資料を取り寄せ、設立準備に動きかかっている。中心になって活動している中ひより、国吉弘子さん(糸満市)は「できれば来年2月頃には設立したい」と皆一生懸命です」と語る。県社協なども応援の姿勢をみせている。

介護福祉士向け専門情報誌

季刊 介護福祉

購読料(年) 3,440円(送料含む)

財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目5番6号
SEMPOSビル Tel(03)3486-7511

専門性が支える介護福祉の充実のために

この資格に対する社会の期待も日増しに大きくなり、介護福祉士は、この期待に応えるべく、理念と資質の向上に努力することが責務であると考えます。この季刊介護福祉は介護について徹底した解説と具体的な介護行為を解説するほか、介護に関する最新情報をお届けしております。

購読申込みは、日本介護福祉士会事務局又は、各県介護福祉士会へお申込み下さい。

日本介護福祉士会

「新たな高齢者介護システムの確立について」提案案検討

「介護」の視点に論議集中

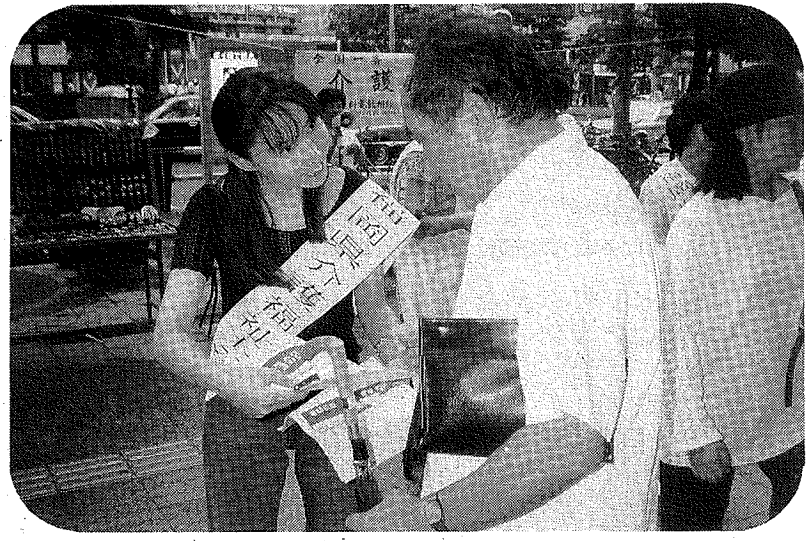
日介「マネジメント研究会」本格的議論開始

第5回理事会の承認のもとに設置されたケアマネジメント研究会は、9月5日、27日、10月10日の3回にわたって東京において研究会を開催した。その結果、最近の介護をめぐる動きは急であるが、今後、介護福祉士の立場から介護の視点を重視したシステムが設計され、軌道にのることを期待して、これから展開されるであろうさまざまな議論に対して、積極的に対応すべく、現在、検討作業を行っている。

研究会設置の目的は、日 における介護福祉のあり方について検討すること、また、本介護福祉士会が職能団体として、新介護システムに ケアプラン、ケアマネジメ

【意見書全文3面掲載】

9月10日に全国一斉介護相談実施



各機関との連携痛感 327件の相談・多彩なイベント

日本介護福祉士会では、社会的地位向上の一環として、全国一斉介護相談の日」を設け、平成6年度から実施してきた。2回目となる今年9月10日(日)に、全国29都道府県で実施し、昨年以上の成果を上げることができた。

「介護福祉士と自立支援」21世紀の介護システムにおける役割とサービスの標準化」をテーマにした、日本介護福祉士会第2回全国研修会が迫ってきた。今回の会場は熱海市のニューフジヤホテルで、9月以来マスコミをにぎわした。要するにも確認した。各県の実施状況は次の通り。

地震も沈静化

第2回全国研修会 発表者決まる

- 北海道 北海道介護福祉士会として初めての介護相談に取り組んだ。場所は札幌社会福祉専門学校。新聞とポスターによるPRが積極的ではなかったかという不安と緊張を打ち消すように、次のような相談が寄せられた。
 - 1 85歳の女性、夜間不眠の訴えあり、解消法について
 - 2 37歳の女性、貧血、腹痛、発熱熱味で最近発作が出てきたが、病院の何科にかかったらよいか
 - 3 透析のため、入院中の張を打ち消すように、次のような相談が寄せられた。とても認めてもらえない。どうすべきか教えてほしい。
 - 一人当たり20〜40分の電話相談でしたが、介護福祉士が地域の中で果たすべき役割について真剣に考えさせられる一日であった。
- 【以下4面】

平成7年度日本介護福祉士会 第2回全国研修会

テーマ：「介護福祉士と自立支援」
21世紀の介護システムにおける役割とサービスの標準化

日程：11月17日(金) 基調講演および特別講演
18日(土) 分科会およびシンポジウム

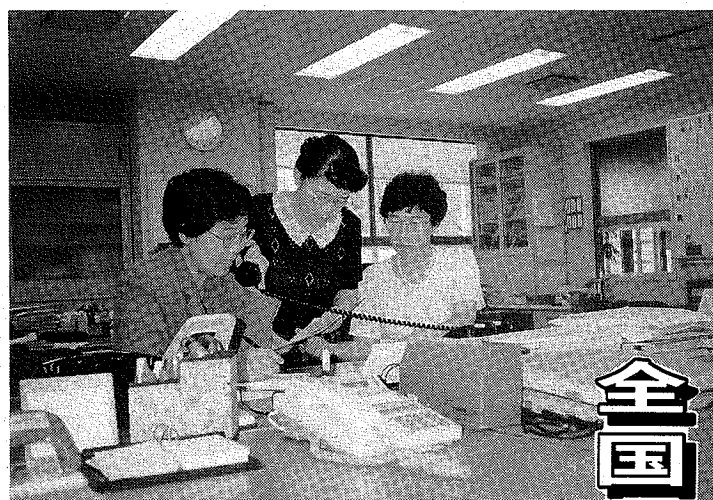
会場：熱海「ニューフジヤホテル」
TEL 0557-81-0111

申し込みは、日本介護福祉士会事務局まで。
会員は各県支部事務局へ。

スクランブル

▽介護の日には何人の人が介護相談に参加して、相談者はどれだけ自分の気持ち話をすることができたのでしょうか。▽日本人は外国人に比べると、自分の気持ちを話したり、自己主張するのが苦手です。逆に、気持ちを察して声かけしてもらったことを好みます。コミュニケーションがスムーズにとれるとお互いの関係が深まり、話しあえる関係ができてきます。▽コミュニケーションの基本は4つあります。一、「観察」相談者の話し方、語気の強さ、言葉遣い、顔や目の表情の変化などを観察します。二、「傾聴」相手に意見したり、評価したり、誘導しないで聴き、感情を受けとめるようにします。三、「確認」相談者が何を話したのか、話しているかわからなくなることもありますが、話し終えてから確認します。四、「共感」相談者の心を癒す力があります。心と心が通じ合うことで癒されるのです。▽現代は、物を買った時代ではなく、心を癒す時代なのです。人生50年時代は、「これだけ長く生きろ」というLOL「量的観点」が重視されてきましたが、80年代は、「どのようにならなければならないか」というQOL「質的観点」が問われます。「介護の日」を終えて思うことは、「心あたたかな、思いやりのある介護」を実践したいと思います。(野)

全国で受け付けたまざまな相談から



北海道介護福祉士の介護電話相談

アルツハイマー病の夫を施設に

○相談(妻)

夫(62歳)がアルツハイマー病で、6年間介護している。夫病で、6年間介護している。夫病で、6年間介護している。夫病で、6年間介護している。

アル中の寝たきり夫

○相談(63歳の妻より)

70歳の夫が交通事故で寝たきりになった。首の手術を2回、胃を全摘出。尿道が狭くなりチューブ(カテーテル)挿入。膀胱炎で、現在血が混じっている。

時々尿もれがあるが

○相談(50代の女性)

姑に少し痴果があり、時々尿もれがあり、オムツをしていておむつが濡れてしまう。どうすればよいのか?

人間万事塞翁が馬

山口県介護福祉士会 渡辺 武子

すっかり秋めいた日差しが、窓の障子を開けたNさんのベッドに柔らかな光を注いでいる。Nさんは朝起きて日が暮れるまで、終日折の紙細工に余念がない。

だれかさんが笑った

折の紙細工に余念がない。時折折れる見学の方や寮母が、美しい見事な切り紙細工を見せて、あまりの熱心さに声をかけると、「お金の

ショートステイの利用に?

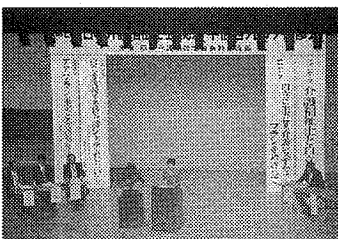
○相談(55歳の女性)

痴呆症の母を介護して4年の介護者より受ける。アルツハイマー病にて年々介護の重度化が進んでいる状態。何とか家で頑張っているが、心身ともに疲労度が増している。

猛暑の夏、ブロック研修会2カ所で

関東・甲信越ブロック

8月19日(土)長野市にて、関東・甲信越ブロック研修会が開催された。



私が今の仕事に入ったのが3年半前、それまでは金属を使っていた。学生時代に覚えたギターで昔の歌を弾き、一緒に歌

自分も豊かな人生勉強

岐阜県支部会員 清水恒貴

用いて、鏡、株、みこしなどを作り、ホールに展示したり、自立援助のための器具を開発したりと、本当に忙しい毎日を送っています。

九州ブロック

8月30日(水)小倉にて、九州ブロック介護福祉士研修大会が開催された。



大分県別府市において第2回九州ブロック介護福祉士研修大会が48名が参加して開催された。



忘れた?!

老人ホームの食堂の前の椅子に、朝食の後片づけが終わる頃、数人のお年寄りが集まってくる。その顔ぶれは、毎日同じで、毎日同じ会話が繰り返されている。

ケアマネジメンツ・研究会の提案

本研究会の目的は、職能団体として新介護システムにおける介護福祉のあり方について検討すること、並びにケアプラン、ケアマネジメンツに関して介護福祉士の立場からその理解を深めていくことである。先ず、公的介護保険として議論されているものが、どのような形で国民に提供されていくのかということを押握するため、新介護システムについて検討した。

●新介護システムに対する期待

我が国においては介護福祉士は、昭和62年に介護に関する専門資格制度が単なる介護士としてではなく「介護福祉士」として看護の領域とは切り離された形で成立した。それは「介護」というものが生活援助を基盤とする福祉の領域においてこそ必要であるとする厚生省をはじめとした関係各位の了解によるものであったと考えている。

そうした意味で私たちは、平成6年に厚生省から出された『21世紀福祉ビジョン』以来、少子・高齢社会の最重要課題として政策的にクローズアップしてきた「公的介護保険制度」についても、生活援助の視点を基盤としたものとして制度化されるのだからと期待しているところである。また、公的介護保険をめぐる議論の中で打ち出されている「在宅福祉重視」ということを名実ともに実現しようと思えば、高齢者の生活基盤を支える家事援助をきちんと組み込んだうえで「介護」の整理をしなければ、多くの高齢者、あるいは高齢者を抱える家族が直面する「介護不安」という問題に際する新たな介護システムを構築していくことは不可能であると考える。

老人保健福祉審議会の「新たな高齢社会後システム」の確立について「中間報告」は、今後の新しい介護システムに関する考え方を提案したものである。具体的な制度設計については引き続き審議会で検討されるのであるが、介護福祉士の職能団体として、高齢者の自立支援のため介護という理念を遵守して、慎重なる審議が展開されることを切に望むものである。21世紀の我が国のあるべき高齢者像をにらみ、自立に向けた介護として、どのようなサービスを、どのようなシステムで動かしていきたいと考えているのか、私たち介護専門職である介護福祉士にも早く明らかにされることを期待し、要望してこきた。

●高齢者ケア支援体制に関する基礎調査表試案から

この度、高齢者ケア支援体制に関する基礎調査研究モデル地域研究会から高齢者ケア支援体制に関する基礎調査表が配布された。

が、試案に基づいて特別養護老人ホーム入居者821ケースならびに在宅の要介護高齢者265ケースを対象として検討した。概要は以下のとおりであった。

試案では「排泄の後始末」「移動能力」「寝返り」といったものが大きなポイントとなっているが、こうした能力と重度痴呆の方の要介護度のランク付は十分リンクしていなかった。

痴呆性老人の場合、移動能力があるからこそ介護者の肉体的・心理的介護負担が大きくなるというケースが少なくない。また、コミュニケーション能力については、聴力や視力があるなしという点以前に意思疎通を図ることが困難な場合が多い。しかし、この試案では、こうしたことについての配慮が全く見受けられなかった。

「痴呆」の方の場合、問題の所在と要介護度が直線的な対応をしていないため、試案による単純分類は難しいと思われる。介護者の精神的肉体的介護負担は、「在宅」でも「施設」でも、非痴呆の方より痴呆の方への援助の場合の方が圧倒的に多いのが介護業務に携わる者の実感である。

また、在宅の要介護高齢者の場合、その援助対象は高齢者と高齢者を取り巻く家族であることが一般的であり、援助場面も生活環境の整えられた施設とは全く異なる状況である。援助の実態から考えると、家族関係や住環境などが介護を行ううえで大きく影響する。

例えば、エレベーターのない5階に暮らすデイサービス利用者への送迎は、それだけでも重労働となる。また、半身マヒで脳梗塞による後遺症で徐々に痴呆状態がすすみ、食事もジュースとインスタントラーメンで済ませ、部屋の中はゴミの山でゴキブリやネズミの巣になっているような劣悪な環境に暮らす高齢者の場合、先ず、生活環境を整えることから介護は始まる。そして、それは自立に向けた介護のプロセスとしては必須のものなのである。このようなケースは決してまれではない。在宅の場合、身体的機能だけでは要介護度は測れないこととなる。

さらに、痴呆が少しでもあれば介護者の負担が急速に増大することとなる。家族・家庭への支援といった視点、生活環境をどう整えるのかといった視点が加わらないと介護過程と自立支援の具体的なプロセスが明らかにならない。したがって、在宅へ適用される時に試案のあり方がどのようになるのかを注目に値するところである。

●介護福祉士としてみた基礎調査表試案の問題点

研究会においては、「痴呆」と「非痴呆」の要介護高齢者では問題の所在が異なっているにもかかわらず、この試案では身体的要介護度のみを重視したものとなっているという意見が強く出された。在宅でも施設でも、介護

実態として排泄や移動が要介護状態の高齢者よりも、排泄や移動が自立し行動が錯乱している高齢者の方への介護負担が大きいと感じられるのが一般的なのではないかと思われる。

例えば、移動の場合なども、痴呆がなくても、常に転倒の危険があるにも関わらず自立歩行している人よりも、車椅子に乗って安定している人の方が介護者にとって介護負担はずっと低い。施設における入居者の痴呆の状態を持つ者の割合は、超高齢化によってその比率は高まっている。会員の属するA施設においてはすでに7割に達している。事態はこのようなことであるから、痴呆においての非妥当性をケアケースとしてみるわけにはいかない。

私たちが介護福祉士として介護の現場には、いわば大きく分けて「手を出さず介護」と「積極的な支えをする介護」の両方が存在すると考えられる。「手を出さず介護」とは、歩行が困難だから、あるいは転倒の可能性があるから車椅子を利用する、あるいは失禁するからおむつにするという介護者中心の発想に基づくものである。

それに対し、「積極的に支える介護」とは、高齢者の持つ能力の維持、向上に留意しながら利用者の立場に立つて行う介護であり、「自立に向けた介護」である。介護従事者がその部分に力を入れるかどうかで「自立支援」につながるかどうか問われていると考える。これまで、福祉現場では「寝たきりを作らない」ということから真剣になって離床に取り組んできたという実績がある。それは、「手をださず介護」のあり方を見直し、利用者の自己決定をできる限り尊重し、自立を支えていくという「積極的な支えをする介護」を目指していく取り組みでもあった。

私たちが介護福祉士は、いわばこうした積極的介護を担う専門職として資格制度化されたものと理解しているし、事実、介護福祉士の存在によって、特別養護老人ホームなどの福祉現場では利用者のQOL(生活と生命の質)が確実に上がってきていると感じている。介護サービスは「E氏がいうように積極的介護と保護的介護も機能する。権威的介護と異なるものであることは、介護福祉の業務を行う人たちが一番よく知るところである。

ところが、試案による分類では、こうした積極的介護による生活改善のあり方をどのように伸ばしていくのかといった視点が全く感じられない。例えば、施設では「声がけ」と「誘導」による排泄力を入れることが一般的である。積極的な「声がけ」と「誘導」により生活改善が進み、自力排泄が可能となる要介護高齢者も少なくない。しかし、そうした介護の実態には目を向けず、手を出す介護が多ければ多いほど、要介護度が高いと単純に考えているようにさえ思われた。

この試案による考え方では痴呆性老人や介護環境のよくない在宅の高齢者の場合、実際に介護する側にとっては、提供するサービス量の割に介護負担が低いと判断されることになると思われる。実際のサービス量に比べて要介護度の判定が低くなるとは施設利用もままならないことになりかねないし、在宅の介護環境のよくない高齢者にはサービスが届きにくくなる心配もある。さらに、施設に入っても寝たきりの方が介護費用が高くなるというものになったのでは、介護保険制度になったために福祉現場でサービス水準が極端に落ちたという事態も招きかねないのではないかと憂慮している。


●介護福祉士のめざす介護について幅広い議論を

介護とはボデイケアを中心としたADLを少しでも改善していくことと捉えがちであるが、介護福祉士として理解しているのは、そのようなボデイケアを中心とした狭い意味の介護だけでなく、IADLの改善も含んだものであり、全人格的な視点から生活を支えるサービスである。

今後、独居老人や老夫婦のみの世帯が増加してくる中で最大の課題は、在宅高齢者の家から家事の担い手が消えてしまうことである。こうした状況の中、在宅で要介護状態の高齢者にとって入浴、排泄、食事の介助といった狭い意味での介護と同程度の意味を持ったものでは、「高齢者介護・自立支援システム研究会」報告で述べている「自らが望む環境で、人生を尊厳をもって過ごすことができるよう」な生活を維持していくことは不可能なことは明白であろう。「人生の尊厳」ということを考えれば、在宅であっても掃除、洗濯といった清潔な生活環境を整える家事援助は、入浴、移動、排泄の介助といった狭い意味での介護と同じ程度の意味を持ったものである。そして、先に述べたように家事援助は具体的な介護過程の中で、精神的な自立を支える積極的介護の中でこそ位置付けられ、初めて意味を持つのである。その人がその人らしく暮らすことのできる長寿社会、国民の望む高齢者の自立を支える介護システムを築いていくためには、介護の概念を出来る限り幅広く捉えなければ、私たちが介護福祉士のめざす介護とはほど遠いものになってしまうであろう。

21世紀を見据えた豊かな高齢者介護を築いていくためにも、介護サービスを実践している一人ひとりの介護福祉士がその目指すべき介護のあり方について、利用者の視点を忘れることなく、幅広い議論を重ねていくことが必要であると思う。少なくとも言えることは、介護福祉士として、身体介護のみを介護と呼ぶのではなく、広い生活援助を含めた介護でなければ、高齢者の自立に向けた介護にならないということである。

くらし楽しく、こころ豊かに。



社会福祉法人 福利厚生センター
TEL 03-3592-6311(代表)

多彩なサービスで会員のみなさまをバックアップ。

- 成人病予防健診費用の助成(政管健保以外の医療機関での受診も助成)
- 職場のクラブ・サークルが対外交渉活動を行う場合、必要な経費の一部を助成
- 海外研修旅行の実施と、費用の一部を助成
- 永年勤続の方のリフレッシュのために、ご希望の旅行券、食事券などを贈呈
- 団体扱いで割安な、傷害保険や生命保険(年金タイプ)をご用意
- 大規模年金保養基地(グリーンピア)と泉郷「保養所システム」の利用割引など
- 「東京ディズニーランド」などのレジャー施設の利用料割引

がんばっています —各県支部活動—

これからの予定

○千葉県 シンポジウム
健康祭りの一環として、10月20日(日)午後1時より千葉勤労市民プラザでシンポジウム。テーマは「在宅」

○新潟県 講演会
11月26日(日) 新潟市保健福祉センターで、生いき介護講演会を行う。講演は、「共に豊かな人生を」

○福岡県 資格取得相談
10月12日(木) 福岡ファシヨニビルで開催される「福祉の職場説明会」(県人材センター主催)に、会員2名の相談員を派遣する。

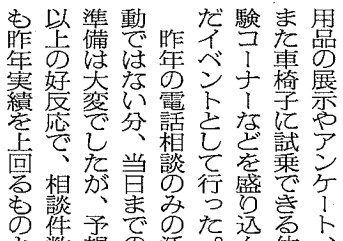
○東京都 学習会
10月20日(金) 飯田橋セントラルプラザで、回想法学習会を行う。講師は黒川由紀子氏(東京大学医学部勤務・臨床心理士)。

活動報告・全国一斉介護相談

◇東京都
全国一斉介護相談の1週間前に、東京都介護福祉士会は「95NO寝たきりデー」に賛同参加した。参加者は500名。

午前中は介護何でも相談で3名の相談を受けた。車椅子「簡単な家庭での消毒法」「退院後在宅生活をすることはどうすればよいかなど、初めての参加で緊張した。午後は、熊白衆議院議員と朝日参議院議員を迎えて、公的介護保険についての公聴会があった。参加者から多くの意見が出し、熱気を感じた。

終了後、参加者の方から「直接介護を行っている方たちが参加しているのを知って力強く思った」と言われ、市民の中に自分たちが



◇千葉県
千葉県では、会場を三つに分けて介護の日を展開した。特養をお借りしての電

ある方々との関わり方について「講師・高橋洋子氏(木戸病院言語療法士)、「生活の場で生きいき長生き」講師・坂本宗久氏(生活介護研究所代表)。

講師派遣 ホームヘルパー養成事業3級課程(県福祉人材センター主催)に、40名余の会員を講師として派遣する。

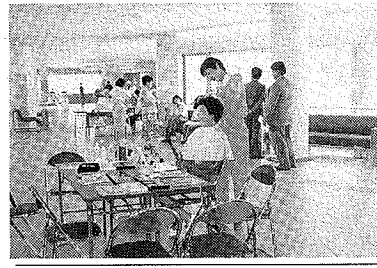
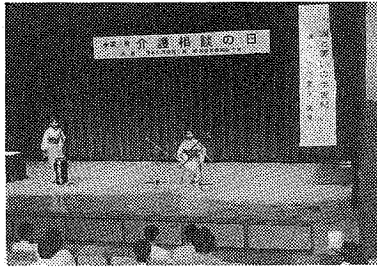
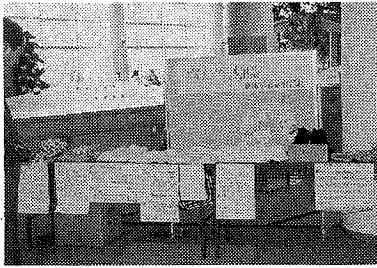
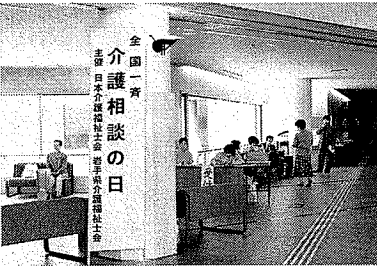
○大阪府
大阪府介護福祉士会では、電話、来所による相談に合わせて、映画上映に取り組みました。

パーキンソン病を描いて話題になった「レナードの朝」と、アニメ「ぼっちん朝」と、おぼあちゃん上映には、地域の方々をはじめ、遠方からも参加者がありました。相談は6県にとどまりましたが、せっぱ詰まった深刻な相談も寄せられ、反省会では、介護相談の取り組みを今後もっと強めていくことが大切だと話し合

◇香川県
香川県身体障害者総合リハビリテーションセンターを会場に介護機器の展示、介護実技講習、書籍販売や住宅改造相談などを合わせた。

◇宮崎県
宮崎県介護福祉士会では、県内3地域で、それぞれ「介護の日」行事を実施した。

岩手は写真で報告



◆至誠ホーム国際フォーラム◆ 日本におけるグループホームの可能性を探る

至誠ホームでは、痴呆性高齢者を対象としたグループホームの試行をしています。その実践報告と、北欧フィンランドでの新しい方向を学ぶことにより、日本における高齢者施設ケアの方向性を探ってみたいと思います。

▽日時 12月13日(水) 午前9時50分~午後4時
▽会場 アミュー立川(立川市市民会館)大ホール
▽参加費 6000円(資料・昼食代含む)
▽問い合わせ 至誠ホーム「国際フォーラム」実行委員会
TEL0425-2-0031 FAX0425-27-2646 担当:旭、鈴木

◆実践ケースマネジメント研究会 ◆日英ジョイントセミナー◆

平成9年実施(予定)の公的介護保険の具体的内容は、保健・医療・福祉制度の似ている英国型になることがほぼ予想されています。当研究会では、英国から6名の講師を招き、ケアマネジメントの「歴史」「背景」「現状」の全てを学び、日本の状況と合わせて意見交換を行うジョイントセミナーを計画いたしました。

▽開催地と日程
東京セミナー 11月26日(日) 東京海上火災(株)東京本社
大阪セミナー 12月2日(土) 東京海上火災(株)大阪支社
▽定員 各200名
▽参加費 15000円(資料代含む)
▽申し込み 氏名、職種、参加会場を明記の上、往復ハガキで。
〒211神奈川県川崎市中原区小杉町1-396
日本医大第二病院リハビリテーション科
実践ケースマネジメント研究会代表世話人 竹内 孝仁

介護福祉士向け専門情報誌

季刊 介護福祉

購読料(年) 3,440円(送料含む)

財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目5番6号
SEMPOSビル Tel(03)3486-7511

専門性が支える介護福祉の充実のために

この資格に対する社会の期待も日増しに大きくなり、介護福祉士は、この期待に応えるべく、理念と資質の向上に努力することが責務であると考えます。この季刊介護福祉は介護について徹底した解説と具体的な介護行為を解説するほか、介護に関する最新情報をお届けしております。

購読申込みは、日本介護福祉士会事務局又は、各県介護福祉士会へお申込み下さい。

日本介護福祉士会

日本介護福祉士会倫理綱領

前文

私たち介護福祉士は、介護福祉ニーズを有するすべての人々が、住み慣れた地域において安心して老いることができ、そして暮らし続けていくことのできる社会の実現を願っています。

そのため、私たち日本介護福祉士会は、一人ひとりの心豊かな暮らしを支える介護福祉の専門職として、ここに倫理綱領を定め、自らの専門的知識・技術及び倫理的自覚をもって最善の介護福祉サービスの提供に努めます。

(利用者本意、自立支援)

1. 介護福祉士は、すべての人々の基本的人権を擁護し、一人ひとりの住民が心豊かな暮らしと老後が送れるよう利用者本位の立場から自己決定を最大限尊重し、自立に向けた介護福祉サービスを提供していきます。

(専門的サービスの提供)

2. 介護福祉士は、常に専門的知識・技術の研鑽に励むとともに、豊かな感性と的確な判断力を培い、深い洞察力をもって専門的サービスの提供に努めます。

また、介護福祉士は、介護福祉サービスの質的向上に努め、自己の実施した介護福祉サービスについては、常に専門職としての責任を負います。

(プライバシーの保護)

3. 介護福祉士は、プライバシーを保護するため、職務上知り得た個人の情報を守ります。

(総合的サービスの提供と積極的な連携、協力)

4. 介護福祉士は、利用者に最適なサービスを総合的に提供していくため、福祉、医療、保健その他関連する業務に従事する者と積極的な連携を図り、協力して行動します。

(利用者ニーズの代弁)

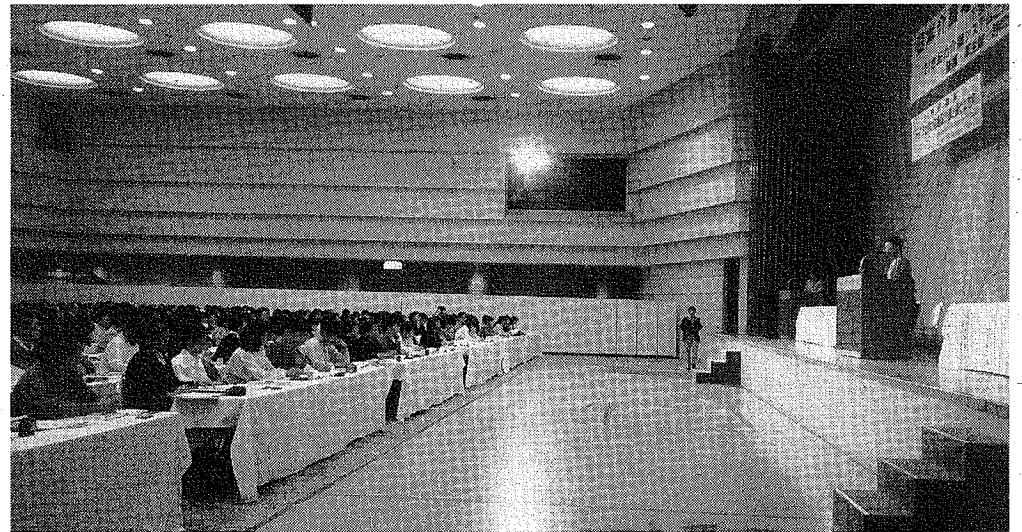
5. 介護福祉士は、暮らしを支える視点から利用者の真のニーズを受けとめ、それを代弁していくことも重要な役割であると確認したうえで、考え、行動します。

(地域福祉の推進)

6. 介護福祉士は、地域において生じる介護問題を解決していくために、専門職として常に積極的な態度で住民と接し、介護問題に対する深い理解が得られるよう努めるとともに、その介護力の強化に協力していきます。

(後継者の育成)

7. 介護福祉士は、すべての人々が将来にわたり安心して質の高い介護を受ける権利を享受できるように、介護福祉士に関する教育水準の向上と後継者の育成に力を注ぎます。



介護の実践一堂に

11月17日～18日、熱海で開催

第2回全国研修会に641名

日本介護福祉士会第2回全国研修会が、去る11月17日(金)・18日(土)の両日、静岡県熱海市のニューフジヤホテルで開催された。

規範となる倫理綱領を発表

当日は、小春日和の好天に恵まれ、汗ばむほど。参加者は、会員40名、一般14名、学生3名の計47名。来賓として、静岡県支部設立を目指す沖繩県からも2名が参加した。

昨年の兵庫県宝塚市で開催された第1回研修会の80人には及ばなかったが、これもブロックで開催されてきている研修会が充実してきているためと考えられている。予定通り午後1時から始まり、来賓の石川嘉延静岡県知事(代読)、江崎千代子(代読)のあいさつに続いて、厚生省社会援護局施設人材課長柴田雅人氏の「介護福祉士に期待する」

と題した基調講演があった。柴田課長は「やがて、各施設やケアサービスで提供される介護職員のうち何割かは介護福祉士でなくてはならない」といふことを述べ、そのために、より質の高い介護の提供に日々心がけて欲しいと激励された。

その後、日本介護福祉士会からかねてより検討されていた会の倫理綱領の発表があった。(別掲) 日本介護福祉士会は今後社会的使命を自覚し、行動の指針とする中で、専門職団体の活動を強めていくこととなるだろう。

1日目の午後からは、ドイツからこの研修のために招待した高齢者センター、ヴェルヘルム・ランテルマン・ハウス」の施設長、フィッシュ・マーリス氏による講演。ドイツの老人ホームにおける日常の様子を大変具体的に話したが、同時通訳設備のない会場だったため、聞き取りにくい部分も多く、「残念だった」の声もあった。

夜は懇親会も露天風呂に花咲いていた。2日目の分科会では、平成9年から始めると報告されている公的介護保険を視野に入れながらの討論や研究発表も多く、また、発表者たちもスライドやOHPなどを使いながら、良いケアの具体的なところを的確に発表していたことが印象的であった。

「来年、第3回の全国研修会が富山県で会いましょう」との実施県の静岡県介護福祉士会小栗会長の閉会の言葉を最後に、参加者たちは学んだことを翌日からのケアにどう生かすかを胸に、各地へ帰っていった。

特別講演(要旨)

ドイツにおける施設介護と新たな方向

ヴェルヘルム・ランテルマン・ハウス施設長
フィッシュ・マーリス氏



私たちの高齢者センター・ヴェルヘルム・ランテルマン・ハウス(以下センターという)は、アルバイター・ヴォルフフォート(日本語訳「労働者福祉団」)略してAWOが運営しています。AWOはドイツに6つある民間福祉組織のひとつで、1909年に設立され、「相互の連帯」と「自助のための支援」がモットーです。センターは、それぞれ異なる機能を持つ高齢者アパート、老人ホーム、介護老人ホームの3つの部門から成り立っています。

高齢者アパートは、キッチンとバスルーム付きの単身者住居です。老人ホーム

▽公的介護保険導入に向けて、高齢者要介護度試験やAIDによる入所者の分類などで介護度を出すようなので、さっそく試みた。▽いずれも、排泄の後始末で振り分ける。現場での排泄場面を描いてください。排泄をするまでの前段階で、足の元(ふらつき)のある方を、転ばないように見守り、あるいは手を添えてトイレまで誘導する。当然残存機能の活用をしようとする意志の尊重である。▽実際はかなりの時間がかかり、精神的にも負担となる。前介助でオムツの方が介護度は少ないように思う。痴呆重度で徘徊があり、一時も目を離せず、毎日振り回されているが、この方は、排泄だけはきちんとできるの

で、試験で介護度を見ると軽度になる。チェックをしているうちに自立を覚えてきた。▽介護保険では、介護度を幾つかの段階に分けて支払われるのですが、その分け方が実際の介護度に見合うものであつてほしい。科学的分析の上での介護度であると聞いています。が、実際の現場感覚では納得しがたい。ひと口に見守りといっても一人ひとり違う。そういう違いを、現場から声を出してみようではありませんか。▽日々の介護の中から、実際に見合う介護度を出すにはどうしたら客観的に分かるか、フロアチャートやスケール表を考えて見ませんか。(祥)